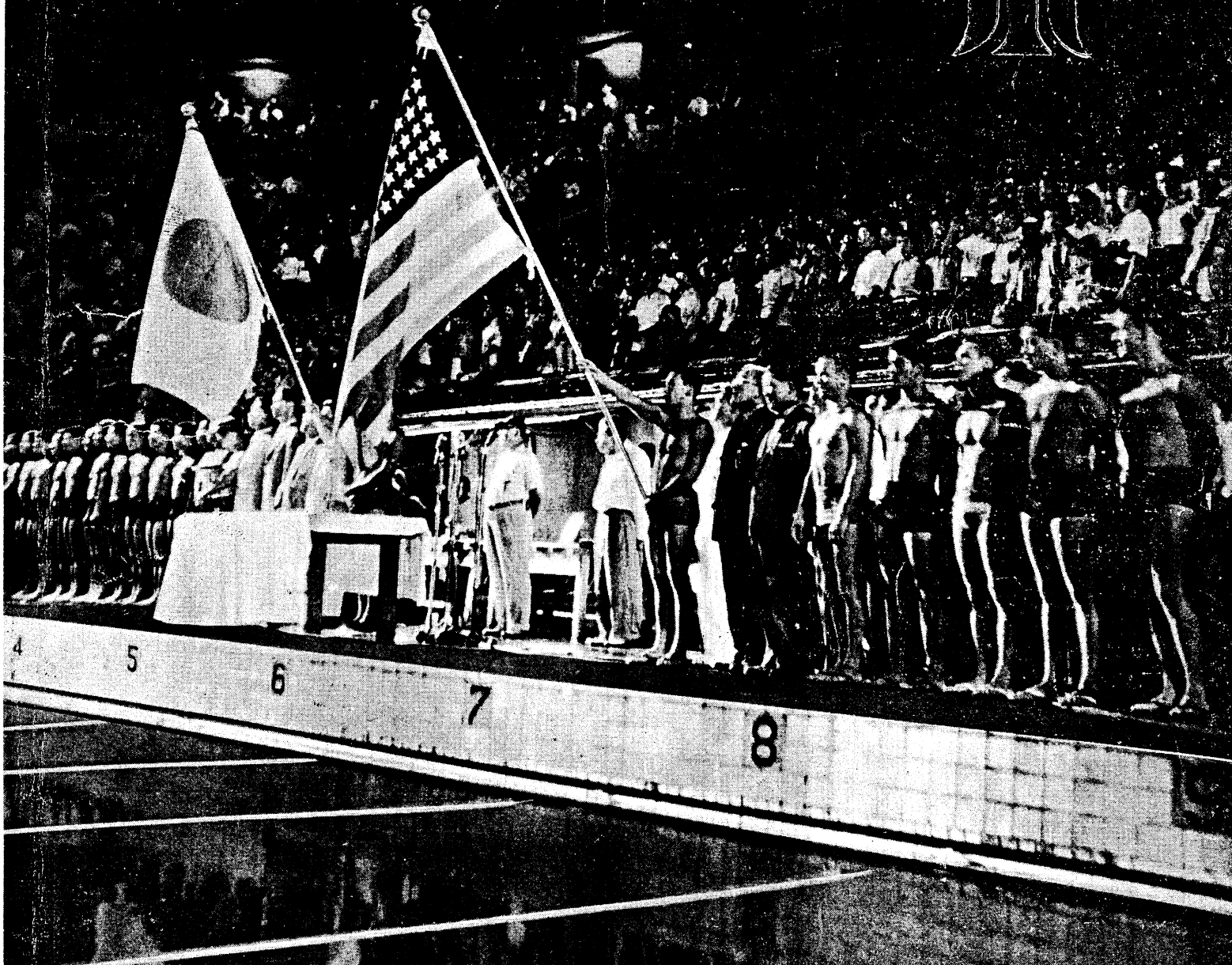
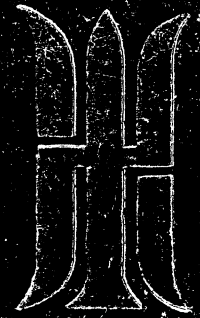


日本水泳連盟  
機関紙

# 水泳

第 1 0 7 号  
昭和 30 年 11 月



No. 107

“S U I E I”

November 1955

NIPPON SUIEI RENMEI (Amateur Swimming Federation of Japan)

# 世界記録

# 日本記録

## 男子

100米自由形  
R. クリーブランド アメリカ 54.8 ニューヘブン 25米 54

200米自由形  
J. ウォードロップ イギリス 2:03.4 " 25碼 55

400米自由形  
F. H. コンノ アメリカ 4:26.7 " 25碼 54

800米自由形  
F. H. コンノ " 9:30.7 ホノルル 100碼 51

1500米自由形  
古橋広之進 日本 18:19.0 ロサンゼルス 50米 49

100米背泳  
G. ボゾン フランス 1:02.1 トロイ 25米 55

200米背泳  
G. ボゾン " 2:18.3 アルチエール 25米 54

100米平泳  
M. ペトルスピツク ポーランド 1:09.8 ヴロクラー 25米 54

200米平泳  
古川 勝 日本 2:33.7 神宮 50米 55

100米バタフライ  
A. ウィギンス アメリカ 1:01.5 ニューヘブン 25米 55

200米バタフライ  
長沢二郎 日本 2:21.6 目白 25米 54

800米リレー  
エール大学 アメリカ 8:29.4 ニューヘブン 25米 52  
(W.ムーア・J.マツクレーン・D.シエフ・R.トーマン)

400米メドレーリレー  
日本チーム 日本 4:15.7 大阪 50米 55  
(長谷, 古川, 石本, 古賀)

## 女子

100米自由形  
W.デンオウデン オランダ 1:04.6 アムステルダム 25米 36

400米自由形  
R. ベーガー デンマーク 5:00.1 コペンハーゲン 25米 40

100米背泳  
C. キント オランダ 1:10.9 ロツテルダム 25米 39

200米平泳

100米バタフライ  
A. フールビイ オランダ 1:13.7 ナルデン 25米 55

400米リレー  
洪牙利チーム ハンガリー 4:24.4 ヘルシンキ 50米 52  
(I.ノバク, J.テムス, E.ノバク, K.ツオウケ)

400米メドレーリレー  
和蘭チーム オランダ 5:00.1 パリ 50米 55  
(アルフエン, ブルインス, フールビイ, バルケネンデ)

## 男子

谷 訥 日本 56.4 天理 50米 55

鈴木 弘 日大 2:06.8 神宮 50米 52

古橋広之進 日大 4:33.0 甲子園 50米 48

古橋広之進 日大 9:35.5 ロサンゼルス 50米 49

古橋広之進 日大 18:19.0 " 50米 49

長谷 景治 早大 1:05.8 瀬高 50米 55

長谷 景治 日本 2:25.2 神宮 50米 55

木村 基 日本 1:10.4 大阪 50米 55

古川 勝 日本 2:33.7 神宮 50米 55

石本 隆 日大 1:03.4 " 50米 55

石本 隆 日大 2:23.8 " 50米 55

日本 8:33.5 ヘルシンキ 50米 52  
(鈴木, 浜口, 後藤, 谷川)

日本 4:15.7 大阪 50米 55  
(長谷, 古川, 石本, 古賀)

## 女子

神野 眸 天理大 1:09.0 天理 50米 55

佐藤 嬉子 五条高 5:28.2 神宮 50米 54

森前みどり 伊都高 1:21.6 " 50米 53

坂本 和子 五条高 3:01.4 " 50米 52

寺垣内達代 帝塚山学園 1:22.6 " 50米 55

奈良県 4:44.0 天理 50米 54  
(田村, 宮部, 佐藤, 新子)

大阪府 5:31.8 " 50米 54  
(森前, 青木, 浦畑, 山下)



# “水 泳”

## 目 次

第107号  
昭和30年11月

今年の水泳界を省み、明年のメルボルンを期待する .....	田 畑 政 治 .....	( 2 )
日米対抗水上競技大会 東京大会 .....	小 池 礼 三 .....	( 3 )
〳    大阪大会 .....	庄 野 英 二 .....	( 4 )
〳    マネージャーの話 .....	古 橋 広 之 進 .....	( 6 )
〳    大会雑感 .....	清 水 康 男 .....	( 7 )
〳    東京大会記録 .....		( 9 )
〳    大阪大会記録 .....		(14)
〳    高知大会記録 .....		(16)
〳    八幡大会記録 .....		(17)
〳    呉大会記録 .....		(18)
〳    奈良大会記録 .....		(19)
〳    名古屋大会 .....		(20)
米チームに対するアンケート .....		(21)
全米戸外選手権記録抜萃 .....		(23)
日米両国代表選手 .....		(24)
日米対抗水上競技大会特集写真 .....		(25)
交歓競技大会雑感 .....	根 上 博 .....	(33)
日米対抗水上に参加して .....	太 田 光 雄 .....	(35)
日米チームと地方を巡つて .....	伊 藤 謹 平 .....	(36)
日米対抗飛込競技所感 .....	柴 原 恒 雄 .....	(37)
全日本選手権水上競技大会を観て .....	藤 田 明 .....	(38)
インターカレッジ感 .....	小 池 礼 三 .....	(39)
モスクワ招待室内水上競技大会記録 .....		(39)
高校大会見たまま .....	勝 村 肇 .....	(40)
第10回国体水泳競技記 .....	白 山 源 三 郎 .....	(41)
第1回全日本中学校水泳通信競技大会 .....	金 田 平 八 郎 .....	(42)
万国青年祭記録 .....		(44)
スモル氏の水球解説 .....	和田幸一, 金子 巍 共編 鵜田 武, 安藤 実 .....	(45)
シンクロへの歩み .....	高 橋 清 彦 .....	(49)
スポーツ競技としてのシンクロについて .....	串 田 正 夫 .....	(50)
指導者講習会と検定試験に就いて .....	多 治 見 裕 孝 .....	(51)
定例代議員会議事録 .....		(54)

# 今年の水泳界を省み

## 来年のメルボルンを期待する

田 畑 政 治

今年の水泳日本の躍進は実に目覚ましいものがある。宮崎、北村、小池君等中学生の出現で、高石、石田君等の揺籃時代から脱却して、一挙に日本を世界第一流のスポーツ国に押し挙げたロスアンゼルスオリンピック大会の前年に彷彿たるものがある。各種目第一位の記録を見ても、1,500米が昨年に比し僅に0秒2及ばなかつただけで、他は全部大幅に上まわっているし、10傑、20傑、更に50傑を見てもその向上は驚くべきものがあり、水泳日本の基礎工事は、まさに完成したといつても決して過言ではないと確信する。水泳日本の因縁付きの弱点といわれる400米でさえ、50位まで5分を切つていて、こんなことは世界のどこの国にも絶対ないことで、今度こそ、ポアトゥ、コンノの生れる素地は充分出来ている。我々の念願はメルボルン・オリンピック大会でロスアンゼルスオリンピック大会の盛事を再現するにあるのだが、この強い基盤の上に立つて、もう一奮発すれば、これは決して夢には終らないであろう。幸にオリンピック大会の運命を制するといわれる日米対抗競技大会にも完全に圧勝して、オリンピック優勝街道は既に拓り開かれたのであるから、今後は、水泳日本が一団となつて、ゴールに向つて驀進あるのみである。

オリンピック大会における男子競泳の種目は今更いうまでもなく、100、400、1,500、800リレー、100背泳、200平泳、200バタフライの7種で1種に3名ずつ但し今回に限り、平泳とバタフライは両種で3名ということになつていたので、現在では私の考えは100、400、1,500背泳各3名ずつ、平泳バタフライが3名、別にリレーの専門要員2名合計17名で男子競泳の日本代表団を組織する積りであるが若し200米で100米出場の3名よりも、又は400米出場の3名よりも強い者がそれ以上いる場合はリレー専門の要員を4名にする場合も考えている、そうならば19名になるわけである。100米では谷君が今回の日米対抗で所謂部屋横綱から本場所の横綱になつたことは本年における非常に大きな収穫で、この陣営が著しく強化された。鈴木君がヘルシンキ当時より身体がよ

くなつていのは心強い限りで、これに古賀君を加えての100米のスタフは遊佐、新井、田口等のベルリン大会の100米のスタフに優るとも劣らぬものがあると思う。アンサンス記者の情報に依つても、欧州では水泳はそれほどの躍進は見ず、100米ではハンガリーのニエキだけだといつていたので、濠州のヘンリンクスと日本の3人、それに米国とニエキで優勝が競われるが3名揃えているといふことは何といつても強みである。更に欲をいえば、清水(立)、東野(中)、浜島(中)、菅(日)君等と鈴木(英)、川岡、坂井、増田君等の高校生から2、3人この陣営に加わることが出来れば100米と800米リレーは一段と優勝の確率を増すであろう。400米で庄司、大野君等が4分36.7秒までできたことは心強い限りで、あと、3.4秒縮め得れば、優勝も決して不可能ではない。この種目では山下君の再起を望むや切なるものがある。1,500米での大野君の出現はこの種目の優勝の確実性を著しく強めたが、更に高校生の山中、池尻、金谷、八木、坂梨君等が2、3名加われば優勝を不動のものにするだろう。この種目では新宅君の再起を望む、背泳の長谷君が5秒台に入つたことはこの種目でも国際的第一線に踊り出たわけで、優勝も高嶺の花ではなくなつた。富田、二宮君等の高校生と加え、メルボルンには華々しい活躍が期待される。長沢君によつて世界の最高線まで踊り出たバタフライは石本君に依つて更に一段の強みを増した。古川君の平泳は本年度に於る世界最大の収穫で身体を害さない限り、メインマストの日の丸は動かぬ所であろう。こう見てくると、一つとして優勝不可能のものはない。どの種目にもチャンスはある。更に一奮発せざるを得ない所である。

女子競泳は今の処、未だオリンピックに行く処まで達していない。余程、努力しない限り、今回は見送りという可能性が頗る強い。ロスアンゼルス以来、必ず参加して来ており、平泳では前畑さんが優勝した伝統を持つこの女子競泳がオリンピックに一人も参加しないとあつては恥である。敢て奮起を要請する所以である。

# 日米対抗水上競技大会

## 東京大会

小池 礼三

日米対抗の選手決定に当つては両国共それぞれの選手権大会が7月20日過ぎに期を同じくして行はれ、その結果日本とアメリカの力のバランスはその当時に於いて日本が稍々有利ということは両方の選手権大会に示された記録がはつきりそれを物語っている。しかし日本としては選手権で示された有利位では第3回の日米対抗、ヘルシンキと続けて喫した苦杯からして決して安心出来るものでなくむしろアメリカのバタフライの進歩の速さ、コンノ、ウルジーの中距離陣の充実、決して軽視出来ない長距離陣という様に見て来ると矢張りアメリカ強しの感が強かつた。このアメリカチームを迎えて如何にレースを展開するかというそれは選手権迄の疲労を完全にいやしその次に来る練習はそれによつて実力を大巾に向上させるという様なものでなく、除々に練習を行いレースにトップレベルを合せるという以外には考えられないので選手権終了の翌日箱根に行き丸2日間緑の山を見乍ら気分的なものと同体的な疲れをとり除くことにした。この考えはづい様ではあるがアメリカが飛行機で飛んでいる間丈でもホームグラウンドの利を生かすという意味で有効な行動であつたと思う。選手権後の疲労からくる若干の胃腸障害又は外耳炎等の故障は出て来たがこれも早目に処置することが出来たし、選手達の目方も尠くとも五百匁以上は取り返すことが出来た。又この小旅行では暑さを離れ度い気持から箱根についたら一雨欲しいといえはその通りになり、又東京に帰るときにはスコールの様な夕立でみんなで話し合つていた通りになり御弊をかつぐわけではなかつたが幸先よい気持のよい旅行であつた。日本に到着したアメリカチームはキツパス監督の下に早速練習を開始し、それも相当強いもので刻々と情報が入りパターンソン等何度も56秒台を出しその他の連中も調子を上げている様子でこんな状態ではじめからの予定行動とはいへ当時の日本チームの調子と比べて多少不安も起り何か大

きな山をはつているという感じを深くした。日本チームとしては短距離が普通の出来、長距離では大野丈が堅調を続け、庄司も好調の様に見受けられた。平泳は別としてバタフライで長沢が耳を痛めていたことは頭痛の種であつた。長谷は依然として練習中はよいタイムを出さない、こんな調子で第1日を迎えることになつたがどうしたわけかそれ程の不安感はなくレースになれば相当よくなる確信はあつた。今度の合宿で特に強調したことは今度丈は何んとしても勝たなければならないということでこのことに関しては何れも機会を捉えて古橋、太田君等と共に選手にいきかせ選手の行動もそれを反映してかよく自重していた様に見受けられた。

一番心配したのは最初のレースである200米自でコンノ、ウルジーの堅陣を破ることになれば今度の日米の見通しは簡単にいくが3等丈では困難な前途になると思つた。あとから考えて今少しペースのもつて行き方に注意すべきであつた様にも思えるが、あの時としては初ツばなのレースでは所詮はあがるしそれに普通ではコンノ、ウルジーが強いと思われたので、3人共前半から飛ぶ様にいつてそのうち誰か1人最後までもてば予想以上の結果が生れると思つたが矢張りコンノ、ウルジーに最後でやられる結果になつてしまつた。然しこの結果で心強く思つたことは日本の短距離の連中が3人共そろつてよい調子を持つているということであつた。1500米では大野は動かないとして庄司の好調に期待をかけたが伏兵グリーンに2位をとられ、ここでもチャンスをつぶすことになつてしまつた。ブレストは日米の力の差が問題にならないとしてもこれ丈で12—0という決定は貯金を持つている様な安心感をみんなに持たせてくれた。背泳は矢張りレースに強い長谷の健斗でよく3点を稼ぎ、ブレストとの相殺をカバーしてくれたと思つている。バタフライのアメリカの急速な進歩にはこの際全くあてが外れたという感が深く、

点の上では日米の差が戦前の予想より逆に現れたことになってしまった。800米は1500米と同様な結果になったが、あの時コンノが一度庄司に抜かれ乍らもラストで又抜きかえたということは一寸常識では考えられないことで、ここでは庄司のことよりもコンノの心構えを激賞して差支えないと思う。

リレーは400と400のメドレーでほんの少し日本が良いと思っていたが、その通りの差で勝つたことは引つぎターン等のことを考えるとよくやつたと思えるし得点差をつけることによく作用していた。一番最後に勝利を決定させたものはなんといつても400で庄司、大野がコンノに続いて2,3位を確保したことで今迄この種目はよくして3位と思われ、全く日本の不得手としていた丈に5:1又は6:0の差を余儀なくされることをよく3:3の対に持ち込んだ時は、気がゆるんだり、油断してはいけないと思つて強いて押えてはいたが、全く嬉しかった。余勢をかつて互角であつた800リレーを勝ちリレーを完勝し、どの種目にも0点ということがなく、漸く勝つことが出来たが、これはアメリカが弱いということではなく、日本の選手の気力が上廻つていたこととホームグラウンドの利を生かしたことでレースの3日間を通じて調子が尻上りになつてきたことが原因だと思ふ。今度の日米では今迄ロスアンゼルスオリンピック当時使用して以来試みなかつた酸素吸入をやつて見た。田畑会長から話があり、樋口さんを通じて慈恵の杉本先生に相談したところ、はつきりしたデータは未だないがよい結果は出るようだとのお話だつたので、それな

らよいと思われることは何んでもやつて見ようということになり、ひそかに使つて見ることにした。

このことについて後日大阪大会との比較によつて批判もあつた様だが、私達は進歩的なものはよくわからないとしても尠くともあの場合心理的な効果は大いにあつたと思ふし、今後も出来れば今一步研究をすすめてもらつて事実によいものなら、準備した方がよいと思つている。第一東京大会と大阪大会を他の条件を考えずに酸素吸入のよしあしと結びつけることはよくないと思ふ。今度の日米を勝つことが出来て、過ぎてしまえば当然のことのようにも思えるが、今度は選手がその気になつたから勝つたのであつてそれ以外の何物でもない、代表選手は勿論のこと、その他の選手でもこの際やればやれるんだという自信をはつきり持つてよいと思ふ。そして次のオリンピックにはもつと日米をはるかに上廻るやる気を起して貰ひ度い。今後やる気のレベルを大いに向上して貰ひ度いと思つている。

最後に一つ苦言を呈したい。練習中頑張つた練習せずにレースになれば何んとか出すというやり方だが、これは必ず限度というものがある。レースは一定線の記録を破ればよいというものではない、必ず順位をつけなければならない激しい競技である、一つの目安がついたら直ぐ次の目安をつけてそれに向つて、あくことなき追求を余儀なくされることが競技人として義務であり、それを行うことによつて誇りを持ち得るのである。

## 大阪大会

庄野英二

「大阪へ行けば野球場のように大きいプールがある。そのプールで泳ぐだけでも日本へ行つたねうちがある。」とキツパス監督は選手達に語つていた。これは何も私が直接聞いたのではない。田畑会長の閉会式の時のあいさつの中の言葉だ。私は2万の観衆の中の一人としてこれを聞いただけである。

8月13, 14日。2万の観衆がそのデツカイ、スタンドにつめかけて溢れてアドヴァルーンの如くふくれあがつた白、白、白の馬蹄型の御客席にかこまれてプールの水面は、ほたる草の花びらのように澄ん

だ色をたたえていた。煙の都のまん中に突如しんきろうの如く浮び上つた、さんご礁の入海であつた。

5時半、日米国歌を大阪市音楽隊が吹奏し両国旗を掲揚開会が宣せられた。正面役員席横にズラリと賞牌が並んでいる。ダットサントラックでは積みきれそうにない。もしこの賞牌をアメリカチームが独占すれば飛行機運賃が嵩むことだろうとノイローゼ気味になる。積載重量はかるくするためにもぜひ日本チームにがんばつて貰わねばなるまい。

トップは飛板飛込。ハーバー158.46, 毛利134.52

予定通りハーバーの勝ち、予定通りなんていえば失礼なのだが、これはキツパス氏の予定通りだから仕方がない、日本で飛込をシンクロナイズドと一緒にショウ的に考えて軽視する風習があれば、考えをかえねばいけないし、まだ未開創生の域になるものとするなれば急速に競泳の段階に迄引上げる必要がある。番外で津谷さんと弘世さんが出場したが、津谷さんなど磨きをかければオリンピック入賞の技術を持っているそうた。これは葉室氏から後で聞いた話である。

陽が沈みスタンドもやつと涼しくなりだした頃に200フリーのコースナンバーがアナウンスされた。3コース谷、4コースコンノ、5コース古賀、6コースウールシー、7コース鈴木、8コースアームストロング、スタンドが一ざわめき、やがて観客の視線がスタート台に定着された。東京大会では1位ウールシー、2位がコンノ、その後が鈴木、谷、古賀の順だ。東京で敗けているだけに気が楽だが大阪ではぜひ共勝返して貰いたい。まるで自分がスタート台にのぞむようにホイッスルがなると胸が鳴りだした。

ピストルが鳴った。6人の選手の身体が餌物に向つてかけだしたグレイブアウンド犬のように、しなやかにのびた。しなやかに見えるがロケット弾が地球を離れる瞬間の威力がある。

以下レース経過を葉室鉄夫氏の新聞記事を拝借して紹介しよう。(第一私の如き水泳のしろうとに観戦記を書かせるというのが間違っているからだ。)

谷、古賀が最初から猛烈にとぼし、古賀は百でコンノを2米はなし、ウールシーと鈴木は2米おくれで折返した。しかしまず谷が落ち150でコンノがグツと古賀に迫り180からスパートしたウールシーと三人が並行する大混戦となつたが、最後は古賀が巧妙なタッチで優勝した。3位迄が同タイムの大接線であつた。(毎日8月14日朝刊)

日米対抗を制するものは、オリンピックを制するというジンクスが、日米対抗前後盛んにいふらされていた。私が日本の優勝した200を見てまつ先に胸をついたのはこのジンクスであつた。オリンピックでも勝てると安心したのではない。全く反対なのだ。サカサマなのだ。こんなジンクスなんて全く当にならないものだ。伊勢の神風程度にしか信用出来ないものであることを痛感したのだ。

古賀、コンノ、ウールシー共2分8秒の同タイムである。度肝を抜かれたのはコンノとウールシーの追

いこみの気はくの烈しさだ。前半あれだけ遅れていて同着に持込むなんて離れ業は、底力のない選手には出来るものではない。ギアをいれたようにハイビッチに切りかえられるのだ。この力の根元は何であらうか、力強さ、たくましさ、しぶとさ、鉄筋コンクリートの頑丈さ、草食人種のコンプレックスかも知れないが日本が勝つていながら勝つたような気がしない。不安でたまらぬ。底力がアメリカにありながら運よく日本が勝つたという感じだ。日本が勝つたことをアナウンスで知つてやれやれよかつたというタメイキの出る勝ち方だ。こんな勝ちつぶりではジンクスもヘチマもあつたものではない。

その日の最後に行われたメドレーでもウイギンス、パタソンの追いこみは豪胆であつた。待避線を黙殺する機関車のエスプリがあつた。日米対抗を制する者はというジンクスをこそメルボルンを控えての忌み言葉としたい。

平泳だけは天晴れの貫録だ。潜水の木村が古川を押えて1分10秒の長水路世界最高でファンを喜ばした。大阪プールの水が天才河童に適しているらしいことが昨年以來立証された。東側スタンドに黄色い小旗をもつて陣どつた古川君の郷里橋本市の応援団にはお気の毒ではあつたが翌日にはスタート側に位置かえした橋本応援団に御礼返しをしている。故郷に天晴れの錦を飾つたわけである。逐一競技経過を書く紙数も尽きた。又詳しいことは専門家が書かれるであろうし、当時の新聞で披けて頂くと一目リョウゼンである。

一番私にとって印象が深かつたのは最後の800リレーの時であつた。ラストの庄司では勝利が確定していた。田畑会長は東側のサイドを心持左肩を落しながら泳者について歩いていた。東京も大阪も輝かしい勝利に終つたのだ。スタンドの興奮をよそに田畑会長の視線は庄司のストロークをビートを迫り続けていた。

ひよつこり歩いていられる足どりに私はヘルシンキからメルボルンへの道程が感じられるようであつた。

(帝塚山学院水泳部長)

日米対抗の日も迫つた或日、突然私に日本チームのマネージャーを引受けて呉れないかと申し込まれた時は思わず驚いた。勿論それは私の如き若輩とその上過去に何の経験も持たない私に、その大役が引受けられようはずがない。再三お断りを申し上げたが、結局は思い切つてお引受けする事になつてしまつた。

さて、引受けてはしまつたものの自信はなし、それに相当の接戦を予想される日米戦、その後もどうしたらよいか全く苦しんだ。こうした時にこそ、先輩諸氏の御苦勞が身に泌みてわかる様な気がした。そうこうしている中に、合宿の日はやつてきた。

監督に小池さん、コーチに太田さんと決まつて、私の今迄の不安はけしとんだ。選手も予想していた様なベテラン揃いの15名、アメリカを向うに廻しても決してひけをとらない顔ぶれでほつとした。日本の選手の選考と同じ頃、アメリカ側のメンバーも発表された。

監督には幾多の経験をもつキツパス氏、選手にはベテランのコンノ、親川の主力と新鋭を交えて15名。マネージャーという仕事をよそに考えた場合、全く近來にない面白いレースだろうと思つた。然し、マネージャーの立場からするとこんなに苦しいレースは又とない。

選手の選考が決まつた翌日、水連の思いやりで、箱根で二日ばかり休養をとる事にした。選手は連日の健闘の疲れを愈す事と、チームとしての行動になれる為この二日間は本当に役立つ。役員も選手としっかり結びつく事に成功した。この間に日米戦への秘策と、準備を全く整えて、東京の合宿に入つた。

日本では初めての試みの(日本式の旅館をさけて)洋式のホテルに合宿をあてた事は思い切つた決心ではあつたが、それが日米戦に選手が気楽に闘えた一つの原因でもあつた。(従来は日本旅館で一部屋に数人づつ入り、文字通りの合宿であつたため、勿論よい事も沢山あつたが、一人でも具合の悪いものが出たり、不心得の者でも居るとそれが部屋全体の者に影響した。)

我々の合宿、山の上ホテルは町の中心の割には静かで、1フローアを殆ど借り切つた事と心配した食堂も外のお客と別だつた事が、選手に余り気をつか

わせずすんだ。始めの中は洋式にふなれな事と、暑さ、それに選手としての興奮が手伝つてか、寝れない人もあつた様だが、そうしたことは日を迫るにつれて一つ一つ解消されて行つた。練習も小池監督と太田コーチの科学的なデータと、選手各自の泳ぎと体質にそつてのスケジュールで予想以上の成果を挙げて行つた。

練習量は全日本選手権、即ち日米選考大会迄に充分つんでいるものとして以外に少く、要するに各人のフォームをくずさない程度の軽いものだつた。選手にとつては物足りない者もいて、もつと強い練習を望んでいた様だが、監督の指示に従つて泳ぎ過ぎない様に気をつけていた。それが体力の蓄積と、泳ぎたいと思う意欲をそそり、試合当日に大成果を収める結果となつた。

参考迄に合宿の日課を紹介すると、朝は7時30分に起床、7時45分からホテル玄関先で軽い体操、これを終えて8時から朝食、9時30分から11時迄練習、昼食12時、2時から3時30分迄午睡、4時30分から5時30分迄練習、夕食6時30分、就寝9時30分、消燈10時。

こういつたスケジュールにそつて、練習を続けて行つた。途中1人2人の病人も出たが、その外大した事故者もなく、従来に比べれば順調な合宿だつたといえよう。食事は日本食と洋食の中間であつたが、なるべく洋食のカロリーに力を入れて、ミソ汁、つけもの御飯以外の日本食をさける様にした。こうした思い切つた事も従来は余り例がなく、相当な研究を必要とした。でも効果は100パーセントであつたと思う。水泳という重労働、それに夏の暑さと合せてこうした食事方法は、習慣という事さえ考えなければ、最も理想的で今後も続けていつた方がよい様に思われる。

要するに今度の合宿で以前より大きく飛躍した点は、先に述べてきた様に、合宿に入る前に思い切つて休養に出かけ、人目をさけて充分に疲れをいやし、水から遠ざけた事、合宿を従来の日本式の旅館から、洋式に切換えた事、即ち練習から帰れば日本旅館と違つて自分の部屋で思う存分休養がとれた事、食事を洋食にした為、量を少くして充分カロリーをとつた事、その為余り胃に負担をかけないで、日本食の何倍のカロリーをとり体力的にプラスだつ



た事、監督、コーチが自信をもつて練習にあたつた事、通常ならば相当な接戦だし、アメリカチームは連日日本チームの数倍も練習をつんでいるのを見て、練習のペースを乱しがちだが、沈着に自信をもつて練習を運んでいつた事。

些少な事だが、こうした事と、選手が本当に監督を信じて勝たんが為に自覚して精進した事等が挙げられる。

私はこうしたチームの中で何一つお役に立つたとは思わない。唯若さで選手時代の事を思い浮べては皆んなについて行つた、時には相当邪魔になつた事もあるし、或時はこうした若さがマイナスになつた事もある。然し何とかして勝つ為に選手以上に真剣に考え続けた事もある。幸い選手諸氏の努力によつて勝つ事が出来たが、私は無力であつたにしろこのチームの一人であつた事を今も尚大きな誇りとしている。

東京大会の息づまる様な大接戦を思い浮べると今も尚胸のつまる思いがする。

## 第四回日米大会雑感

毎度の事乍ら忙しい旅でした。それに今回の米国チームは前回に較べて俄か仕立ての混成色がより強かつたために、正直に言つて行動上、統率上前回より余程手がかりかつた事はキツパスさんも認めていました。

しかし総体的に申して結果はキツパスさんの予想を上廻つて上出来であつた事は一にかかつて老監督の前にも増して統率指導との水ももらさぬ御膳立の良さであつたと思います。

「マネジャーとしての話」という御注文ですが、何もかも既に紙上その他で報導済みですので競技会の成績等を抜きにして、今回の経験に照らして将来改良した方がいいと考えられる事を中心として項目別に考えて見ましょう。

### 1. 旅行日程

田畑会長とも話した事ですが日程が余り詰められ過ぎている様でした。何分内地の交通機関がまだ余り良くありませんので、将来、飛行機で町から町へ安心して飛べる日が来るまでは試合数をせいぜい東京、大阪、呉、天理位に押えるべきではないでしょうか。東京大会直後の日光見物、大阪高知間の命が

東京大会を終つて体を休める暇もなく大阪大会、高知、八幡、呉、奈良、名古屋と全く目まぐるしい旅行だつた。東京を発つた後、大阪では疲れと暑さ、それに幾分大試合を終つた気のゆるみもあつてか、体の調子をこわした者もいたが、それでもすぐ回復して各地方大会とも優秀な成績を収めてくれた。地方に出ると兎角乱れがちの行動も、一、二を除いては選手として立派なものだつた。来年のオリンピックも今度の連中が主体となろうが、今年はこのチームワークと、勝つ為の意気を忘れてはならない。

今度の日米戦で、アメリカは手強い相手だという事もよくわかつた。特に地方に出たからのアメリカチームは、若い選手のものび盛りの者が多い事もあつて全くすばらしかつた。メルボルンではもつと強敵になると思う。

今年選ばれた選手諸氏は勿論、次を背負う若い選手ももう一ふんばりして、メルボルンでも又勝つて欲しい。

米チーム マネジャー 清水康男

けの空の旅、大阪—八幡—呉—大阪の汽車の旅等は選手の意気をすつかりソソウさせた様でした。人情として地方を廻つたら名所や観光地をなるべく多く見せたいのですが、見物もせいぜい箱根、奈良、京都位に止めるべきだと思います。氣候さえ良ければ何ともないのですが、日本の8月の湿度には皆んな参つて終うのです。一番気の毒だつたのは日航のスケジュール変更のため選手達の東京で自由に買物の出来る日がたつた一日しかなかつた事でした。

### 2. 宿舎、食事関係

日本式宿舎は絶対に避けるべきである事を痛感しました。日程の最後の箱根1泊程度を日本旅館にして、特に競技会を行う所ではどうしても純洋式の宿舎でないと具合が悪い様です。とにかく選手達の大部分が世馴れていない少年達の事ですから、従つて東京、大阪、奈良の宿舎は本当に条件完備で選手達一同有頂天でしたがその他の宿舎では生活様式の違いからどうしても幾つかずつの故障がありました。名古屋の場合も丸栄にさえいたらあの様な集団中毒にならず疲労度も軽くて振甫プールの成績もあんな惨めなものに終らずに済んだ事でしょう。それから

選手達が口を揃えていた事です。東京大会以後の地方旅行では何とかして日米選手が常に同宿出来る様にしたいものです。勿論予算の関係で難かしくもありましたが、米国選手はあくまで東京、大阪大会のみを OFFICIAL と考え、それ以後の競技会は親善大会と心得ておりますので日本の選手と交わる機会のみを求めているのです。

宿舎のサーヴィスに関しましては何処も満点でした。特に帝国ホテル新大阪ホテル、高知の山翠園、八幡の千草、奈良ホテル等至れり尽せりの涙ぐましいサーヴィスで選手一同の感激も大変なものでしたが、ここにも食事の問題があります。矢張り泳がなくてはならない所では簡単なものでも完全な洋食でなくてはならないとつくづく感じました。日本旅館に之を求める事は無理な事ですし、そうかといつてスキ焼の連続はキツパスさんに取つては恐怖の様でした。

### 3. プール施設関係

日本のプールはどれを見ても向うの選手達には驚異的でした。特に大阪、高知、天理の三プールには度肝を抜かれた様でした。キツパスさんに至つては始めて見た高知プールを世界一の競泳プール、天理を第二と称していました。高知は構造、夜間照明の点で、天理は特にスタンドとフィルターの点で。しかしどのプールにも準備上欠陥はありました。一番強く感じられた事は各プールとも選手の休養施設が不備で又プールサイドの選手席が不足であつた事です。あれだけの国際試合の事ですからその方面の留意がもう少し払われてもよいと思ひました。控室に選手の数だけ寝台と毛布を用意する事、大体控室はむし暑いスタンド下にありますので扇風器を4台位用意する事。男女別の洗面所のある事、洗面所に用紙を用意して置く事、選手の数だけロッカーとバスタオルを用意する事、プールサイドから控室まで直通インターフォンを設える事、キツキングボートを用意して置く事、等々一寸した注意で済む事です。あるプールでは下痢をしている選手が用使後用紙がなく数十分待たされ、又ある所では男女別便所がなく選手がどうしても入らなかつたり、又更衣室に若い婦人が世話役として配置され、その婦人がサイン帳片手に選手達を追いかけ廻すので選手が恥かしかつて着替えをせずウォーミングアップの時間をつぶして終つたり、色々な事がありました。

### 4. 随行役員の内、特に TEAM DOCTOR

旅行中一番うらやましかつた事は日本軍が完璧な役員陣を持つていた事でした。青年層の各コーチの親身も及ばぬ選手達の世話、古橋名マネジャーの献身的努力と選手達の掌握。キツパスさんは今回の日本軍の大勝の原因の大部分は之等日本軍役員スタッフに帰すべきだと繰り返して言っていました。それに較べて米軍の方は病後のキツパス老唯一人、それに私が微力乍らお手伝いしたのですが、前述の様に俄か仕立の寄合世帯の米軍は、とても二人の手の廻らぬ事が屢々ありました。勿論之はどのチームにも共通の遠征軍の不利条件です。そして JTB の佐藤氏が大阪以降つき切りの努力を払つて下さつた事は感謝に耐えません。因みに佐藤氏は選手達から「米チーム運輸、食糧大臣」の称号を受け旅行中ずつとこの方面を担当して頂き、その功績は特記すべきものがありました。残念乍ら犬山の集団中毒事件によつて食糧大臣の方は依願辞職をされて終りました。余談はさておき、こんな有様で米軍の方は役員が手不足だつたのですが、この解決策として次回から若い DOCTOR を一人随行役員に加える事が出来たらどんなにか助かりもし又安心も出来ると思ひました。医学部を出たばかりの若い先生で結構、学生時代に泳いでいた方であればなお結構、こういう方が一人米軍と行動を共にして下さつたら米軍を率いて唯一人で来る監督も本当に安心出来ると思ひます。東京では順天堂の東先生、大阪では城東病院の太田先生、その他の各転戦地でも必ず医師のお世話になり、その都度の連絡、おいで頂く迄の時間等大変手間取るものでした。兎に角毎日故障のない日はないので TEAM DOCTOR は是非考えねばならない問題でしょう。その他の事は東京での例の如く現役学生の英会話タン能な水泳部員に手伝つて頂く事によつて充分間に合うと思ひます。各地に於いてもこういう学生を2名宛位用意して頂けたら本当に助かると思ひます。

まだまだ色々な事がありますが紙数の関係で省略致します。最後に老齢病後に拘わらず前にも増して厳格にして親日家のキツパス監督の人格に心から尊敬の念を払うと共に世界運動史に前例が無い程緊密でありかつ美しい日米水泳界の関係が今後益々発展しメルボルンのオリンピックを始め今後永くオリンピックの覇権は日米両軍の頭上にかがやく事を祈りつつ稿を閉じます。

# 第四回日米対抗水上競技大会

8月	5日	6日	7日
気温	28.5°	30.5°	28.0°
水温	27.5°	28.0°	28.0°

明治神宮プール (50米) 公認

## 第一日

### 飛板飛込

在日米商工会諸所会頭

Y. J. Jonson Jr. 氏 寄贈

横山嘉純氏 製作



- |            |      |        |
|------------|------|--------|
| 1. D. ハーパー | アメリカ | 160.61 |
| 2. 馬場 豊    | 日本   | 135.98 |

### 200米 自由形

文部大臣 松村 謙造氏 寄贈

佐治 正氏 製作



- |                |      |        |
|----------------|------|--------|
| 1. W. ウールシイ    | アメリカ | 2:07.5 |
| 2. F. H. コンノ   | アメリカ | 2:08.4 |
| 3. 鈴木 弘        | 日本   | 2:09.0 |
| 4. 谷 訥         | 日本   | 2:09.2 |
| 5. 古賀 学        | 日本   | 2:09.8 |
| 6. D. アームストロング | アメリカ | 2:11.7 |

### 途中時間

	50米	100米	150米	200米
W. ウールシイ	29.4	1:00.8	1:34.9	2:07.5
F. H. コンノ	28.6	1:02.0	1:33.0	2:08.4
鈴木 弘	—	59.6	—	2:09.0
谷 訥	28.4	1:00.7	1:35.0	2:09.2
古賀 学	28.4	59.7	1:34.0	2:09.8
D. アームストロング	29.3	1:01.0	1:36.1	2:11.7

### 200米 平泳

日米協会会長

小松 隆氏 寄贈

加藤 土師萌氏 製作



- |                |      |                 |
|----------------|------|-----------------|
| 1. 古川 勝        | 日本   | (世界新)<br>2:33.7 |
| 2. 胡麻鶴 寿       | 日本   | (日本新)<br>2:39.2 |
| 3. 木村 基        | 日本   | (日本新)<br>2:39.8 |
| 4. C. ハーディン    | アメリカ | 2:47.0          |
| 5. R. マトソン     | アメリカ | 2:47.2          |
| 6. D. マツキンタイヤー | アメリカ | 2:56.5          |

### 途中時間

(大会新)

	50米	100米	150米	200米
古川 勝	33.5	1:11.9	1:52.5	2:33.7
胡麻鶴 寿	35.4	1:15.6	1:57.6	2:39.2
木村 基	34.4	1:14.7	1:57.8	2:39.8
C. ハーディン	35.8	1:15.6	1:57.6	2:47.0
R. マトソン	36.0	1:17.3	2:02.4	2:47.2
D. マツキンタイヤー	37.9	1:22.1	2:08.8	2:56.5

1500 米 自由形



日本放送協会会長  
古垣鉄郎氏 寄贈

宮地寅彦氏 製作

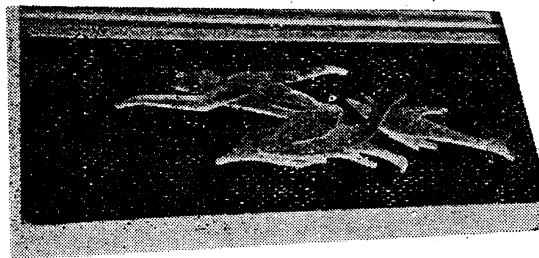
- |            |      |         |
|------------|------|---------|
| 1. 大野 司    | 日本   | 18:31.2 |
| 2. G. ブリーン | アメリカ | 18:38.6 |
| 3. 青木 行義   | 日本   | 18:53.4 |
| 4. G. オネケア | アメリカ | 19:05.2 |
| 5. 庄司 嘉宏   | 日本   | 19:12.8 |

途中時間

	大野	G. ブリーン	青木
100米	1:07.5	1:07.7	1:06.6
200米	2:19.8	2:21.3	2:19.7
300米	3:33.2	3:37.3	3:33.5
400米	4:47.5	4:54.2	4:48.9
500米	6:01.7	6:10.2	6:05.0
600米	7:16.9	7:25.9	7:20.6
700米	8:32.3	8:41.4	8:36.8
800米	9:47.6	9:56.9	9:53.4
900米	11:03.7	11:11.9	11:10.5
1000米	12:19.1	12:27.6	12:27.3
1100米	13:34.4	13:43.0	13:43.9
1200米	14:49.3	14:58.2	15:01.4
1300米	16:04.5	16:12.9	16:19.0
1400米	17:18.9	17:26.6	17:37.3
1500米	18:31.2	18:38.6	18:53.4

大野, G. ブリーン, 青木  
800米はいずれも正式計時

400 米 メドレーリレー



外務大臣  
重光 葵氏 寄贈  
蓮田 脩五郎氏 製作

(日本新)

1. 長谷, 古川, 石本, 古賀 日本 4:18.8
2. Y. オヤカワ, R. マトソン, A. ウイギンス,  
H. ギデオンス (国際新)  
アメリカ 4:22.4

途中時間

日本		アメリカ	
(日本新)		(国際新)	
長谷	1:06.8	Y. オヤカワ	1:05.7
古川	1:10.2	R. マトソン	1:15.8
石本	1:05.4	A. ウイギンス	1:03.5
古賀	56.4	H. ギデオンス	57.4
長谷	1:06.8	正式計時	
Y. オヤカワ	1:05.7		

第 二 日

高 飛 込

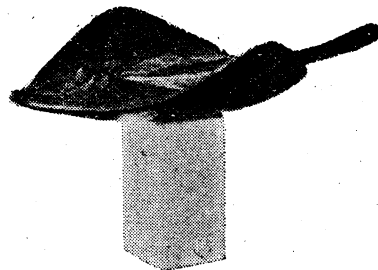


日本オリンピック後援会会長  
藤山愛一郎氏 寄贈

長沼孝三氏 製作

1. D. ハーバー アメリカ 138.25
2. 馬場 豊 日本 119.13

100 米 平 泳



民主党総裁  
鳩山一郎氏 寄贈

鈴木貫爾氏 製作

1. 古川 勝 日本 1:10.8
2. 胡麻鶴 寿 日本 1:11.4
3. 木村 基 日本 1:11.4
4. R. マトソン アメリカ 1:14.9
5. C. ハーデイン アメリカ 1:16.7

途中時間

	古川	胡麻鶴	木村	R.マトソン	C.ハーディン
50米	33.1	33.1	33.3	34.6	35.8

100米 背泳



自由党総裁

緒方竹虎氏 寄贈

信田洋氏 製作

- |             |      |       |        |
|-------------|------|-------|--------|
| 1. Y. オヤカワ  | アメリカ | (大会新) | 1:05.9 |
| 2. A. ウイギンス | アメリカ | (大会新) | 1:06.2 |
| 3. 長谷景治     | 日本   | (日本新) | 1:06.2 |
| 4. F. マツキニイ | アメリカ | (大会新) | 1:06.5 |
| 5. 黒佐清      | 日本   |       | 1:07.7 |

途中時間

	Y.オヤカワ	A.ウイギンス	長谷	F.マツキニイ	黒佐
50米	31.8	31.5	31.4	32.9	32.4

400米 自由形



日本商工会議所会頭

藤山愛一郎氏 寄贈

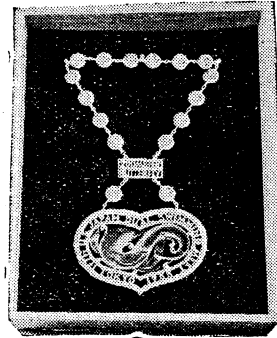
朝倉響子氏 製作

- |              |      |        |
|--------------|------|--------|
| 1. F. H. コンノ | アメリカ | 4:35.6 |
| 2. 大野 司      | 日本   | 4:37.4 |
| 3. 庄司 嘉宏     | 日本   | 4:37.4 |
| 4. W. ウールシイ  | アメリカ | 4:37.6 |
| 5. G. オネケア   | アメリカ | 4:38.2 |
| 6. 野田 芳郎     | 日本   | 4:41.9 |

途中時間

	F. H. コンノ	大野	庄司	W. ウールシイ	G. オネケア	野田
100米	1:03.6	1:05.2	1:05.2	1:05.1	1:05.4	1:05.1
200米	2:13.3	2:14.8	2:15.6	2:16.3	2:16.9	—
300米	3:25.2	3:25.6	3:27.2	3:29.1	3:30.2	3:29.7
400米	4:35.6	4:37.4	4:37.4	4:37.6	4:38.2	4:41.9

200米 バタフライ



日本体育協会会長

東 竜太郎氏

寄贈

海野建夫氏

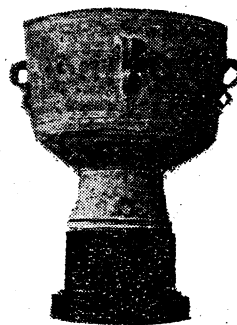
製作

- |             |      |       |        |
|-------------|------|-------|--------|
| 1. 石本 隆     | 日本   | (大会新) | 2:29.5 |
| 2. G. ハリソン  | アメリカ | (大会新) | 2:29.5 |
| 3. W. ヨルジツク | アメリカ | (大会新) | 2:30.0 |
| 4. 長沢 二郎    | 日本   | (大会新) | 2:30.0 |
| 5. R. マトソン  | アメリカ | (大会新) | 2:48.5 |

途中時間

	石本	G. ハリソン	W. ヨルジツク	長沢	R. マトソン
50米	31.6	31.2	31.3	33.7	34.0
100米	1:08.8	1:10.1	1:06.5	1:10.7	1:14.7
150米	1:48.6	1:50.6	1:45.4	—	—

400米 リレー



日本水泳連盟会長

田畑政治氏 寄贈

安原嘉明氏 製作

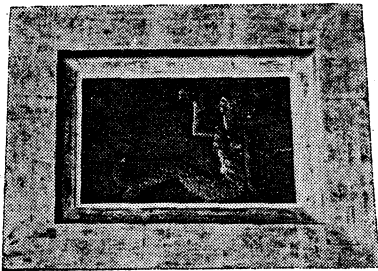
- |   |      |       |        |
|---|------|-------|--------|
| 1. 鈴木, 谷, 後藤, 古賀                            | 日本   | (世界新) | 3:46.8 |
| 2. D. マツキンタイヤー, W. ウールシイ, R. パタスン, H. ギデオンス | アメリカ | (世界新) | 3:47.6 |

鈴木	57.1(正式)	D. マツキン タイヤー	58.0(正式)
谷	56.2	W. ウールシイ	56.8
後藤	57.3	R. パタスン	55.6
古賀	56.2	H. ギデオンス	57.2

途中時間				
日本	57.1	1:53.3	2:50.6	3:46.8
アメリカ	58.0	1:54.8	2:50.4	3:47.6

第三日

800米 自由形



明治神宮宮司

鷹司 信輔氏  
寄贈

内藤 春治氏  
製作

(大会新)

1. 大野 司	日本	9:38.8
2. F. H. コンノ	アメリカ	9:43.3
3. 庄司 嘉宏	日本	9:43.5
4. G. ブリーン	アメリカ	9:48.6
5. 青木 行義	日本	9:49.3
6. G. オネケア	アメリカ	9:53.2

途中時間

	大野	F. H. コンノ	庄司	G. ブリーン	青木	G. オネケア
100米	1:06.4	1:06.2	1:06.1	1:06.7	1:07.3	1:07.8
200米	2:17.0	2:17.6	2:17.6	2:19.9	2:20.7	2:21.0
300米	3:29.9	3:30.1	3:30.4	3:34.6	3:34.8	3:35.0
400米	4:44.5	4:44.5	4:44.7	4:51.3	4:51.0	4:51.0
500米	5:59.1	5:59.8	5:59.6	6:07.2	6:07.0	6:07.6
600米	7:12.4	7:15.5	7:14.6	7:22.6	7:23.0	7:23.6
700米	8:25.7	8:32.0	8:30.3	8:38.1	8:38.3	8:40.2
800米	9:38.8	9:43.3	9:43.5	9:48.6	9:49.3	9:53.2

100米 自由形



東京都知事

安井 誠一郎氏 寄贈

雨宮 治郎氏 製作

1. R. パタスン	アメリカ	(大会新)	57.2
2. 古賀 学	日本	(大会新)	57.2
3. 鈴木 弘	日本		57.4
4. 谷 訥	日本		57.5
5. H. ギデオンス	アメリカ		57.8
6. W. ウールシイ	アメリカ		58.0

途中時間

	R. パタスン	古賀	鈴木	谷	H. ギデオンス	W. ウールシイ
50米	26.7	26.6	27.7	27.5	26.4	28.0

100米 バタフライ



厚生大臣

川崎 秀二氏 寄贈

大須賀 喬氏 製作

1. A. ウィギンス	アメリカ	(大会新)	1:02.9
2. 石本 隆	日本	(大会新)	1:05.6
3. R. ハリソン	アメリカ	(大会新)	1:05.6
4. W. ヨルジク	アメリカ	(大会新)	1:06.3
5. 長沢 二郎	日本	(大会新)	1:06.4

途中時間

	A. ウィギンス	石本	R. ハリソン	W. ヨルジク	長沢
50米	29.0	30.0	30.0	31.0	31.0

200米 背泳



John. M. Allison

寄贈

米 国 大 使

of U. S. A.

山崎 覚太郎氏

製作

- (大会新)  
1. F. マツキニイ アメリカ 2:24.7  
(日本新)  
2. 長谷景治 日本 2:25.2  
3. Y. オヤカワ アメリカ 2:26.8  
4. 黒佐清 日本 2:29.0  
5. D. マツキンタイヤー アメリカ 2:41.6

途中時間

	F. マツキニイ	長谷	Y. オヤカワ	黒佐
50米	33.2	33.6	33.9	35.0
100米	1:09.3	1:11.4	1:11.3	1:11.3
150米	1:47.3	—	—	—
200米	2:24.7	2:25.2	2:26.8	2:29.0



秩父宮より  
寄贈の  
総合優勝盃

海野清氏 作

得点

800米リレー



内閣総理大臣

鳩山一郎氏 寄贈

高橋節郎氏 製作

- (大会新)  
1. 鈴木谷, 古賀庄司 日本 8:34.7  
2. A. ハリソン, D. アームストロング,  
F. H. コンノ, W. ウールシイ (大会新)  
アメリカ 8:37.5

途中時間

日本	アメリカ
鈴木 2:07.5(正式)	A. ハリソン 2:09.8(正式)
谷 2:07.9	D. アームストロング 2:10.7
古賀 2:09.6	F. H. コンノ 2:07.5
庄司 2:09.7	W. ウールシイ 2:09.5

	日本チーム	アメリカチーム
100米	1:01.4	1:03.5
200米	2:07.5	2:09.8
300米	3:07.0	3:12.3
400米	4:15.4	4:20.5
500米	5:14.9	5:21.5
600米	6:25.0	6:28.0
700米	7:27.4	7:27.6
800米	8:34.7	8:37.5

	日本	アメリカ
第一日	飛板飛込 0	2
	200米自由形 1	5
	200米平泳 6	0
	1500米自由形 4	2
	400米リレー 3	0
	小計 14	9
第二日	高飛込 0	2
	100米平泳 6	0
	100米背泳 1	5
	400米自由形 3	3
	200米バタフライ 3	3
	400米リレー 3	0
	小計 16	13
第三日	800米自由形 4	2
	100米自由形 3	3
	100米バタフライ 2	4
	200米背泳 2	4
	800米リレー 3	0
	小計 14	13
合計	44	35

# 日米対抗水上競技大会大阪大会

8月13日 14日  
 気温 28.6° 27.7° 大阪プール(50米)公認  
 水温 29.8° 29.2°

## 第一日

### 200米 自由形

- 古賀 学 日本 2:08.4
- F. H. コンノ アメリカ 2:08.4
- W. ウールシイ アメリカ 2:08.4
- 谷 訥 日本 2:09.6
- 鈴木 弘 日本 2:09.6
- D. アームストロング アメリカ 2:11.8

#### 途中時間

	古賀	F. H. コンノ	W. ウールシイ	谷	鈴木	D. アームストロング
50米	28.5	28.7	—	28.6	30.2	30.3
100米	1:00.8	1:02.8	—	1:01.0	1:03.2	1:04.5
150米	1:34.0	1:35.8	—	1:35.5	1:37.2	1:39.2
200米	2:08.4	2:08.4	2:08.4	2:09.6	2:09.6	2:11.8

### 100米 平泳

- 木村 基 日本 (日本新) 1:10.4
- 胡麻鶴 寿 日本 (日本新) 1:10.5
- 古川 勝 日本 (日本新) 1:10.6
- R. マトソン アメリカ 1:15.0
- C. ハーディン アメリカ 1:15.1
- D. マツキンタイヤー アメリカ 1:16.4

#### 途中時間

	木村	胡麻鶴	古川	R. マトソン	C. ハーディン	D. マツキンタイヤー
50米	32.8	33.3	33.0	35.7	35.8	36.0

### 200米 背泳

- F. マツキニー アメリカ (国際新) 2:23.0
- 長谷 景治 日本 (日本新) 2:25.5
- Y. オヤカワ アメリカ (国際新) 2:26.1
- 黒佐 清 日本 2:31.4

#### 途中時間

	F. マツキニー	長谷	Y. オヤカワ	黒佐
50米	32.5	33.6	33.3	35.6
100米	1:08.6	1:10.2	1:08.2	1:12.2
150米	—	1:48.2	1:46.4	1:51.6
200米	2:23.0	2:25.5	2:26.1	2:31.4

### 200米 バタフライ

- 長沢 二郎 日本 2:28.4
- 石本 隆 日本 2:29.2
- W. ヨルジツク アメリカ 2:29.4
- G. ハリソン アメリカ 2:32.4

#### 途中時間

	長沢	石本	W. ヨルジツク	G. ハリソン
50米	32.4	32.0	31.7	33.0
100米	1:09.2	1:09.3	1:08.8	1:11.8
150米	1:46.8	1:49.6	1:48.8	1:52.6
200米	2:28.4	1:29.2	1:29.4	2:32.4

### 1500米 自由形

- 大野 司 日本 18:36.7
- G. ブリーン アメリカ 18:43.8
- 青木 行義 日本 18:52.4
- 庄司 嘉宏 日本 19:02.2
- G. オネケア アメリカ 19:33.0

#### 途中時間

	大野	G. ブリーン	青木	庄司	G. オネケア
100米	1:07.0	1:08.6	1:08.0	1:08.8	1:08.7
200米	2:18.0	2:22.8	2:21.6	2:22.8	2:23.0
300米	3:31.5	3:38.4	3:37.0	3:37.6	3:38.5
400米	4:44.6	4:52.4	4:52.5	4:52.8	4:54.6
500米	5:58.1	6:11.2	6:08.2	6:08.4	6:11.6
600米	7:12.3	7:27.2	7:24.3	7:24.4	7:30.6
700米	8:27.2	8:43.0	8:40.0	8:40.5	8:49.3
800米	9:41.6	9:58.4	9:56.0	9:57.2	10:08.9
	(正式)	(正式)	(正式)	(正式)	(正式)
900米	10:56.7	11:14.2	11:12.0	11:14.2	11:29.3



1000米	12:12.8 (正式)	12:30.2 (正式)	12:27.6 (正式)	12:30.5 (正式)	12:50.4
1100米	13:29.7	13:45.4	13:44.0	13:45.8	14:11.0
1200米	14:46.5	15:02.4	15:02.4	15:03.4	15:32.4
1300米	16:04.2	16:16.4	16:21.0	16:21.6	—
1400米	17:21.2	17:31.0	17:38.4	17:42.8	18:17.3
1500米	18:36.7	18:43.8	18:52.4	19:02.2	19:33.0

### 400米 メドレーリレー

- (世界新)  
1. 長谷, 古川, 石本, 古賀 日本 4:15.7
- (世界新)  
2. Y. オヤカワ, R. マトソン, A. ウイギンス, R. パタスン アメリカ 4:16.7

#### 途中時間

	日本 (正式) (日本新)	アメリカ (正式) (国際新)
100米	1:06.5	1:04.8
200米	2:15.4	2:19.3
300米	3:19.6	3:21.3
400米	4:15.7	4:16.7

## 第 二 日

### 100米 バタフライ

- (国際新)  
1. A. ウイギンス アメリカ 1:02.7
- (日本新)  
2. 石本 隆 日本 1:04.4  
3. 長沢 二郎 日本 1:06.0  
4. G. ハリソン アメリカ 1:06.2  
5. W. ヨルジツク アメリカ 1:06.4

#### 途中時間

	A.ウイギンス	石本	長沢	G.ハリソン	W.ヨルジツク
50米	29.2	30.2	30.1	29.7	30.4

### 100米 自由形

- (日本対)  
1. 古賀 学 日本 57.0  
2. R. パタスン アメリカ 57.1  
3. 谷 訥 日本 57.4  
4. 鈴木 弘 日本 57.6  
5. H. ギデオンス アメリカ 58.4  
6. D. マツキンタイヤー アメリカ 58.9

#### 途中時間

	古賀	R.パタスン	谷	鈴木	H.ギデオンス	D.マツキンタイヤー
50米	—	26.2	27.7	27.2	27.6	27.4

### 400米 自由形

1. 庄司 嘉宏 日本 4:36.4  
2. F. H. コンノ アメリカ 4:36.8  
3. W. ウールシイ アメリカ 4:38.2  
4. G. オネケア アメリカ 4:41.0  
5. 野田 芳郎 日本 4:41.8  
6. 大野 司 日本 4:42.8

#### 途中時間

	庄司	F.H.コンノ	W.ウールシイ	G.オネケア	野田	大野
100米	1:04.4	1:04.0	1:04.6	1:06.7	1:04.7	1:05.0
200米	2:14.4	2:14.3	2:15.2	2:19.0	2:16.2	2:15.3
300米	3:26.8	3:27.3	3:28.4	3:31.1	3:30.2	3:28.8
400米	4:36.4	4:36.8	4:38.2	4:41.0	4:41.8	4:42.8

### 100米 背泳

- (国際新)  
1. F. マツキニイ アメリカ 1:05.4
- (国際新)  
2. Y. オヤカワ アメリカ 1:06.0
- (日本新)  
3. 長谷 景治 日本 1:06.7  
4. A. ウイギンス アメリカ 1:07.5  
5. 黒佐 清 日本 1:08.2

#### 途中時間

	F.マツキニイ	Y.オヤカワ	長谷	A.ウイギンス	黒佐
50米	32.0	31.7	31.8	32.5	32.6

### 200米 平泳

- (日本新)  
1. 古川 勝 日本 2:35.3
- (日本新)  
2. 胡麻鶴 寿 日本 2:37.6  
3. 木村 基 日本 2:43.3  
4. B. マトソン アメリカ 2:46.0  
5. C. ハーデイン アメリカ 2:46.6  
6. D. マツキンタイヤー アメリカ 3:01.4

#### 途中時間

	古川	胡麻鶴	木村	B.マトソン	C.ハーデイン	D.マツキンタイヤー
50米	33.1	33.8	34.0	36.9	36.4	38.2
100米	1:11.4	1:12.7	1:14.0	1:19.7	1:18.1	1:26.4
150米	1:52.9	1:53.8	1:58.4	2:03.8	2:02.6	—
200米	2:35.3	2:37.6	2:43.3	2:46.0	2:46.6	3:01.4

### 800米 リレー

1. 鈴木, 谷, 古, 庄司 日本 8:34.8
2. G. ハリソン, W. ウールシイ  
W. ヨルジツク, F. H. コンノ アメリカ 8:40.0

300米	3:07.0	3:12.1
400米	4:14.2	4:20.3
500米	5:14.9	5:21.7
600米	6:24.8	6:32.0
700米	7:27.5	7:32.8
800米	8:34.8	8:40.0

#### 途中時間

	日本	アメリカ
100米	1:00.6	1:02.0
200米	2:07.0 (正式)	2:09.8 (正式)

得点	日本	アメリカ
	43	27

## 日米交歓高知大会

8月16日

気温 25°  
水温 25°

高知市設プール(50米)公認

### 100米 自由形

1. R. バタスン アメリカ 57.8
2. 鈴木 弘 日本 57.9
3. 後藤 暢 日本 58.5
4. 古賀 学 日本 58.7
5. H. ギデオンス アメリカ 58.8
6. D. マツキンタイヤー アメリカ 59.0

### 400米 自由形

1. W. ウールシイ アメリカ 4:37.1
2. F. H. コンノ アメリカ 4:40.4
3. 青木 行義 日本 4:43.0
4. G. オネケア アメリカ 4:44.5
5. 野田 芳郎 日本 4:51.5

### 800米 自由形

1. G. オネケア アメリカ 9:43.0
2. G. ブリーン アメリカ 9:45.0
3. 庄司 嘉宏 日本 9:47.4
4. 大野 司 日本 9:50.9

### 100米 背泳

1. Y. オヤカワ アメリカ 1:05.0
2. F. マツキニー アメリカ 1:05.7
3. A. ウイギンス アメリカ 1:06.4
4. 長谷 景治 日本 1:07.1
5. 黒佐 清 日本 1:08.2

### 200米 平泳

1. 古川 勝 日本 (世界新) 2:34.7
2. 胡麻鶴 寿 日本 2:41.2
3. 木村 基 日本 2:44.5
4. R. マトソン アメリカ 2:45.8
5. C. ハーディン アメリカ 2:52.6

### 200米 バタフライ

1. 長沢 二郎 日本 2:29.6
2. 石本 隆 日本 2:30.6
3. W. ヨルジツク アメリカ 2:32.7
4. G. ハリソン アメリカ 2:36.8

### 800米 リレー

1. D. アームストロング, W. ウールシイ,  
G. ハリソン, F. H. コンノ  
アメリカ 8:40.2
2. 鈴木, 谷  
古賀, 庄司 日本 8:46.6

### 400米 メドレーリレー

1. Y. オヤカワ, R. マトソン,  
A. ウイギンス, R. バタスン  
アメリカ (世界新) 4:17.8
2. 長谷, 木村,  
石本, 谷 日本 (日本新) 4:22.5

# 日米交歓八幡大会

8月19日

気温 30.5°

水温 26.0°

大谷プール(50米)公認

## 400米 メドレーリレー

1. Y. オヤカワ, R. マトソン, (国際新)  
A. ウイギンス, R. パタスン アメリカ 4:19.2
2. 長谷, 古川, 長沢, 古賀 日本 (日本新) 4:20.4

## 800米 自由形

1. 大野 司 日本 9:45.0
2. G. ブリーン アメリカ 9:46.2
3. 青木 行義 日本 9:47.8
4. G. オネケア アメリカ 9:59.0

## 200米 自由形

1. W. ウールシイ アメリカ 2:08.2
2. F. H. コンノ アメリカ 2:10.2
3. 鈴木 弘 日本 2:10.6
4. 菅 毅 寿 九州 2:12.4
5. 野田 芳郎 日本 2:13.4

## 200米 バタフライ

1. 石本 隆 日本 2:29.8
2. 長沢 二郎 日本 2:30.1
3. G. ハリソン アメリカ 2:30.5
4. W. ヨルジツク アメリカ 2:34.6

## 100米 背泳

1. F. マツキニー アメリカ (国際新) 1:06.1
2. Y. オヤカワ アメリカ (国際新) 1:06.3
3. A. ウイギンス アメリカ (国際新) 1:06.7
4. 長谷 景治 日本 1:07.2
5. 黒佐 清 日本 1:09.2

## 400米 自由形

1. F. H. コンノ アメリカ 4:41.0
2. 庄司 嘉宏 日本 4:43.5
3. W. ウールシイ アメリカ 4:44.8
4. 野田 芳郎 日本 4:45.2
5. G. ブリーン アメリカ 4:48.8

## 100米 自由形

1. R. パタスン アメリカ 57.4
2. 古賀 学 日本 57.6
3. 谷 訥 日本 57.8
4. 後藤 暢 日本 58.4
5. D. マツキンタイヤー アメリカ 59.4
6. H. ギデオンス アメリカ 59.6

## 200米 平泳

1. 古川 勝 日本 (日本新) 2:35.6
2. 胡麻鶴 寿 日本 2:41.0
3. R. マトソン アメリカ 2:46.9
4. C. ハーデイン アメリカ 2:50.2

## 200米 リレー

1. D. アームストロング, D. マツキンタイヤー, H. ギデオンス, R. パタスン (国際新) アメリカA 1:40.4
2. 古賀, 鈴木, 谷, 後藤 日本 (日本新) 1:42.5
3. W. ウールシイ, F. H. コンノ, G. ハリソン, A. ウイギンス (国際新) アメリカB 1:44.9

# 日 米 交 歓 大 会

8月21日 呉市二河公園プール(50米) 公認

## 100米 自由形

1.	R. パタスン	アメリカ	(国際新) 56.8
2.	谷 訥	日本	57.4
3.	後藤 暢	日本	58.3
4.	H. ギオンス	アメリカ	58.7
5.	古賀 学	日本	59.1
6.	D. マツキンタイヤー	アメリカ	1:04.6

## 400米 自由形

1.	F. コンノ	アメリカ	4:38.4
2.	W. ウールシイ	アメリカ	4:41.0
3.	庄司 嘉宏	日本	4:41.8
4.	野田 芳郎	日本	4:43.7
5.	大野 司	日本	4:44.4

## 800米 自由形

1.	G. ブリーン	アメリカ	9:44.6
2.	大野 司	日本	9:44.6
3.	青木 行義	日本	9:51.0
4.	野田 芳郎	日本	10:02.6
5.	G. オネケア	アメリカ	10:03.4

## 100米 背 泳

1.	長谷 景治	日本	(日本新) 1:06.5
2.	A. ウイギンス	アメリカ	1:07.0
3.	Y. オヤカワ	アメリカ	1:07.5
4.	黒佐 清	日本	1:08.0

## 200米 平 泳

1.	古川 勝	日本	(日本新) 2:35.5
2.	胡麻鶴 寿	日本	(日本新) 2:39.6
3.	R. マトソン	アメリカ	2:45.7
4.	G. M. ハーディン	アメリカ	2:54.6

## 200米 バタフライ

1.	石本 隆	日本	2:31.0
2.	G. ハリソン	アメリカ	2:31.0
3.	W. ヨルジヨク	アメリカ	2:31.6
4.	R. マトソン	アメリカ	2:46.8

## 800米 リレー

1.	谷, 鈴木, 大野, 庄司	日本	8:44.4
2.	D. アームストロング, W. ウールシイ, G. ハリソン, F. H. コンノ	アメリカA	9:00.2
3.	G. オネケア, H. ギデオンス, G. ブリーン, W. ヨルジツク	アメリカB	9:05.0

## 400米 メドレーリレー

1.	長谷, 古川, 石本, 鈴木	日本	(世界新) 4:17.2
2.	Y. オヤカワ, R. マトソン, A. ウイギンス, R. パタスン,	アメリカ	4:26.4

# 日米交歓奈良大会

8月23日

気温 29°  
水温 28°

天理プール(50米)公認

## 400米 リレー

1. 谷 鈴木, (日本新)  
古賀, 後藤 日本 3:48.8
2. D. アームストロング, D. マツキン  
H. ギデオンス, R. パタスン  
アメリカ 4:01.8

## 100米 背泳

1. Y. オヤカワ アメリカ (国際新) 1:05.9
2. F. マツキニー アメリカ (国際新) 1:06.5
3. 長谷景治 日本 1:07.2
4. A. ウイギンス アメリカ 1:08.2
5. 田口利寛 日本 1:09.6
6. 青山欣且 日本 1:10.0
7. 黒佐清 日本 1:15.7

## 200米 平泳

1. 古川勝 日本 (日本新) 2:37.2
2. 木村基 日本 2:42.1
3. 胡麻鶴寿 日本 2:44.0
4. R. マトソン アメリカ 2:45.6
5. 窪昭博 日本 2:47.0
6. 西前義貞 日本 2:48.2
7. C. ハーディン アメリカ 2:51.2

## 200米 バタフライ

1. W. ヨルジツク アメリカ 2:30.4
2. 石本隆 日本 2:30.8
3. G. ハリソン アメリカ 2:31.6

## 100米 自由形

1. 谷 訥 日本 (日本新) 56.4
2. R. パタスン アメリカ 57.6
3. H. ギデオンス アメリカ 59.1
4. D. マツキン  
H. ギデオンス アメリカ 59.8
5. 鈴木弘 日本 1:00.0
6. 後藤暢 日本 1:00.0
7. 古賀学 日本 1:02.6

## 500米 自由形

1. 大野司 日本 5:57.2
2. 青木行義 日本 5:58.7
3. 野田芳郎 日本 6:01.2
4. G. ブリーン アメリカ 6:04.6
5. G. オネケア アメリカ 6:05.5
6. 庄司嘉宏 日本 6:05.5
7. F. H. コンノ アメリカ 6:09.0
8. W. ウールシイ アメリカ 6:12.0

## 400米 メドレーリレー

1. Y. オヤカワ, 古川勝  
A. ウイギンス, R. パタスン 日米 4:16.5
2. 長谷景治, R. マトソン,  
石本隆, 谷 訥 日米 4:21.7
3. F. マツキニー, 木村基  
G. ハリソン, D. マツキン  
タイヤー 日米 4:25.5
4. 黒佐清, 胡麻鶴寿  
W. ヨルジツク, 鈴木弘 日米 4:26.5
5. H. ギデオンス, C. ハーディン  
D. アームストロング, 古賀学 日米 4:46.8

# 日米交歓名古屋大会

8月25日

気温 30°

水温 27°

振甫プール(50米)公認

## 400米 メドレーリレー

- |                       |       |        |
|-----------------------|-------|--------|
| 1. 長谷, 古川,            | (日本新) |        |
| 石本, 谷                 | 日本    | 4:18.4 |
| 2. Y. オヤカワ, C. ハーデイン  |       |        |
| A. ウイギンス, D. マツキンタイヤー | アメリカ  | 4:29.2 |

## 800米 自由形

- |            |      |         |
|------------|------|---------|
| 1. 大野 司    | 日本   | 9:45.6  |
| 2. 青木 行義   | 日本   | 9:55.4  |
| 3. G. ブリーン | アメリカ | 9:57.4  |
| 4. 庄司 嘉宏   | 日本   | 9:58.0  |
| 5. G. オネケア | アメリカ | 10:02.6 |

## 200米 自由形

- |             |      |        |
|-------------|------|--------|
| 1. 鈴木 弘     | 日本   | 2:08.8 |
| 2. W. ウールシイ | アメリカ | 2:09.2 |
| 3. F.H. コンノ | アメリカ | 2:11.0 |
| 4. 野田 芳郎    | 日本   | 2:13.8 |

## 200米 バタフライ

- |             |      |        |
|-------------|------|--------|
| 1. 石本 隆     | 日本   | 2:30.3 |
| 2. G. ハリスン  | アメリカ | 2:33.0 |
| 3. W. ヨルジツク | アメリカ | 2:35.0 |

## 100米 背泳

- |             |       |        |
|-------------|-------|--------|
|             | (日本新) |        |
| 1. 長谷 景治    | 日本    | 1:06.4 |
| 2. F. マツキニイ | アメリカ  | 1:06.8 |
| 3. Y. オヤカワ  | アメリカ  | 1:06.8 |
| 4. 黒佐 清     | 日本    | 1:08.8 |

## 100米 自由形

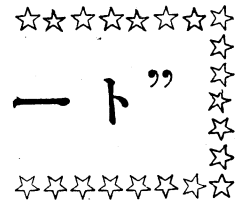
- |                |      |        |
|----------------|------|--------|
| 1. 谷 訪         | 日本   | 57.2   |
| 2. 後藤 暢        | 日本   | 58.4   |
| 3. 古賀 学        | 日本   | 58.4   |
| 4. A. ウイギンス    | アメリカ | 58.8   |
| 5. D. マツキンタイヤー | アメリカ | 59.2   |
| 6. W. ウールシイ    | アメリカ |        |
| 7. G. ブリーン     | アメリカ | 1:01.6 |

## 200米 平泳

- |             |       |        |
|-------------|-------|--------|
|             | (日本新) |        |
| 1. 古川 勝     | 日本    | 2:36.4 |
| 2. 胡麻鶴 寿    | 日本    | 2:40.6 |
| 3. 広 達夫     | 愛知    | 2:50.0 |
| 4. C. ハーデイン | アメリカ  | 2:51.0 |
| 5. W. ヨルジツク | アメリカ  | 2:56.4 |

## 800米 リレー

- |                        |       |        |
|------------------------|-------|--------|
| 1. 谷, 鈴木,              | 日本    | 9:44.2 |
| 大野, 庄司                 |       |        |
| 2. G. オネケア, G. ハリスン,   |       |        |
| W. ウールシイ, F.H. コンノ     | アメリカA | 8:50.0 |
| 3. W. ヨルジツク, C. ハーデイン, |       |        |
| F. マツキニイ, G. ブリーン      | アメリカB | 9:18.0 |



# 米チームに対する“アンケート”

- 1) 日本滞在中具合の悪かつたこと、改良すべき点
- 2) 何が最も楽しかつたか?
- 3) 日本選手に対する所見
- 4) 来年のオリンピックに対する予想
- 5) 来年のオリンピックチームの一員になるか

## ジョージ・グリーン

- 1) 大して不都合な点はありませんでしたが強いて言うなら、旅行日程が非常につまづいて休養する暇がありませんでした。
- 2) 宮島見物、また各ホテル、旅館の人々の親切なもてなし。
- 3) 非常に深みがあり、私の知る限り最強の水泳チームの一つです。
- 4) 本年から明年にかけて色々な変化が起りますから、予想は困難です。
- 5) 今年予選会が行われれば参加出来る自信がありますが、来年のことは分かりません、とも角最善を尽します。

## リード・パタソン

- 1) 旅行中もう少し見物を少くし休養を取りたかつた、しかし総じて大変楽しく、見物を減じていたら、見たいと思うものも見損つて随分心残りに思つたことでしょう。
- 2) 大会、人々の歓迎、観衆の態度、役員の方々の親切。日光と宮島見物。
- 3) 素晴らしい選手達です。キックが極めて強く、特に最初の頃素晴らしいコンディションにあつた。また、彼等は驚嘆すべき闘士です。
- 4) 100米背泳 ボゾン      200米平泳 古川  
800米リレー 日本      400米自由形 ?  
1500米自由形 日本      100米自由形 ?
- 5) 分かりません。

## ヨシノブ・オヤカワ

- 1) 何もかも非常に楽しかつた。ただし、競技会に関する限り、見物日程が余りに多すぎたように思います。
- 2) 全日程、特に旅行中日本選手と過した楽しい時間
- 3) 全員素晴らしい選手達です、また非常に友好的で交り易かつた。
- 4) ノー・コメント
- 5) 次のオリンピックについては、希望と心配と半々です。

## アルバート・ウイギンス

- 1) 最後の数試合の日程がつまり過ぎていました。休養出来なかつたので、ベストをお見せ出来ませんでした。
- 2) 全旅行。特に日本の方々を理解し且つ世界最強の水泳選手達に会えた事。
- 3) 日本選手は恐るべき意志と決断力の所持者で、その為各人の最高記録を上廻つた、この事は特記されてよい。
- 4) 予想は立てられない。ただし日本チームが必ずや優位に立つであろうことを疑わない、他の強国に対する最大の脅威であろう。
- 5) 最善を尽す積りですが、来秋の予選会の結果を待つより他なし。

## ウイリアム・ウールシイ

- 1) 何等不都合の事なし、全日程を通じ非常に楽しかった。
- 2) 全日程
- 3) 素晴らしい
- 4) 現在の所、日本を負かすのは困難、しかし米国を始め他の一、二の国が強力なチームを派遣するでしょう。
- 5) 予想は困難ですが、充分且つ熱心に練習出来たらまたオリンピックで泳ぎ得るかも知れません、とも角代表に選ばれたいと思つています。

#### チャールズ・マック・ハーディン

- 1) 旅行中充分な休養と練習ができなかつたことは残念でした、しかし私個人としては日本を理解するに役立つ幾多の観光を犠牲にしたくなかつた。
- 2) 日本の選手と旅行を共にし、彼等と知り会えたこと、日本選手にも送別の宴に出席してもらいたかつた。
- 3) 非常に強い(記録にあらわれた通り)  
非常に愉快的な青年達だ(旅行で示された如く)
- 4) 米国、日本が群を抜く。濠洲、ハンガリーも強い、しかし今回の大会で示されたように個人的選手権は予測し難い。
- 5) 米国は平泳は1名しか送らないであろうからこの前より難かしい、来年は猛烈な練習をする、学生選手権大会が相当私を強くするであろう。

#### ヘンドリック・ギデオンス

- 1) 不都合の点なし
- 2) 全旅行
- 3) 非常に共通点があつた
- 4) 多くの種目を通じ、日米が優位を争うことでしょう。
- 5) 予選が行われるまで不明。

#### フォード・ヒロシ・コンノ

- 1) 総て私に取つて満足でした。  
食事、輸送、宿舎等総て最高でした。
- 2) 日本の旅館に泊つたこと及び皆様の心からの親切。
- 3) 日本の選手は物凄い闘志を持つている、彼等の素晴らしい結果はその精神力によるものであることがよく判つた。

- 4) 1年先のこと故余りはつきり予想出来ない、若い連中が次々に出て来るから、神のみぞ知るでしょう。
- 5) 代表選手に選ばれることを望んでいます。そして幸運にも選ばれたら最善を尽します。

#### ジョージ・ハリソン

- 1) 全日程はよく計画されており、改良すべき点等私にはありませんでした。
- 2) 観光(各地での)
- 3) 最も均衡の取れたチーム、来年のオリンピックでは手剛いでしょう。
- 4) 非常な接戦でしょう、強いて言うなら(現在の記録から見て)  
100米 自 ヘンリックス  
200米 平 古川  
1500米 自 大野  
他は予測出来ない。
- 5) 全力を尽してまた必ず選ばれる積りでおります。

#### フランク・マツキニー

- 1) 不都合の点なし
- 2) 各競技会並びに各地訪問
- 3) 世界最強の連中だと思ひます。
- 4) 今や強豪相ひしめき、各種目毎に予想を立てることは不可能に近いでしょう、しかもまだ1年もありその間にはまた強い人がまだまだ出るかも知れません。
- 5) 代表になる積りです。

#### ドン・ハーバー

- 1) 強いて言えば試合が多すぎた。めまぐるしい旅行日程で休養時間が少なかつた。
- 2) 日光、奈良見物
- 3) 素晴らしい
- 4) 困難
- 5) 希望しています。

#### ロバート・マットソン

- 1) 不都合な点と言つて特記する程のことはありませんでした。一、二あつたとしても些細なことです。
- 2) 景色と神社仏閣



- 3) 世界最高の立派な選手達です。勝つて奢らず負けても堂々としていました。
- 4) 古川、木村、胡麻鶴トリオで200平は圧勝するでしょう。米は背泳に勝つと思いますが、結局は神のみぞ知るでしょう。
- 5) 代表になりたいと思いますが、確実ではありません後進の選手と大接戦でしょう。

### ジョージ・オネケア

- 1) 不都合の点なし。
- 2) 神社仏閣の見物
- 3) 素晴らしい選手達であり、話し会つて愉快でした。
- 4) 全然予測が付きません。
- 5) 代表に選ばれ度いと思います。

### ウィリアム・ヨルジツク

- 1) 素晴らしい旅行でしたが、唯一つ残念でしたのは日程がつまりすぎて試合の間に十分な休養と練習の時間がとれなかつたことです。
- 2) 全旅行通じて素晴らしく、特に何が良かったかといわれても判らない程です。強いて言えば日本の選手と旅行出来たことが一番楽しいことでした。
- 3) 素晴らしい、非常に強力でしかも闘志が、旺盛でした。古橋氏は偉大な精神力の所有者であり、

- またチームの柱となつていた様に見受けました。
- 4) 日米対抗で示されたように、両国間で非常な接戦が演じられるでしょう。
  - 5) 希望しています、でも予選会次第です。

### デーヴィッド・マツキンタイヤー

- 1) 設備、便宜等大変よく、殆んど完璧といえるでしょう。
- 2) 素晴らしい日本の風光を非常に楽しみました。美しい風景は、日本の美しい国家を最もよく現わしているように思いました。
- 3) 非常に高度な選手達です、そして彼等のスポーツマンシップと謙譲さには強く打たれました。
- 4) チームとしては日米の戦いでしょう。個人としては色々な国々から強い人が現われるでしょう。
- 5) 選ばれたいものですが、後進の選手と接戦になるでしょう。

### デーヴィッド・アームストロング

- 1) 立派な計画でした。すべてよかつた。
- 2) 一般的に言つて日本の文化に触れ得たこと、(歴史の上からそして現代の様相を)
- 3) 人間として親密、水泳選手として脅威的。
- 4) 残念乍ら時間なし。
- 5) 疑わしいですが、全力を尽します。

## 全米戶外選手権 30.7.20~22 於ロスアンゼルス 50米

<b>100米自由形</b>		2. ブリーン	18:52.9	<b>400米個人メドレーリレー (米新)</b>	
1. ギデオンス	57.6	3. ヨルジツク	19:24.1	1. ハリソン	5:23.3
2. クリーヴランド	57.8	4. ラドクリフ	20:14.4	2. マトソン	5:31.9
3. グローヴァー	57.5	5. ベーアー	20:33.3	3. ジェツコ	5:37.2
4. バターソン	57.8	6. ベーカー	20:34.2	<b>400米メドレーリレー</b>	
5. マツキンタイヤー	57.9	<b>100米背泳 (大新)</b>		1. N.H.水泳ク	
6. アームストロング	58.4	1. オヤカワ	1:05.3	ケネディー,ハーデイン, (大新)	
<b>200米自由形 (大新)</b>		2. マツキニイ	1:05.3	ヨルジツク,ギデオンス	4:28.6
1. ウールシイ	2:08.2	3. ウイギンス	1:06.9	2. 北カロライナ州立大	
2. コンノ	2:10.4	<b>200米背泳 (長世最)</b>		3. ハワイ水泳ク	4:29.1
3. オネケア	2:12.1	1. オヤカワ	2:26.1	4:36.6	
4. アームストロング	2:13.4	2. マツキニイ	2:29.7	<b>800米リレー</b>	
<b>400米自由形</b>		3. ウイギンス	2:31.6	1. N.H.水泳ク a	8:54.2
1. コンノ	4:38.7	<b>200米平泳</b>		2. ハワイ水泳ク	8:56.9
2. ウールシイ	4:39.3	1. マトソン	2:46.8 (大新)	3. デルマーク	9:03.0
3. オネケア	4:45.5	2. ハーデイン	2:48.6 (大新)	<b>高飛込</b>	
4. ヨルジツク	4:46.2	3. フアツチエン	2:48.7 (大新)	1. トビアン	551.10
5. ブリーン	4:46.4	<b>200米バタフライ</b>		2. キヤピラ	506.40
<b>1500米自由形</b>		1. ヨルジツク	2:29.1	3. ハリソン	495.75
1. オネケア	18:52.3	2. ハリソン	2:34.7	4. ハーパー	494.05
		3. ネルソン	2:35.7	5. クロトワシー	

# 米 国 代 表 選 手

監督 Robert J. Kiphuth 64 エール大  
ロバート・キツパス コーチ

マネージャー Yasuo Simizu  
清水 康男 慶大出

選 手

## 自 由 形

(主将) Ford H. Konno  
フオード・ヒロシ・コンノ 23 オハイオ州大

Hendrik A. Gideonse  
ヘンドリック・ギデオンス 21 エール大

Reid Patterson  
リード・パタスン 23 ジョージヤ大

David McIntyre 20 カロライナ  
デーヴィッド・マツキンタイヤー 州大

William Woolsey  
ウィリアム・ウールシイ 21 インデアナ大

George Onekea  
ジョージ・オネケア 16 イアラ=高

George Brean 21 コートランド  
ジョージ・ブリーン 州大

David S. Armstrong 21 エール大  
デーヴィッド・アームストロング

## 背 泳

Yosinobu Oyakawa  
ヨシノブ・オヤカワ 23 オハイオ州大

Frank E. McKinney  
フランク・マツキニー 16 キヤンダル高

Albert Wiggins  
アルバート・ウィギンス 21 オハイオ州大

## 平 泳

Robert Mattson 24 北カロライナ  
ロバート・マトソン 大学院

Charles McC Hardin 20  
チャールズ・マツク・ハーディン エール大

## バタフライ

William A. Yorzyk 23 ニューヘヴン  
ウィリアム・ヨルジツク クラブ

George Harrison 16 バークレイ  
ジョージ・ハリソン 市高

## 飛 込

Don Harper 21 オハイオ州大  
ドン・ハーパー

# 日 本 代 表 選 手

監督 小池 礼三 39 慶大出  
Reizo Koike

根上 博 43 立大出  
Hirosi Negami

コーチ 太田 光雄 33 立大出  
Mituo Ota

飛込 柴原 恒雄 38 日大出  
コーチ Tuneo Sibahara

マネージャー 古橋 広之進 28 日大出  
Hironosin Furuhasi

選 手

## 自 由 形

古賀 学 20 早大商 2  
Manabu Koga

鈴木 弘 21 日大経 4  
Hirosi Suzuki

谷 訥 21 早大商 4  
Atusi Tani

後藤 暢 21 日大工 3  
Noboru Goto

大野 司 20 日大経 3  
Tukasa Ono

庄司 嘉宏 20 明大商 3  
Yoshihiro Shoji

青木 行義 20 日大経 3  
Yukiyosi Aoki

野田 芳郎 19 明大商 2  
Yosiro Noda

## 背 泳

長谷 景治 20 早大商 2  
Keiji Hase

黒佐 清 22 早大商 4  
Kiyosi Kurosa

## 平 泳

古川 勝 19 日大経 2  
Masaru Furukawa

木村 基 17 城東高 3  
Motoi Kimura

胡麻鶴 寿 21 中大出  
Hisasi Gomazuru

## バタフライ

(主将) 長沢 二郎 23 早大出  
Jiro Nagasawa

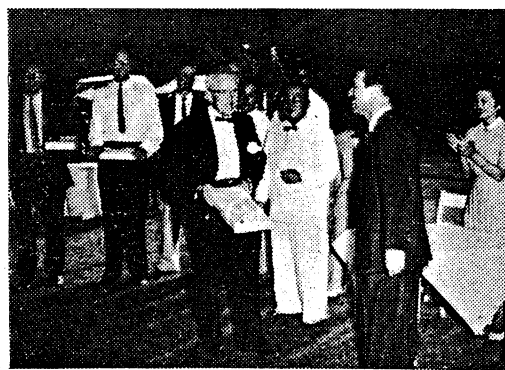
石本 隆 20 日大経 2  
Takasi Isimoto

## 飛 込

馬場 豊 21 早大理工  
Yutaka Baba 4



“よーこそ”米チーム(羽田空港)

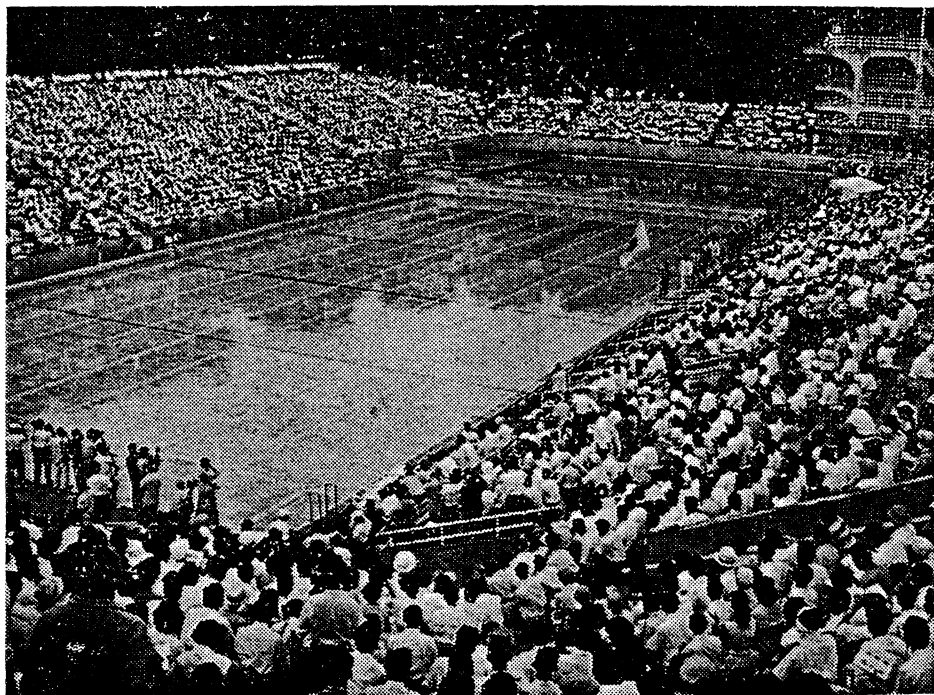


歓迎レセプション

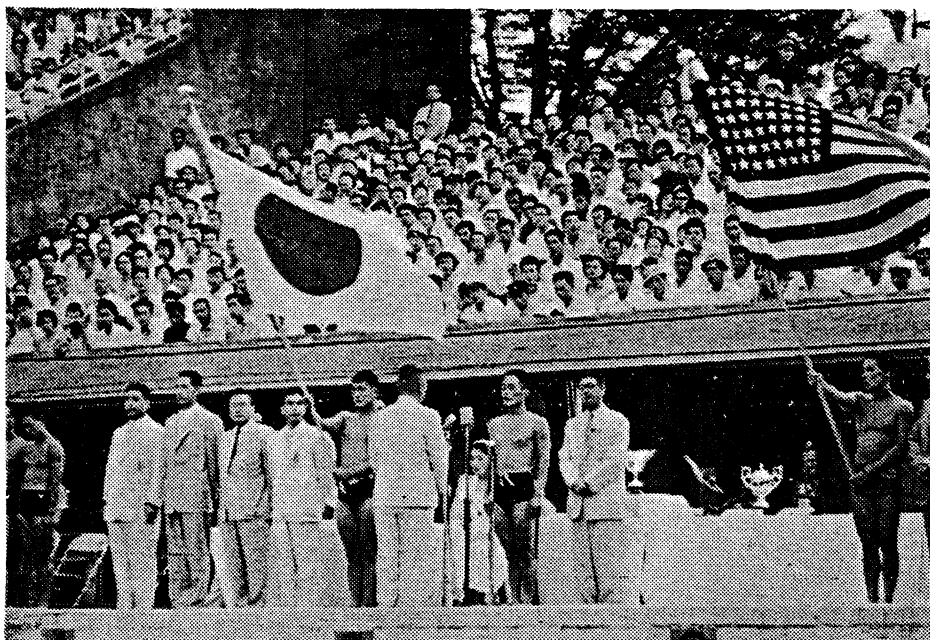
(芝高輪光輪閣にて)

(左から)小池, ブリーン, マック  
キンタイヤ, 清水, ウールシー,  
田畑, キップス, ハーディン, コ  
ンノ, ヨージック, オヤカワ, オ  
ネゲア, ハリソン, パタソン

(上左から) ウィギンス, ギデオ  
ンス, マトソン, ハーパー, アー  
ムストロング



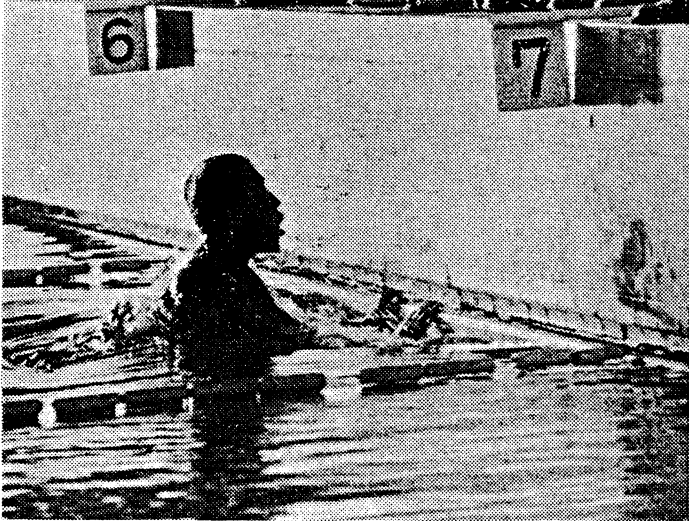
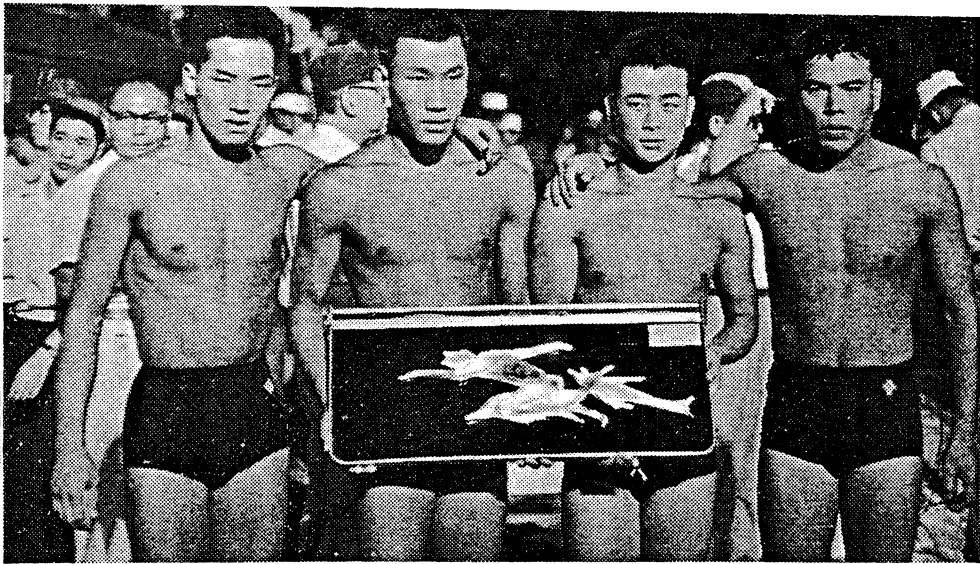
神宮プールに於ける開会式 ↑



← 日本チーム長沢主将の宣誓

400米混継泳優勝の日本チーム

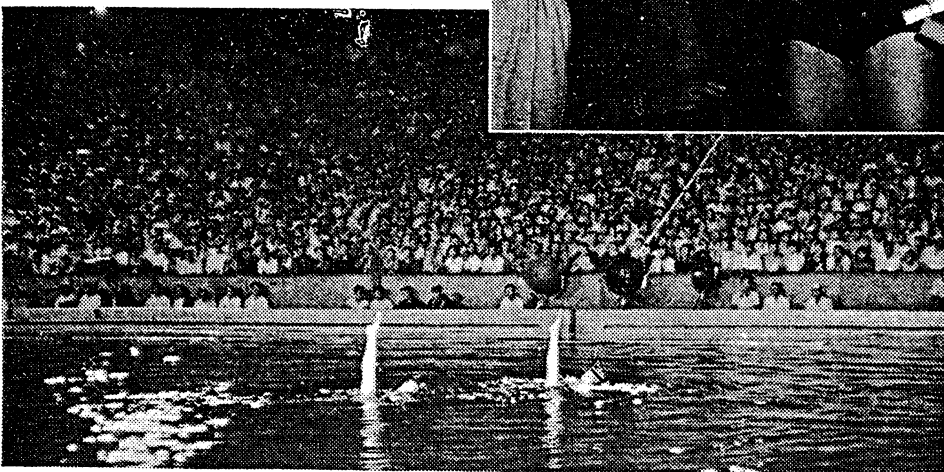
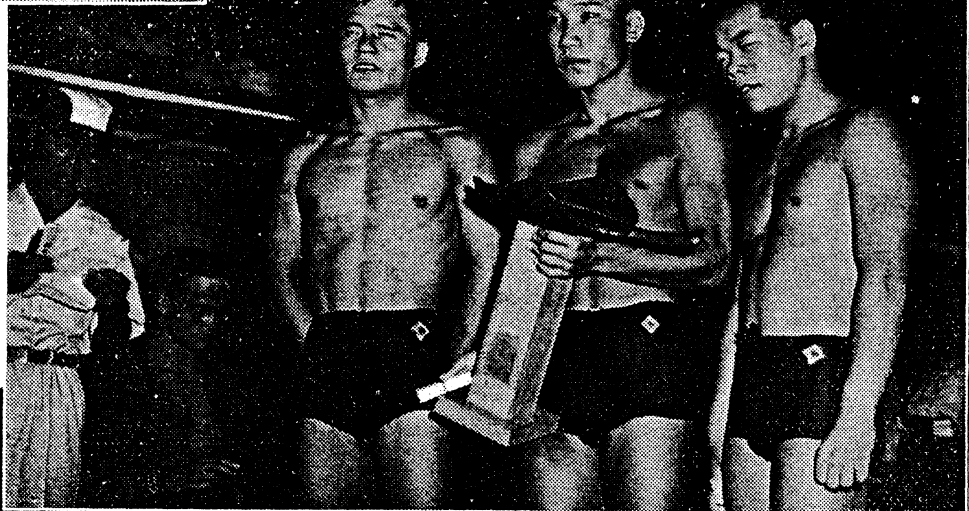
左より長谷, 古川, 石本, 古賀



高飛込優勝のハーパー

200米平泳

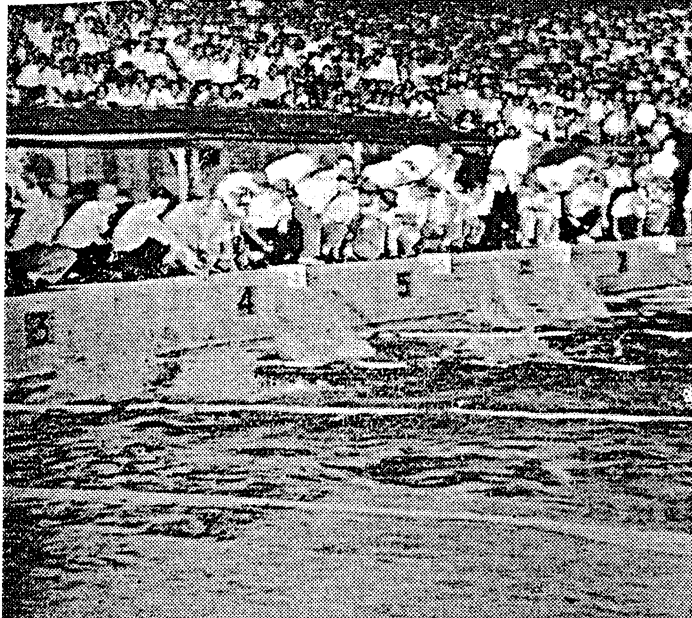
古川世界新記録で優勝した瞬間



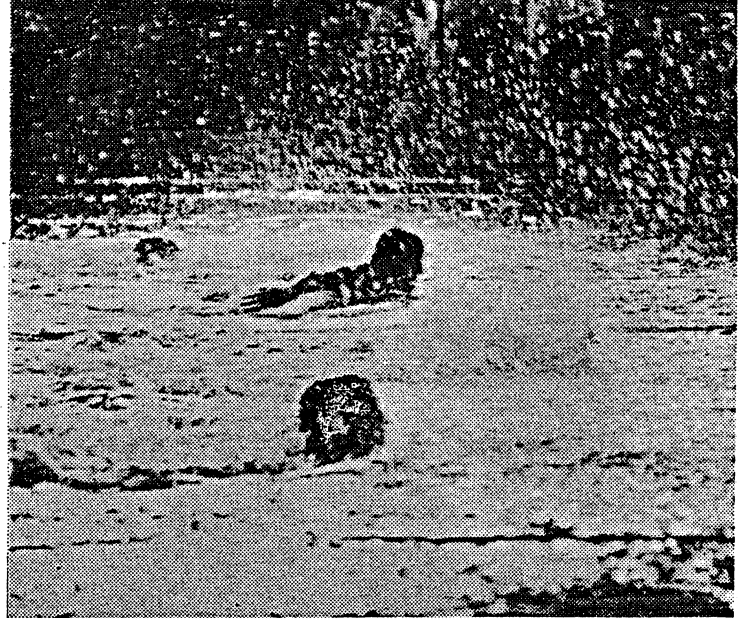
100米平泳 完全優勝の左より胡麻鶴(2着), 古川(1着), 木村(3着)

パウソン姉妹によるデュエット

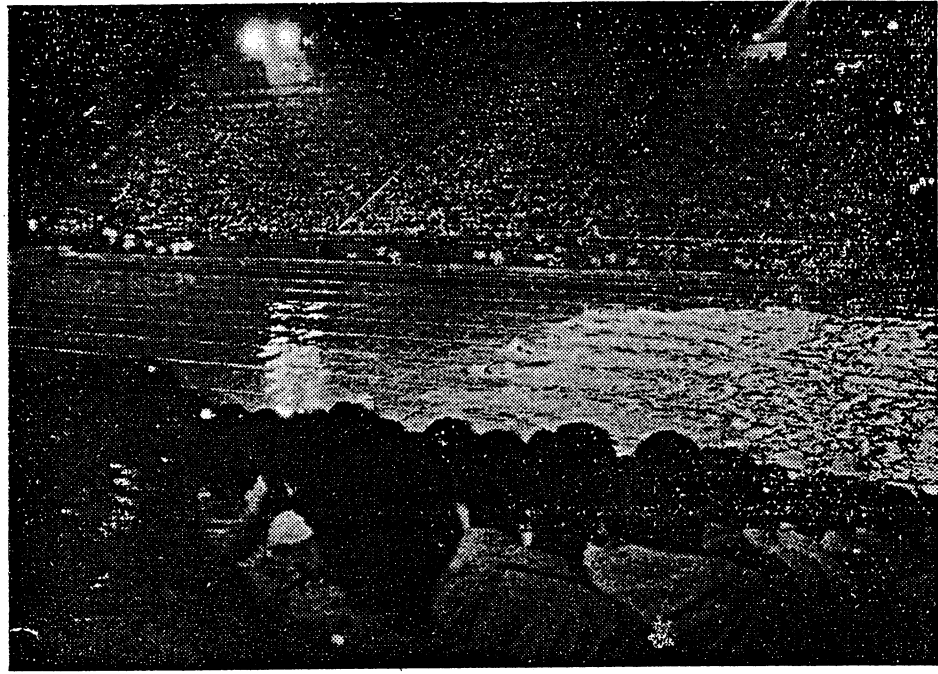
“2人の女王”



100米背泳 ゴールのタッチ



200米バタフライ ゴール前の激斗



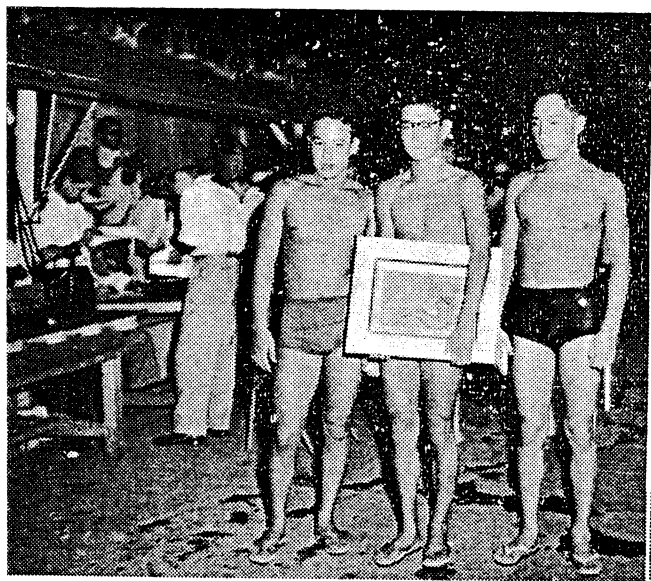
800米自由形 スタート直後の熱戦

200米バタフライに石本のスパート

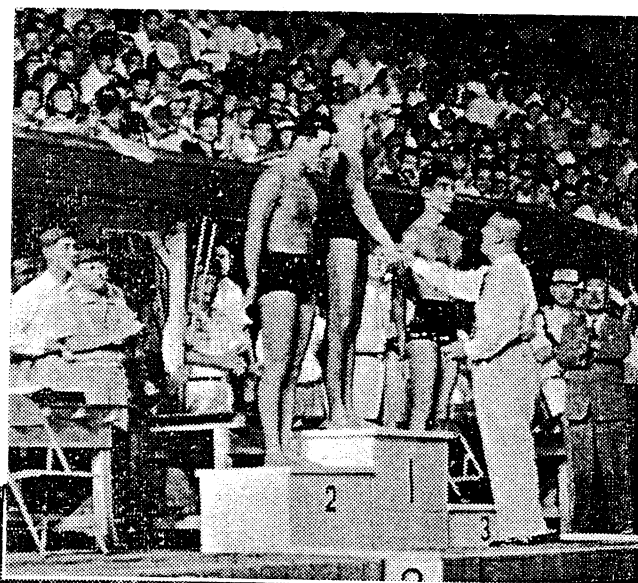
400米継泳に世界記録で優勝の  
左より古賀，後藤，谷，鈴木



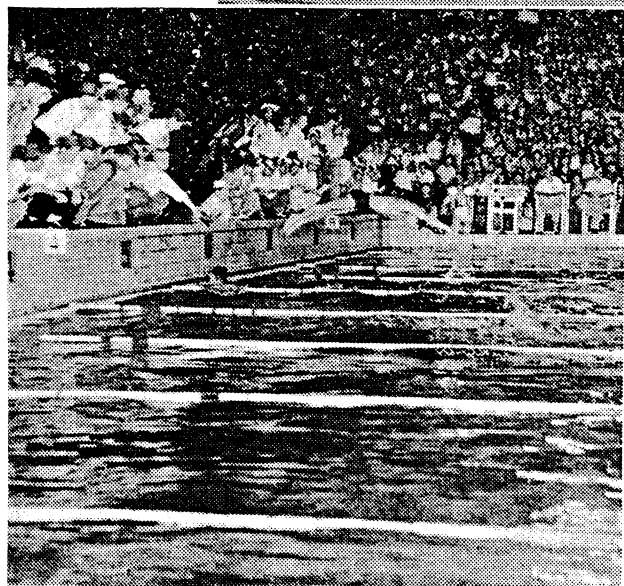
800 米自由形 優勝した大野を中心に  
左コンノ(2着), 右庄司(3着)



100 米自由形の表彰 田畑会長と握手をする,  
1着パターソン(中)と2着古賀(左), 3着鈴木(右)

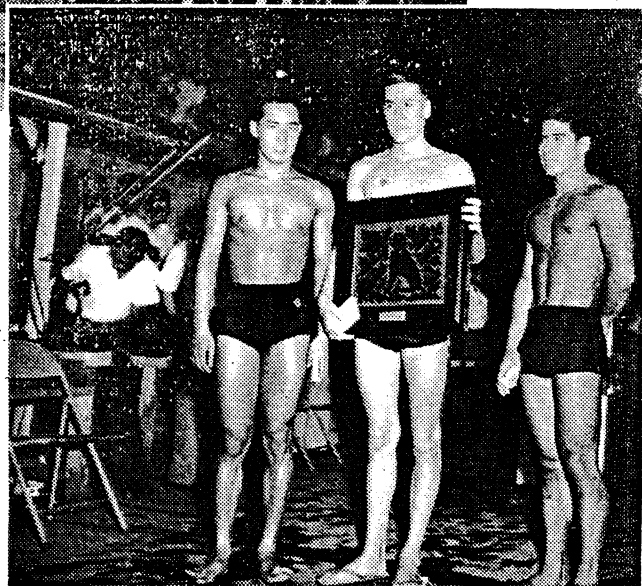


せた日本の水泳ファン  
キッパス監督を感激さ



800 米継泳

堂々8分34秒7で優勝した第三泳者古賀と  
アンカー庄司の引継ぎ

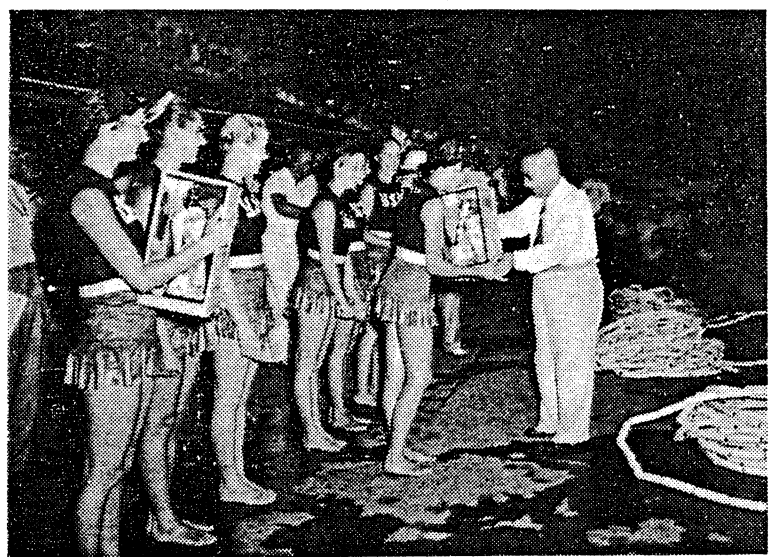


200 米背泳 世界最高記録で優勝のマツキニー(中央)  
第1人者のオヤカワ(右)を抑えた2着の長谷(左)

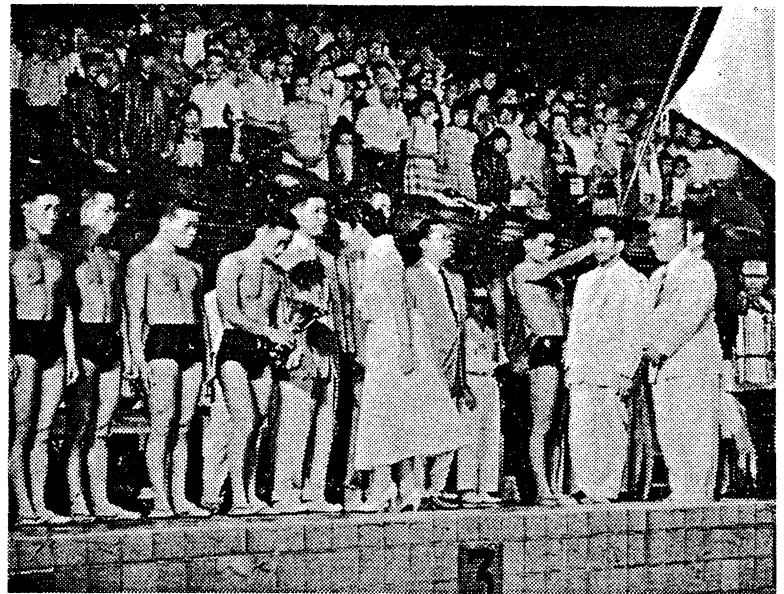


コミック、ダイビング、乗馬飛び

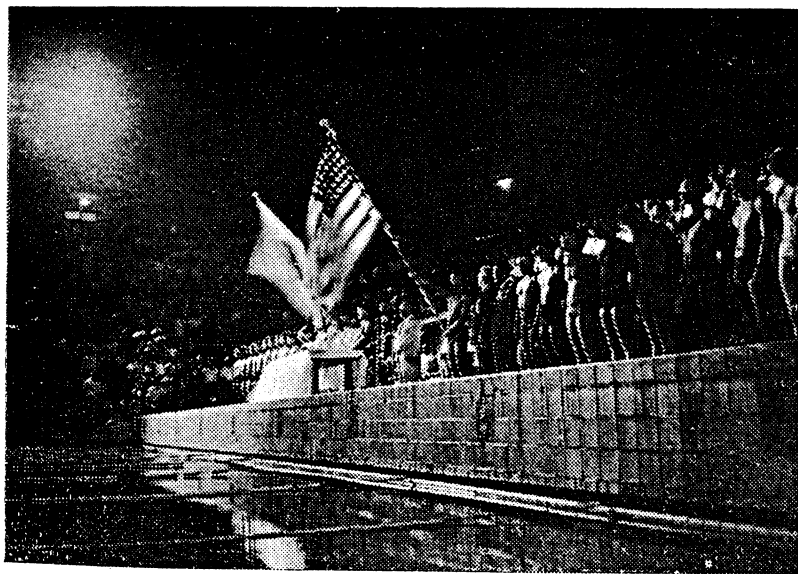
ドンハーバー君（愛称ドンちゃん）とマーフィー君



シンクロナイズド・スイムチームに田畑水連会長より記念品の贈呈 左からジョン・パウソン、ロレッタ・パリヤス、マレン・マーシャル、ジャッキー・バルガス、リン・パウソン、サリー・フィリップ

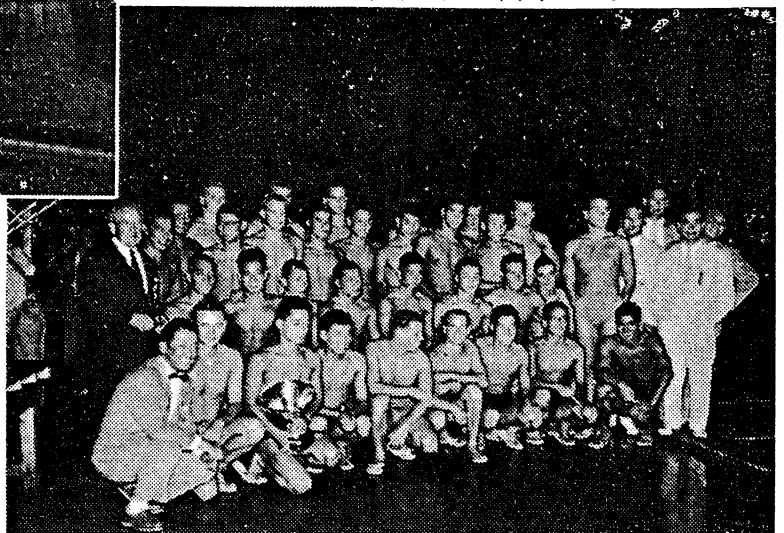


日本チーム優勝、秩父宮妃殿下の会釈を賜る日本選手達



閉会式 “日米対抗を制するもの世界の覇権を握る”とあいさつする田畑会長

戦い終わりの両チーム





おちよこ傘 (東照宮)



大阪大会前夜祭 (大阪産業会館)



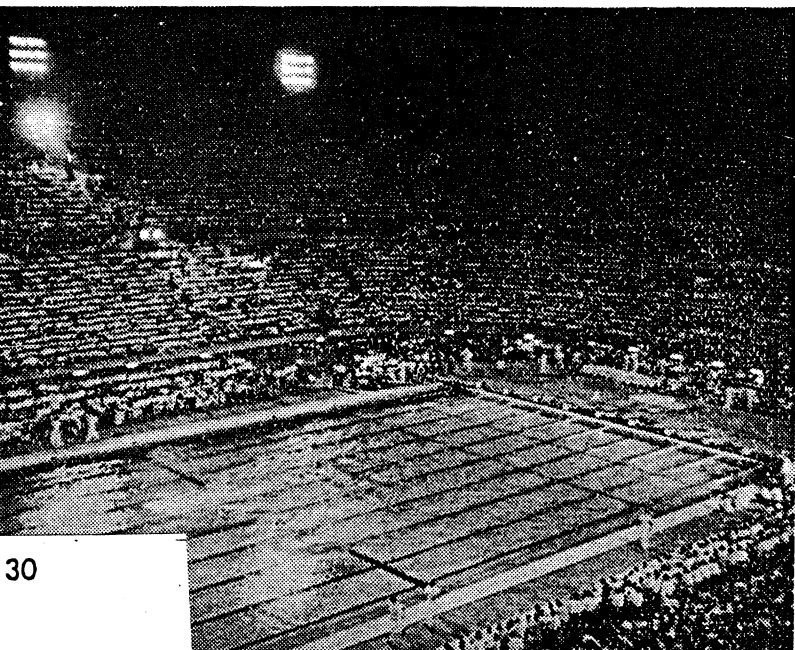
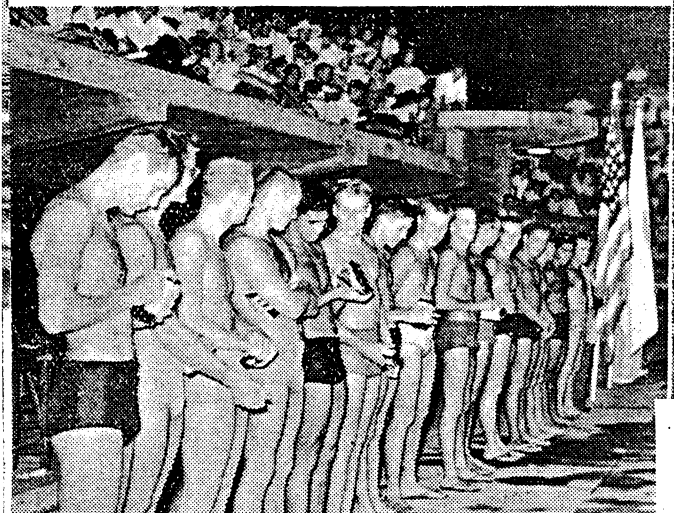
“オーワンダフル” 日光華巖の滝にて

記念品を開く米選手 (高知大会)



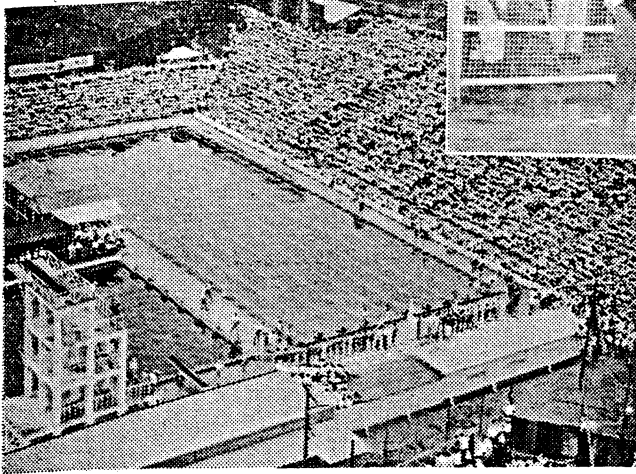
大阪大会の開会式

大阪大会会場全景 (扇町プール)

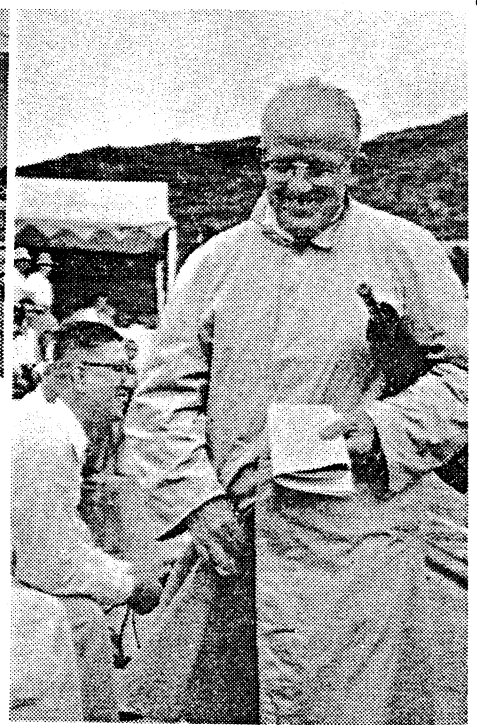
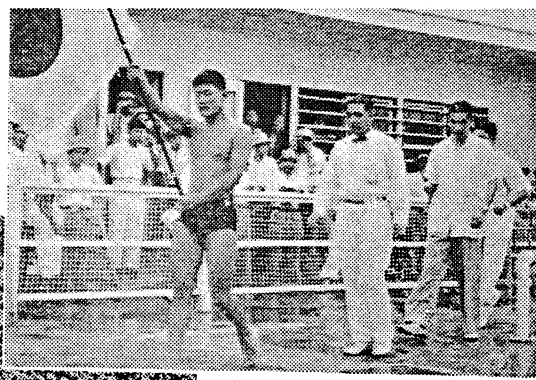




八幡大会 日本チーム入場  
谷主将, 根上監督, 太田コーチ

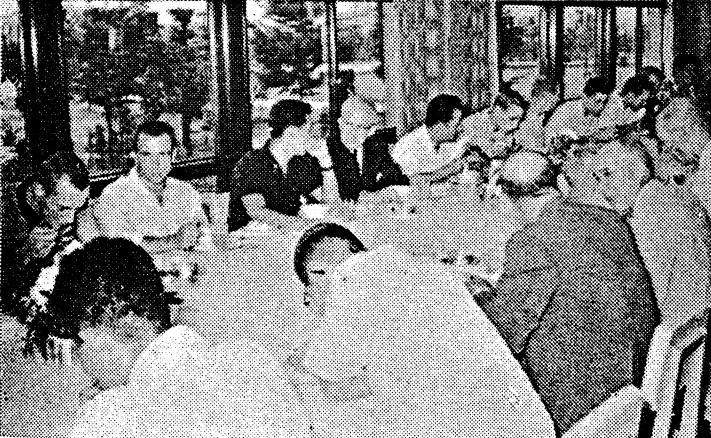
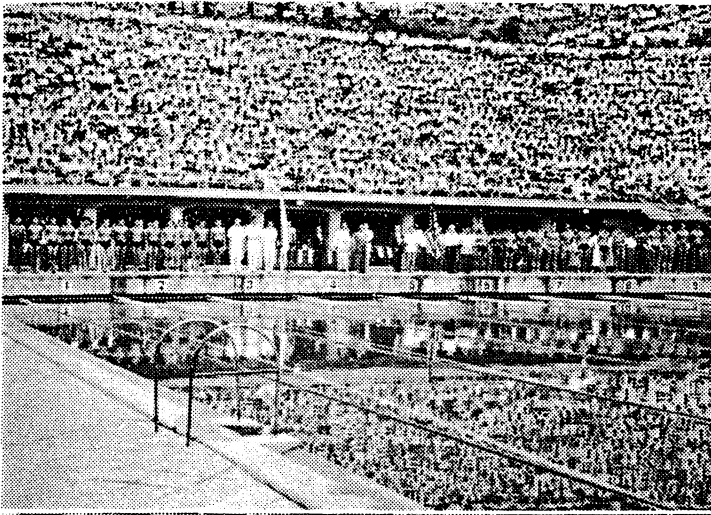


八幡大会入場式全景 (空より)



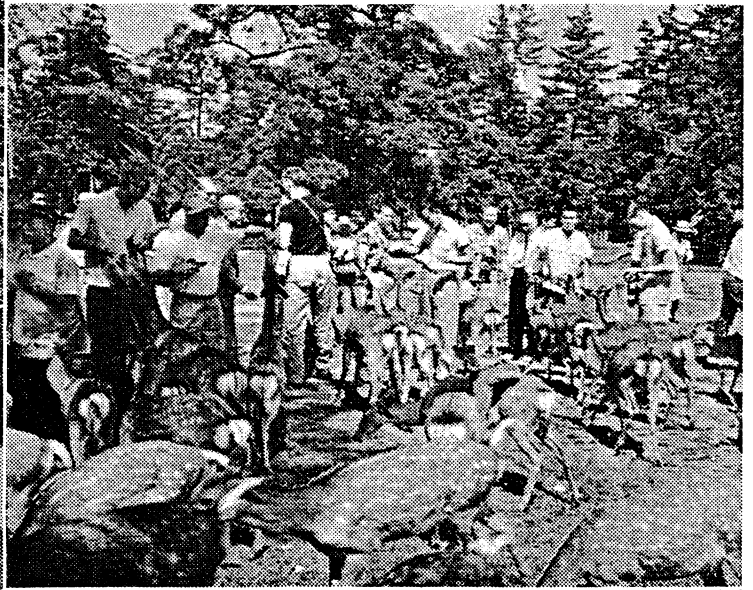
八幡大会 米軍選手の好記録に  
喜ぶキップス監督

呉大会入場式 右米軍チーム 左日本チーム

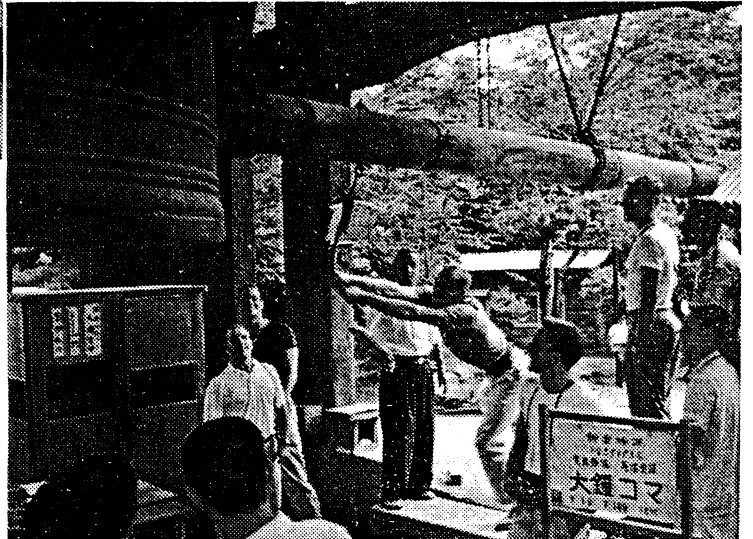


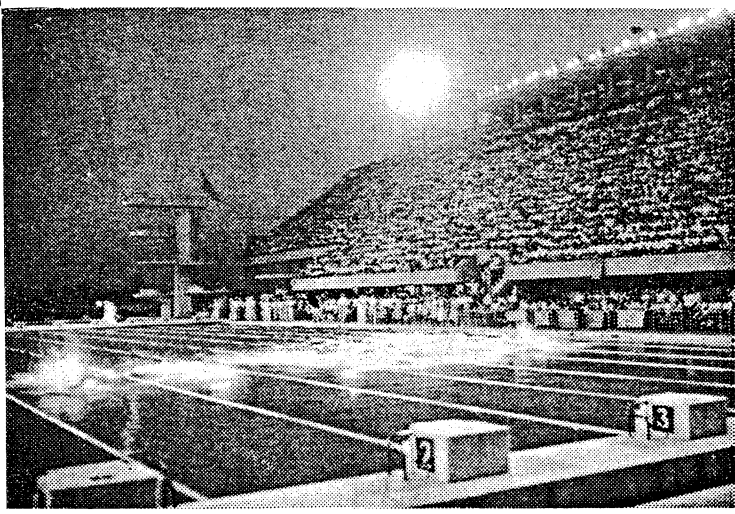
両軍歓迎の会食 (呉にて)

奈良の大会を前にして若草山に  
鹿とたわむれるアメリカチーム



奈良で遊ぶ米選手, 二月堂の  
鐘を打つはマッキンタイヤ



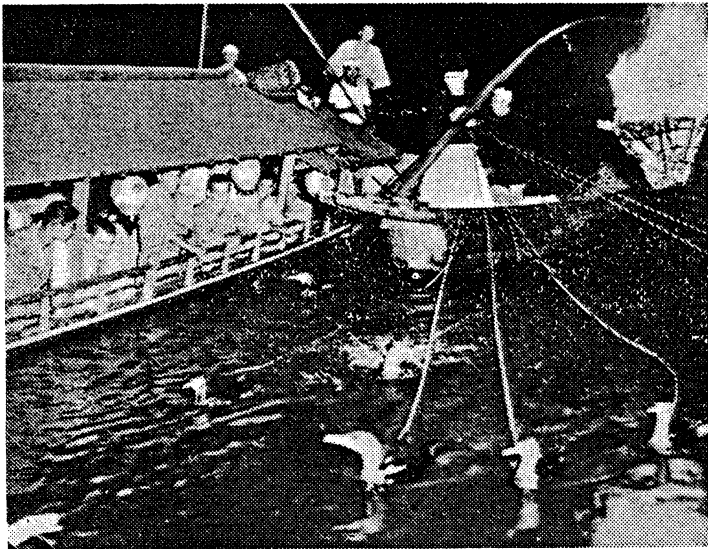


奈良大会 100 米自由形 ゴール前の  
56.4秒 の生れる寸前 (天理プール)

奈良大会終つて呉越同舟の一とき

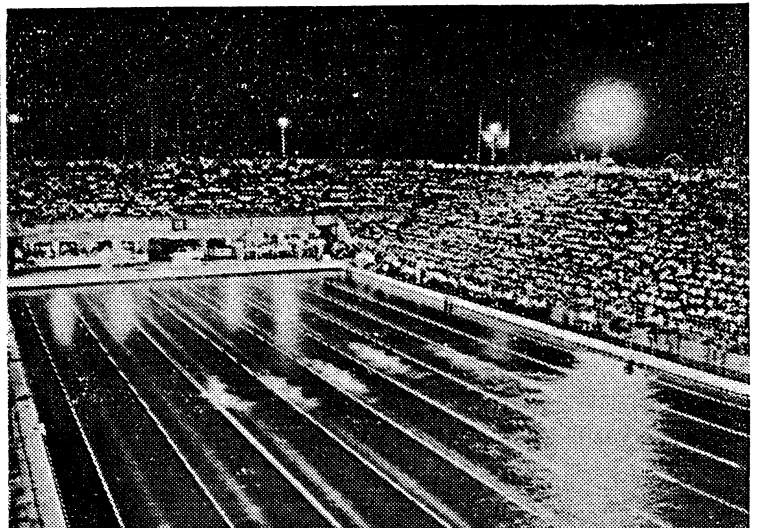


日米両チームの名古屋市中行進



名古屋大会終つて安堵の両チーム  
日本ラインの鵜飼に見入る

名古屋大会会場全景



# 交歓競技大会雑感

根 上 博

東京大会に次いで大阪大会に大勝を博する迄の日本チームは努力と精進と緊張の連続で、両対抗の終わった選手諸君は本当にほつとした気持を抱いて心のゆるみを感じていたと思われる。米国チームの方はこれと反対に両大会に敗れ、しからば地方大会であわふかせてやらすんばと秘かに期していたと思われる。

勝負の鬼キツパス監督を始め選手の意気は盛んで、交歓競技の第一戦を高知で迎えたが心構えの相違か結果は我が方に取つては誠にお恥しい限りであり、競技8種目のうち僅かに古川の平泳と長沢のバタフライの2種目に勝つただけ、惨々の一戦であつた。勿論米国チームも勝つて不思議のない筈で彼我の実力は紙一重である。競技の場は新らしく照明をつけた北村記念プールで「水は奇麗で冷たく、照明の明るいことは今迄の何処のプールよりも気に入つた」と賞め讃えたキツパス監督の言の如く米選手には肌に合った冷たい水で元気一杯であり、オネケヤ少年の如きは来日以来始めてであり終りであつた唯一回の優勝を800米自由形に9分43秒でしかも物凄いと評判のあるラストスパートを見せて見事勝ち、全員健斗をする有様、これに引かえ日本チームは意気あがらず対抗戦に急ピッチで常勝した大野は油の切れた機械の如く動かないし、短距離の雄古賀は100米自由形でコース・ロープを手首にひつかけること2度3度に及び戦意そう失し、爾来各地に彼の威力であるラストスパートは影をひそめて活躍しなくなつた。某紙の評に「過日の日米対抗に勝つた日本チームは疲労の極に達して僅かに自家芸の平泳を除いてことごとくに惨敗を喫し観衆に食い足りない感を与えた。こんなことではメルボルンオリムピックは平泳以外は完全に勝つといえるものでない。高知大会はエキジビジョンであるが採点して見ると26対16点で米国チームの大勝となる。オリムピック種

目に敗れているので水上日本は今後尋常の強化策ではいけない」と結ばれていたが、まったく同感で自由形の1種目にも勝てなかつたことはプールを埋めた満員の観衆と沿道で盛んに歓迎してくれた人々の日本チームに期待を寄せた素晴らしい成績と活躍にまったく反し申訳のないことであつた。自由型の中距離に線の太い絶対的強みの選手があればと痛感された。

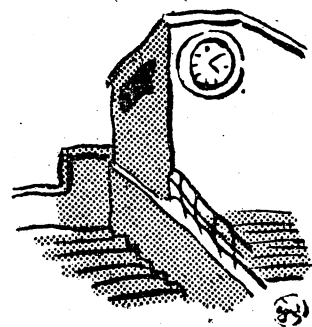
八幡大会は高知と同様に日本チームは低調でこれと反対に米国チームは堂々の活躍振りで「八幡大会も非常に愉快であつた。選手が全力をあげてくれたので喜んでいる最後の200米リレーだがどうしてこんな記録が生れたかと聞かれても、ラツプを見てくれ合計するとそうなるではないかという以外に答え様がない」とキツパス監督御満悦の呈で9種目に大野の800米自由形と石本のバタフライ、古川の平泳で勝つただけ6種目に敗れ「生彩を欠いた日本チーム」「体力の差目立ち特に疲労の色が濃かつた」と評されコーチ陣の頭の痛いことであつた。それにしても米チームの200米継泳は素晴らしいもので1分40秒4（アームストロング26秒、マツキンタイヤ25秒2、ギデオンス24秒8、パターンソン24秒4）の爆発的スプリントには只敬服するのみであつた。お互に疲れているのは同様に真剣に泳いでいるのでレースに迫力は勿論感ぜられるし充分楽しく観戦出来る好レースの連続ではあつたが日米対抗に勝つたチームとしては甚だ不出来でおそまつなものであつた。八幡大会もレース途中豪雨に見舞れたが満員の観衆は立たなかつた。呉大会も相当ひどくレース途中雨に降られた、白熱したレースは観衆を釘付けにはした。呉大会も相変らず自由型不振で各種目に敗れわしたが2種目のリレーと、平、背、バタフライの5種目に勝つて三度目の正直でやつと優位に立つた。殊にこの大会で長谷が初めてオヤカワ等を押えて勝

ち名乗りを上げたしバタフライで石本は混継泳のラップではあるが100米を1分2秒台で泳いだことは特筆さるべきものであつた。米国チームにもパターソンが100米自由形に56秒8という日本於て初めて見る快記録をものにして大会を盛上らせた。某紙の時評に「日米呉大会は盛況で前売券は早く売れるし当日売もプレミア付きで飛ぶ様に売れた。スタンドも通路も背後の山も空地を残さぬ人垣で超満員アマチュアの国際競技で興行ではないがヘタな興行が足もとも寄れない観衆の動員であつた。この驚くべき人気のよつてきたる処を究明すると、日米水上といつても彼我20人ばかりの選手が50米プールを入れ替り立ち替り泳いで見せるだけの話で、いかに早く所定の距離を泳ぎ切るかという極めて簡単な目的しか持つていない、これをショウというならばこんな馬鹿気たアツけない番組はない、だが大観衆は誰一人として大会を馬鹿気た見せ物と思つたり入場を後悔したりするものはない筈だ。みんな緊張した競技のフン囲気に打たれ、我れを忘れ選手の奮斗に声援を送つた。プロスポーツの野球に熱を入れたり、プロレスの素晴らしい人気も知つているが、その何れとも日米水上のフン囲気と違つている。日米水上チームは世界最高の水準にあり、両者が試合することによつて、人類のなしうる最高の記録が産み出される機会を多分に期待出来るのである。人がその理想に向つてひたむきに努力し、真剣につき進む姿は美しい。呉プールを舞台に人類未到の境地を産み出すための、選手の必死の努力が展開され、そこにスポーツの麗花がけんらんと咲き乱れるのである。吾れも吾れもと、この大会に吸引されたファンの心理は勝つものの強さを自分の目で見極めたかつたのである。いつわりのない世界一の力量を目の辺り見たからで、この大はその期待に充分に答えて呉れたことに意義がある」といつた様な意味のことが書かれてあつた。

奈良大会は連日の晴天で水不足に悩む地元関係者の苦勞は大変なもので種々と裏話があつた。「日米対抗とそつくり同じメンバーで両国選手とも疲れも見せず歓迎という気楽なレースにもかかわらず激しい熱戦を展開し、天理プールに初めての国際ナイターレースを味わしてファンを心行く迄満足させた」と評された。

何んといつてもここでは400米リレーで第1泳者として56秒8を出しパターソンに次いで日本に於ける

2人目の56秒台を記録した谷は全勢をかつて100米自由形に秒56秒4という水泳界待望の記録をしかも僅か2、3時間の間に2度もものにする快挙を取つたことである。谷はレースに弱いといわれ乍ら、たゆまざる精進を続け、遂にこの快記録を出したことは只敬服し、愉快の限りであつた。この大会では米国選手の大部分もデモストレーションとあつて気を抜いた感があり、このためばかりではないが次いで行われた名古屋大会では完敗を喫した。勿論下痢患者の続出で米国チームはパターソン始め4名がこの大会に欠場するという事態があつたがさすが強気のキツパス監督をして最悪の日と嘆ぜしめる結果になつた。従つて名古屋大会は盛り上るフン囲気は感ぜられず淡々としたうちに悪条件を克服し、隨所に好レースが展開され期待された快記録こそ出なかつたが日本チームは全種目に勝つた。特に長谷は呉大会に次いで優勝し万丈の気を吐き、タフの古川も背骨が痛いと訴える程疲労していたが堂々の健斗でファンを魅了した。この名古屋大会を最後にして交歓競技は全部終了した。各地を廻つて見て何れの競技会も満員の観衆を動員し競技が行われたが選手にとつては全日本選手権大会以来の緊張の連続で殊に交歓競技会では観る人々、場は変つてもレースの相手は同じ顔振れで食傷気味であるし、ファンの心理は勝つことと、快記録を期待されるのであるから一人の気のゆるみは全チーム競技会そのものに影響することを自覚して、自戒、自重しながらの毎日の行動で本当に御苦勞であつたし無事任を終えたことは同慶の至りである。亦この五ヶ所の交歓競技会を開催された各地の関係者の各位には諸準備に日夜を分たぬ御苦勞を重ねられ、われわれの為種々御厚配を賜つた数々は終生忘れ得ないもので只々敬意と感銘に堪えない次第で厚く御礼を申上げ、最後に監督して隨所に不行届きや不能振りを発揮し御迷惑を御掛けしたことを深く御詫び申し上げ、以上を以つて交歓競技会の報告とする。



# 日米対抗水上に参加して

太田光雄

今夏スポーツ界の話題を浚つた第4回日米対抗水上競技大会は日本チームの予想外の善戦によつて、3度目の優勝を成し遂げた事はまだ記憶に新たな事である。日本水泳としては戦後の立遅れから、古橋君の出現によつていち早くカムバックはしたもののヘルシンキオリンピックの敗北によつて「水泳日本地に墜ちたり」ともいわれたのであるが、連盟としては唯一筋に次のメルボルンに備えて着々と準備して来たのである。

この第4回の日米こそこれらの成果を試す為の絶対に負けられない試合であるとして関係者の決心は容易ならざるものであつた。この非常に重大な、日本水泳が再びオリンピックで覇を競い得るか否かを卜する試合に際して、国際試合の経験の浅い若輩である私がコーチとして重責の一端を荷い、又選手としては非常に経験は多いが指導陣としては、初めての古橋君がマネージャーとして選手の世話をする事になつたという事は従来の例からすれば違例の事であつた。これは経験の深い小池監督の下に、若さで以つて一丸となり一気に米チームを撃破するという当局の異常な決意の現われでもあり、一つの大きな冒険でもあつた。

一般的な予想としては双方とも選手を選抜する為の全米選手権、全日本選手権の記録の比較によつて、僅差で日本が有利であつたが、又日本不利をいう者も半数近くあつた。そして来日後の米チームは序々に調子をあげ両軍の記録会の結果はあきらかに日本不利になつてきた。しかも絶対日本劣勢の飛込競技の得点までが競泳の得点に加算されるに至つては、その敗色は一層のものとなつた感があつた。併し小池監督はじめ吾々はあらかじめこの事あるを

予定して練習スケジュールを樹ててあつたので、多少の選手達の不安はあつたとしても、少しも慌てる事なく、スケジュールに従つて迷う事なくチームワークを保ち乍ら楽しい雰囲気調子を持つて行く事が出来た。というのは小池監督は「日本選手はこのチームに選抜する為の全日本選手権に備えて春以来猛練習を続けて来しかも大会は4日間とも悪戦苦闘の後に選抜されてきたので非常に疲労している。泳ぎ方は皆最高度に調整されているから、あとは只休養による体力の回復と、やらんかなの気魄だけだ」という意見で、吾々も大賛成であつたので、この方針に従つて直ちにスケジュールを組み試合迄の10日間を専ら休養に全精力を傾けたのである。

この方針が適中して3日間の試合中、日本選手は尻上りに調子を上げて行くのに対し、米チームは来日以来の練習の疲労が丁度試合に当つてしまい、連日の火の出るような熱戦の末、予想もしなかつたリレー3種目にも勝つてこの大冒険に成功したのである。

今度の勝利によつて終戦以来負け癖の付いた日本水泳界もメルボルンへの道が明るくなつた事は大きなプラスであつた。併しこの勝利に酔つてはいられない。眼を一走り世界の水泳界に転じて見ると「日米に勝つたチームが次のオリンピックの勝者である」というジンクスをそのまま受取る事は出来ない情勢にある即ちフランス、ハンガリーに新鋭ソ連等をはじめとした歐洲勢南米、それに地元の優位と実力を誇る濠洲等が日米の2大勢力を覆えさんと虎視眈々としてねらつている。

「メルボルンへの道は未だ遠い、頑張れ、頑張ろう」これが今の水泳日本の合言葉である。

# 日米チームと 地方を巡つて

伊 藤 謹 平

東京の大会から数えると40名前後の人員が1カ月近く旅をし、競技をするのであるから計画はあらゆる面から検討され、そして駄目押しをされなければならない。この点若干の手落ちがあつた様だ。その大きなものの一つは極東航空であり、他は犬山に一泊したことである。

全般的に相当余裕のある日程を組むということは各地方の競技会を成功させる要因であると思う。今回の場合は旅行と競技会が一日交代で相当にこたえた。犬山における中毒の遠因の一つにこれがあると思う。長い日程には休養ということを第一に考えねばならない。この点交通機関には全部座席の指定のあるものを選んだが、マネジャーが楽であるということ以外に相当楽な気分になれたと思う。他の例から考えて楽な日程であるとも見えても、宿泊の場所が常に移動するという事は、たとえ競技をやらないうにせよ選手に休んだという感じを与えない。呉大会における宮島宿泊は環境もよし水泳を忘れる為にも最もよい休養所と思われたのであるが、その翌日競技会当日に移動しなければならなかつた点遺憾であつたと思う。これは名古屋大会の場合も全く同じである。簡単なことであるが競技会のあるその土地で前日は宿泊するということが必要である。日程其他の関係で甚だ困難ではあるが、競技会と観光は切離して考えねばならない。観光は休養にはならない。この点高知の場合は観光と休養が両立して地方大会の第1日でもあり非常にうまく行つた。尾長鶏と闘犬と太刀舞を宿所の庭で見せて貰つたが、一応これで高知を見てきたということになると思う。名所旧蹟にはこの方法は用いえないが。

デモンストレーションというものは何かわけのわからぬもので、今後はこのような中途半端なものはやめるべきであろう。谷が56秒台をマークして非常に意義があつたとはいえ競技会とのケジメが付き難い点が多々ある。奈良、京都を見るついでに切角立派なプールがあるのだから、ということではあつたが、やはり観光に徹するか、競技会にしてしまうかど

ちらかを選ばなければならなかつたと思う。

極東航空の件は大げさにいえば薄氷を踏む思いであつた。二機チャータして行く予定が、その一機が前日破損し、一機で往復したが、そもそもこの飛行機が相当なもので、四発ではあるが高翼の現在これ以外にはあまり見られないもので、米人が日本人より目方が重くては困るという代物で、全員の重量を平均して着のみ着のままで分乗した。高知の飛行場がこれに輪をかけたもので、滑走路の外にはペンペン草だけといった状態であつた。最近我々のこの愛機は機体が危険の為航行停止になつた。何れにしろこういう点事前に駄目押ししなかつた点は申訳なく思つている。

八幡に於ては出発の日、希望者が製鉄所を見学に行つたが極少数であり、いろいろ準備して貰つて申訳なく思つている。

犬山宿泊の件は当初名古屋二泊の案をこちらから変えてもらつたのだが、我々の常識的な判断でよからうと思つた点が失敗のもとで宿舎など立派なものを予想していたが、やはりこの点も実際体験してないものに対しては石橋をたたいて渡る注意を払わねばならぬと思つた。この中毒事件も通常全く健康な健康人には影響がない様なものであつたそうだが、食物そのものが完全でなかつたことは事実であり、それに日程の最後にきた疲労と、気分的なゆるみ、当夜の冷え等色々と重なつて遂にこの様な失敗をしてしまつた。

又米人を日本の宿舎の畳の上に寝かせることは避けた方がよいと思う。又別の点から日米双方が同一の宿舎に泊ることも数を少なくする方がよい。珍らしい体験をする、お互が交観をするということは十分な休養をさまたげるからである。

要は選手というよりも競技者の立場になつてあまり多くのプログラムを織り込まない方がよいと思う。

終りに臨み各地方大会の運営に当られた方々に衷心より感謝致します。

# 日米對抗飛込競技所感

柴原恒雄

先ず最初に飛板飛込に於ける私の日本側に最も有利な最も甘い予想としては、ハーバー選手の得点を合計160点から165点と抑え馬場君を最高の失敗皆無の143点と見れば現在迄の成績から予想してその得点差17点(約1種目の得点)で日本側としては最高最善の勝負であつてそれ以上は到底望む事自体不可能であつたと思う。

実際にその個々の成績を拾つて見ると、最初の規定飛5種目に於けるハーバー選手の評点平均が丁度8点で得点合計75.39点、馬場選手の5種目の評点平均が7点で得点合計が66.28点、その得点差9点11となり規定飛の得点差としては米国側が選択飛に於て大量得点を予想されるだけに馬場選手の規定飛中に一番懸念された後踏切前宙返り1回が評点5.7点、得点にして9.69点は非常に痛かつた。

選択飛に入つてハーバー選手が後踏切前宙返り2回半(抱)の難種目を得意の優れたスピーディーな回転力を利用して20.54点、最終種目の走り前宙返り1回半2回捻りで19.24点と確実に大量得点を挙げたが選択飛5種目の評点平均7点、14得点合計85点22で得点の平均が17.04同選手としては必ずしも大量得点といへなかつたと思うが、規定飛、選択飛を通じ、特に走前逆飛蝦型の重心の運び方と、走り前宙返り1回半2回捻りの入水直前の体の纏め方は正に天下一品で有り、得点累計160.61点を得点し、過る昭和10年来朝したドイツ・デゲナー(ベルリン大会優勝者)と略同得点を記録した。

一方日本側の馬場選手は前宙返り2回半で16.10点を又後踏切前宙返り1回半で15.84点と予想通り確実に得点出来たが同選手の全種目を通じ最も苦手とされる後宙返り1回半に於ては10.08の得点に止まり、選択飛の得点合計69.70点、得点平均13.94点で得点累計135.98点、ハーバー選手との得点差24.63を以て惜しくも目標の140点台の記録を見ず見す逸して終つた。

次に高飛込に於ては、日米双方代表選手1名の枠の関係上特別出場の馬淵選手と代表の馬場選手がどの程度ハーバー選手に食下るかが見物で有つて、恐らくその差は13点内外のところで争う事を予想されていた。先ず規定飛に於て馬場選手が第3種目の逆立中抜後飛に逆立の不確實から不用意に大失敗を演じ一挙に12点程度を「ロス」してしまつた。ところが練習中に逆立飛の入水で肩を痛めていたハーバー選手が又々逆立中抜飛に於て逆立の立直しを演じ、その際立直して迂濶にも両手を飛台から離してしまつた国際ルールによりこの種目は零点となり、規定飛に於て思わぬ大波乱を生じて終つた。

一人馬淵選手が着々と自己のペース通りに得点を重ね規定飛に於ては得点合計78.25を記録し、ハーバー選手を6.26点リードした。

三者の規定飛の得点合計は、ハーバー選手が71.99点、馬場選手が60.51点、馬淵選手が78.25点となり馬淵君リードのまま選択飛に入つた。

選択飛に於てはハーバー選手の1種目の平均得点は最底17点を予想されていたが、選択飛第2種目、後宙返り1回半の蝦型に於て入水浅く、8.36の得点に止まり馬淵選手が7.70点リードを続け第3種目に於ては馬淵選手が後踏切前宙返り2回半で15.12点を得点、ハーバー選手は前1回半2回捻りで17.94点を得点しその差4.88点と縮まつたまま最終種目に入つたが、馬淵選手は前宙返り1回半回捻りに於て12.42の凡技に止まり、逆にハーバー選手は、最後に彼の持つ最も優れた回転力を利し、前宙返り3回半に於て堂々と本競技最高の20.52を得点し、遂に馬淵選手の累計得点135.03に対し138.25を得点し逆に3.22点とリードを奪う結果となつてしまつた。又馬場選手は選択飛に於ては平均点14.65を記録したが、規定飛の逆立が祟り累計得点119.13に止り1種目の失敗が如何に大きい結果を齎すかを痛感せざるを得なかつた。

# 日本選手権水上競技大会を観て

藤 田 明

本年度の選手権大会は、第四回日米対抗競技のため平年のスケジュールより2・3週繰り上げて開催されたため、参加選手のコンディショニング如何に依つては、期待外れに終つて、関係者の失望を買うことを憂慮されたが、各チームの熱意と選手の努力が見事実を結び、古川の200米平泳2分36秒0の長水路世界最高記録を始め、日本記録10、タイ記録6を量産して、稀に見る豊かな大会となつたのは喜ばしかった。

もともと本大会は日米対抗予選を兼ねて日本代表選手を選考することを予告され、しかも会期の7月21日～24日は、アメリカ選手を選抜する全米選手権大会の期日20日～22日とラツプするため、期せずして両者の記録を対比することを余儀なくされ、日米対抗競技の前哨戦となつたのは言う迄もない。しかも過去の歴史は、日米対抗を制した国がオリンピックを制することを繰り返しているので、取りも直さずメルボルン・オリンピックの試金石たる役割をも兼ね、殊の外関心を呼んだ。

この様に特殊な意義を持つ大会であつたが、まずまず期待に近い成果が挙げたとみるべきで、メルボルンへの布石は順調に打ち進められた感が深い。

主流と見られる男子競泳は、質量両面とも充実を示し、自由形短距離では特に100米が素晴らしく、決勝第三位迄の古賀、鈴木、谷が予選、準決勝、決勝の三レースに悉く58秒を割つたことは特筆に値しよう。選手権を獲得した古賀が57秒2、57秒0、57秒0と確実に泳破して、名実相備わる世界的スプリンターの貫録を身につけたのは収穫で、鈴木の見事なカムバツクと、谷が「大レースに弱い」とのジンクスを返上したことと共に喜びに堪えない。期待された浜島、清水、菅等が伸び悩み、58秒8に留つた後藤の後沫を浴びてやゝ失望を買つたなかで、東野が独り200米に飛躍を誇示したことを忘れてはなるまい。

中長距離では何といても努力家大野が18分29秒4の大記録をものして光彩を放ち、俄然日米対抗、メ

メルボルンの柱石としてクローズアツプしてきたことを銘記すべきだ。次いでは、アジア大会で自信をつけた庄司、青木の両ベテランが堅実に地歩を確立したこと、野田がインターハイの好敵手野々下、金谷を振り切つて一足先きに国際水準に到達した事実を指摘したい。池尻、山中、八木等高校の偉材が轡を並べて、あと一步のところ迄擡頭してきた点も見逃せない。前年、前々年の英雄新宅と山下が、健康上の障碍に阻まれたとはいえ、争覇戦線から姿を消したのは淋しい限りである。好漢の自愛を祈り、捲土重来を期待したいところだ。

昨年来充実振りに視聴を集めてきた特殊種目が、本年更に歩を進めて、水泳日本の布陣に一段と調和性を加えたのは嬉しい。100米背泳で1分7秒5に留つた長谷が、200米には2分26秒8の日本新記録で応え、黒佐も亦100米で待望の7秒台に突入した。山下、二宮、田口等の新人群が擡頭して沈滞を破る気組にある時に、鬼才富田の不参加は、心から惜しまれる痛恨事であつた。

平泳で木村、胡麻鶴、田中が停滞気味であつたのに反し、古川が春以来好調を続けた潜水泳法を駆使して、世界記録樹立を絶対化した健闘は存分に讃えられてよい。又戸上が実力一杯に戦い乍ら、スプリント不足にたゞられて日本代表となる機を逸したのは気の毒であつた。

バタフライに於ける石本の向上は、前年世界第一人者の榮譽に輝いた長沢の境地に文字通り到達して、両巨頭相並ぶ壯観を演じ、限りない力強さを示してくれた。後続者の輩出も力強い限りだ。

上記の男子競泳に比べ、進歩の遅いのを嘆かせるのは女子競泳であろう。50の神野、200の佐藤、バタフライの寺垣内等が日本記録を更新して気を吐いたが、オリンピック種目は何れも停頓気配で、陸上競技、体操、飛込のメルボルン参加が有望視されつつある際、孤影悄然取り残されているのは誠に寒心に耐えない。前畑の偉業を継承すべき平泳はもとより、全般の劃期的躍進を特に待望して止まない。



# インターカレッジ感

小 池 礼 三

質量ともに日大の方が早大に優っている様に思われた第31回のインターカレッジでは、日大が早大の五連覇を阻むのではないかと見受けられたが、結果は早の101点、日大の95点と僅か6点の差でインターカレッジに強い伝統を発輝する早大の優勝するところとなつた。この結果は例年通り早大が下位得点で着実に点を重ねていたのに反し、日大は首位を七つの多くを数えたのかかわらずこれに続くものがなく、又背泳で二種目とも一人の決勝進出者がなく32対0という差をつけられたことが直接の敗因になつている。インターカレッジで2種目にスコックを喫して勝つということは一寸考えられない。

一方早大は首位の数こそ尠なかつたが決勝得点者が日大の17人に対し22人を数えチーム力という様なものを発輝していた。特に主将横田のファイトは率先してチーム全体によく作用していた。800米などでは途中大きく水を呑んでいなければもつと大野に喰ひ下れたし又得点もより多く取つていたと思う。その他でも得点不能と思われた浅野、多田が早大全体のファイトを代表するかの如く貴重な点を稼いでいたことは印象が深かつた。

中、長距離で点をあきらめた山下がバタフライに一時的にせよ転向して100、200共に三位を占め8点

を自軍にもたらしたことは、若し早大にこの点になかつたことを思うとまさに起死回生の策であり敢えてこれを断行した先輩と本人に対して大いに敬意を表したい。又このことは今後、山下本人にとつても何かよい将来をもたらすものがある様な気がする。

レース当時の日大はそれ程、斗志が欠けていたとも思えなかつたが勝つた早大の方が今年の陣容に容易ならぬものを早くも見てとり非常な斗志を日大以上に発輝していた。

日大はインターカレッジに臨む前までに安易な計算の上に樂觀をし過ぎていた様な点はなかつたろうか。今迄に負けが込んでいるものと勝ち続けているものではそこに負けぐせ、勝ち方のうまさなどを考えに入れれば相当力の差をつけて置かなければならぬことを感じさせられた。

明治は野田が400で大野を破る殊勲をたててよく中大から三位を奪つたが、明治、中央、立教というところが今少し充実してインターカレッジにおける4、5位ぐらいまでが50点前後を分ち合う様になれば、競技はもつと面白くなると同時に往年以上に競技会ももり上り日本水泳界の推進体として申し分ないものになる。

## モスコー招待室内水上競技大会 1955年11月14日~17日 (50米 室内)

<b>100米自由形</b>				4. ソロビエフ	ソ	1:08.6
1. ロバーツ	英	58.1	5. リグビー	英	1:09.0	
2. スコモロフスキー	ソ	58.3	6. コイミヨウ	仏	1:09.3	
3. バランディン	ソ	58.4	<b>200米平泳</b>			
<b>400米自由形</b>				1. ゴロフチェンコ	ソ	2:41.7
1. ザボルスキー	洪	4:43.4	2. ミナシキン	ソ		
2. モンセレー	仏	4:44.0	3. プーロフ	ソ		
3. アボビヤン	ソ	4:48.4	<b>200米バタフライ</b>			
<b>1500米自由形</b>				1. シモンズ	英	2:30.8
1. ザボルスキー	洪	18:55.3	2. タンペク	洪	2:32.3	
2. ラブリネンコ	ソ	19:04.0	3. テイローレ	仏	2:36.6	
3. プレス	ソ	19:12.4	<b>800米リレー</b>			
<b>100米背泳</b>				1. ソ 連		8:55.4
1. ボゾン	仏	1:05.1	2. 仏		9:01.7	
2. マジヤール	洪	1:06.4	3. スエーデン		9:16.7	
3. ブロツクウエー	英	1:07.6				

# 高校大会見たまま

勝 村 肇

日本選手権に活躍した高校生が、来年のオリンピックを前に、どんな成長ぶりを見せているか、又このゲームの中からどれだけのメルボルンへの明るい希望が生れるかという事が焦点であつたし、それが見事に叶へられたのが、今年のインターハイであつた。

男子は30校が得点し、而も優勝は最後の800リレーに持越されるという激戦の末、昨年第2位の三瀬高校が優勝した。

先づ長距離であるが400米に4分42秒台で、デッドヒートを演じ、1500でも予選決勝にそれぞれ18分台をマークした山中と池尻のレースは見事なものであつた。この調子を持続すれば立派な世界的泳者である。それにもまして、素晴らしいのは1500の6位が19分23秒、400の6位が4分50秒という今年のインターカレッジに匹敵し得るという事実で如何に選手層が厚くなったかという事を如実に物語つてゐる。高校生はピラミッドの頂点の直接の基礎である。この基盤の広く、厚いという事は欣ぶべきことである。

この事は他の種目にもあてはまる。バタフライでは、箕原の2分37秒は立派なタイムであるし、平泳の木村にしても背泳の富田にしても夫々2分42秒、1分7秒と一流に伍して恥じない記録である。技術的に気のついた事は、平泳では潜水泳法が多く用いられたが、浮き上りの際の呼吸のタイミングとかき手のまとめ方に一工夫ほしい処で、背泳ではビートに一層の強さが欲しい処だ。

この中で残念なのは短距離だけが100の1分、200の2分15秒を割る選手が一人も居なかつた事で、低調の感と否めなかつた。女子は予想された通り五条高校の連勝に終つた。

従来奈良、和歌山の対抗戦の感のあつたインターハイに他の大阪、静岡、広島、愛知、その他が相当の得点を得、而も優勝者を出した事は慶賀すべき事だ。戦後努力に努力を重ね勝利に勝利を積重ねて来た、奈良、和歌山を目標に之をふみ越えてゆく練習が各地で行はれて居る証である。もう一層の努力を以て、之と覇を争ふ処まで行くこそ女子水泳界の、のびてゆく道があると思う。

高校生はすべての意味で未完である。そこに又のびてゆく強味もある訳だ。そこで最初からとび出して行つて最後まで勝ちきつてしまうという積極的なファイトの固りの様なレースの出来る様、不断の練習を積んでメルボルン行きの中に多数を占める様に祈る。

## 水 球

参加校15チームにて、結局決勝は昨年と同じく鴨沂と済々黷が相まみえ、6対2にて鴨沂の連覇する処となつた。鴨沂はセブンがまとまり順当な結果、その他は跛行的傾向でチーム力を發揮出来なかつた。各チーム共基本の泳力とボール技術が未熟の為、ゲーム中相手方を持ち、捕える等の醜いプレーが多かつた事は考えるべきであり、特に都会チームは殆んど泳力が無かつた。鴨沂、済々黷に次で3位の日大二高も勿論乍ら、その他のチームも泳ぎ、ボールの基本技を充分練習すれば上位進出は可能であり、来年の奮起を望む次第である。

## 飛 込

例年に比べて出場選手数の多くなつたこと。これは非常に喜ばしく、選手の養成に尽力下さつた指導者の方々に敬意を表すると共に、選手各人の技術向上と併せ、将来に大きな希望をいだかせる。唯、高等種目を手がける事のみ目をむけ、是非とも必要にして欠くべからざる基礎種目をなおざりにする事のないよう切に要望したい。

又、競技運営面から一言すると、出場申込後、止むを得ない種々の事情で出場出来ない場合があるが飛込競技に於て1人の棄権が競技運営時間に大きな影響を与えるという事を再認識してもらいたい。

飛板飛込に例をあげると。(予選、制限選択5、及び自由選択第1番目、計6種として。)即ち予選に1人6種目飛ぶ。今かりに1種目50:~60:とすると、1人の棄権によつて予定時間より5分~6分の違いが生ずる。4人の棄権は20分~25分近くのプログラム時間変更となつてあらわれる。プログラムは予選から決勝迄選手の休養時間も含め、必要な順序に組まれてあるので、これをみだりに変更する事は出来ない。以上の事情を選手、コーチとも銘記して今後臨んでもらいたい。

# 第十回国体＝水泳競技＝記

白 山 源 三 郎

国体が地域廻りを終り、府県廻りとなる最初の大会であり、国体に対する数々の批判を整理して新たな発足をする様期待された第10回国体であるが、事実は殆ど新鮮さは出そうになく、大体は先例を踏襲して行われたのが第10回国体であるといつてよからう。水泳は殊に他の諸々と離れ時期を異にして行われてきているのでその要もないかもしれないが、もう少し新しい面を出し、進歩を計りたいものである。

例年の通り9月24日、秋分の日を入れ、丁度日曜日の25日を入れて、22日から25日迄の4日間、例年通りの種目で行われた。集るもの遠く沖縄の初正式加入を加えて全都道府県、代表選手計1,298名、選手以外の選手団員を加えて1,700名以上であつた。

場所は神奈川県、鎌倉市が本大会を機会に巨費を投じて造つた新設プール、競技プール、飛込プールの他に練習用25米プールもあり、大会の為にはプール東側と、北側建物屋上に臨時特設スタンドを設け、収容人員10,000人と称せられた。全体としては、後が山で、前が海であり、遠く三浦半島の晴景を遠望する事が出来るのみならず、空気が何となく明るく、気持よく競技し、観戦出来る場所である事が実証された。このプールの特質の一つは浄化装置であり、競技会の中心を競技用プールと飛込プールの間に置き特に司会塔を設けた事は我国では珍しい、その他設備について数個の新しい試みが行われた。競技をやってみると海から常に吹く風が選手を悩すとか、飛込台が前に出過ぎた観があるとか、之亦数個の批判が出たが、大体に於て好評と思はれる。

4日間小雨が時々来て少し寒さを覚えた日もあつたが大体は天候にも恵まれ選手は十分に泳げたと思ふ。

非公式ではあつたが第1日午前10時から11時迄葉山御滞在中であつた天皇皇后両陛下が御来臨、熱心に御見物なされた、六年前、野毛山プールで行われた時以来の事で国体水泳に両陛下をお迎えしたのはこれが2度目である。第2日には高松宮妃殿下も御来場になつた。

4日間の競技を通じて見ると高校では激しいセリ合の上高知の木村(平泳)、静岡の富田(背泳)、神奈川の二宮(背泳)、熊本の池尻(四百)、石川の山中(四百)等の活躍により各種目に互り極めて優秀な記録を出し大会新記録を打立て、富田は100背泳に1:8.4、1:8.7と高校日本新記録を作つた。実業団には谷川(東京)、胡麻鶴(東京)、等大学選手が新人となつて入つていて大学時代に優る様な記録を出してこれ亦大会新記録を作り、女子では大阪の寺垣内(テラナイト)浦畑のコンビに静岡の松枝も加わり、新種目乍らバタフライによい記録で大会新を出し、大会の穴の観のある青年団では、大分県勢の活躍に新潟も加わりこれ亦大会新を作り教員についても、前大学選手浅野(愛知)の新記録等、各部門に互り実に27の大会新記録、この同対記録を出すという大収穫に終つたこの記録は同時に日本高校新記録(富田の背泳)、日本新記録女子バタフライでもあつた。

この結果高校は福岡の久し振りの優勝、実業団は東京との間に激しい争いの後、東京の優勝となり、教員の優勝が東京に行つた事により遂に総合優勝は福岡の久し振りの優勝の夢破れて東京の初優勝を結果する事となつた。女子は奈良の連勝、青年団は大分の精進実つて栄冠は同県に落ちた。

飛込競技は男子東京、女子大阪優勝となり、水球は猛練習により、よく纏つていた京都鴨沂の優勝となつたのは誠に当然といえよう。

恒例の公開演技としては関東地方固有の二流派なる水府流(特に水戸の)と江戸の向井流との意味で水戸より態々乾三郎、古川忠吾、大沼忠敬の三氏、滋賀県より石川芳雄氏、これに水連の多治見祐孝氏が加り、水府流を、水連の上野徳太郎氏が向井流を泳いだ、救助法は水連米谷義郎氏の指導で面白く行われた。特に今年初演技で少なからぬ感銘を与えたのは今夏日米対抗の時以来関心を深めていたシンクロナイズド・スイムを、研修会、東京女子水泳クラブの二チームで、初としてはよく纏めて実演出来た事で、我邦シンクロの歴史の幕が切つて落されたといえる。

# 第一回全日本中学校水泳通信競技大会

金 田 平 八 郎

いろいろ反省すべき点はあると思うが、本年多くの都府県参加の下、第1回の全日本中学校水泳通信競技大会が開催された事は真に喜ばしい事である。参加者数は推定であるが、4万近くに達するものと思われる。はつきり数をつかめる入選の50位迄に就いてのみ調べてみても、都府県数は男子34、女子32で、その中の29都府県が男女共に入選しているので、総計は37都府県となる。又、学校及び参加者数は男子155校、延701人、女子95校、延451人で、男女共に入選している学校が46校あるので、入選者を持つ実際の総学校数は214校である。これは、本大会に対して、各都府県関係者の熱意ある協力の顕れであることは勿論であるが、先ず、第1回として大成功であつたといえる。

8月28日の期日は他の競技会との日割関係の面から定められた事と思うが、中学校最大の競技会としても最良の成果を得られる適当な時期であつた。

都府県大会を兼ねて行うことは、水連のむしろ望んだ所であつたが、兼ねた場合は種目や制限の相違から、実際は都府県大会に関心が向いてしまつた所が大部分であろう。その理由は、通信競技の入賞が、都府県別には可成り特定の少数に限られてしまい、従来から各校が日頃目指してきた都府県大会の順位に大きな関心が払われていたからである。それに全国優勝可能の四、五校と各種目に優秀な個人を除けば、同一会場で行う場合と異り、特に他の都府県の様子が殆ど不明であることから、必然的に雲をつかむ状態となつて、余りその成果を期待し得なかつた。したがつて、通信競技の都府県大会と従来の都府県大会の二本立になり、二重の結果が出た。前者が一人1種目であるのに対して、後者が2種目であるので、チーム力をフルに使つた後者に、より多くの関心が向いた様であつた。しかし、通信競技の趣旨にある全国的気運の興隆や連繫には、可成りの成果を収めたと思う。実際、自分が全国でどの位の順位のところにいるかを知ること、今後の希望を更に明確に

し、大きな闘志を燃させた。そればかりでなく、自分と同じ位の力量の多くの友の名を知り得たことだろう。それによつて、文通などにより互に励まし合う様になれば、一層喜ばしいことである。

あらわれた成績については、会場が、全国に亘つている関係上、天候その他、多少条件が異つてくるが、水泳の場合、左程激しい差異はなかつたのではないだろうか。又、通信競技だけで行なつた所は都府県の選手権を兼ねた所より有利であつたろう。

府県別に眺めると、地域的に伝統を持ち、又、環境に恵まれた愛知、和歌山、大阪、高知、千葉、東京、広島、静岡、福岡、奈良、大分といった所が良かった。しかし、総体的に記録が可成り接近して著しい差はなく、前記以外の府県も相当の充実を示している。学校別では、中京（愛知）、桜宮（大阪）、九度山（和歌山）、城東（高知）の男子4校と九度山、椛山（愛知）、野原（奈良）、五条（同）、帝塚山（大阪）の女子5校が特に良く、優勝圏にあつた様だ。中京と九度山はとりわけ断然たる強みを發揮して、輝く第1回の優勝を飾つた。他は接戦で、当日の僅かな、好不調が順位に著しい変化を來した様だ。特に短距離や特種目は記録が非常に接近して一喜一憂の結果を生んだ。優勝校がリレーの種目に好タイムで、一位を占めているが、各校の今後の対策に注目を要しよう。それは前記の各学校に続く鳴門二（徳島）、西岬・白浜（千葉）、竜洋（静岡）、日大一（東京）、五条の男子入賞校と松蔭（兵庫）、土佐女子（高知）、嘉島（熊本）、館山二（千葉）、平野（大阪）の女子入賞校のすべてがリレーに得点しているのをみても分る。個人的には平泳の青木幸子（九度山）3分3秒7が最も光り、他の上位も良い記録を残している。以下、本大会での目星しい選手を挙げると、自由形の末永豪（長門深川）、鈴木高行（勝山）、石井道美（西岬）柏幸夫（鳴門二）佐藤光伸（上町）、庄司敏夫（和田）、竹林功男（桜宮）、背泳では大宅秀明（九度山）、

丸山義秋（大入島），勝又完一（鷺津）平泳で松山勝美（九度山），加藤浩時（中京），バタは早川諒（白浜），武市啓志（城東），村木直視（中京），女子では自由形の芝原笑子（輪島），鍵山陽子（土佐女），西岡佐代子・正野好子（九度山），松中佐江子（帝塚山），寺井貴子（野原），背泳は田淵恵子（野原），山本淳子（帝塚山），鏡味満子（椚山），平泳では前記青木の他，村島伊志乃（五条），佐藤敬子（松蔭），西田千鶴子（土佐女），バタは行繩美代（館山二），木村田鶴子（九度山），桑原月枝（安芸津）等である。

大学と高校，又高校と中学の関連と同様に，中学を強くし，層を厚くするためには，小，中学校の水泳人口，換言すれば，その土地の水泳に対する関心を高めることが必要である。特に水泳の盛んな小学校を持つ地域の中学校は，今度の大会にも非常に良い成績を挙げ，又，毎年安定した強さをみせている。

種目は，出来る丈，オリンピック種目という事になり，又，入賞者を増すためと集計の労力を考慮して1人1種目，そして50位迄とる事に決つたが，種目をインターハイの様に増すか，又1人2種目として，都府県の選手権大会を全国統一した形で実施するかは，今後の研究課題である。が，とに角今年50位迄を入選とした事は大変良かった様に思う。というのは，日本水泳界が中学校に望む最大の狙いは，将来性ある優秀選手の層を厚くするにあると思われるからである。多数の優秀選手を生み出し，その厚い選手層のレベルを全面的に高めることが大切である。勿論，少数入賞でも，その目的が全く達成されない訳ではないが，多くを入賞とした方が，より効果的であつたと思うからである。加えて，同一会場で行う大会でない通信競技には，尙一層その感が深い。中学時代に於て，少しでも良いに越した事はないが，よし傑出していなくとも，将来性のある泳ぎであれば，高校或は大学に於て優秀な泳者になり得るからだ。それに男子の場合は，ごく特殊な例を除き，身体の發育過程からみて，中学時代が最高の時機とはいえない。又，その反面，各人の泳ぎの基本となる時機であるから，非常に大切な時でもあるが，ともあれ，未知数に近い中学生の1人でも多くに喜びと希望を与えたことは大変良かったと考える。しかし，一口に50位というが，その集計には朝日新聞の通信網によつたのであるが，並々ならぬ蔭の力が

あつた事と思う。入賞校の決定と並んで，入選者数による入賞府県を決めた事も各都府県の今後の対策と夫々の府県の層の厚さを知る方法として甚だ良かった。以上総括して，本大会が第1回として成功したのは水連のとつた適切な企画と中学をここまで引上げて下さつた各方面の多数の方々の努力とによるものであつたと思う。

顧みるに，戦後，学制改革により生れた中学校の水泳競技は，他の競技と同様，全くの出発点に立ち，肝心のプールも殆どの学校が持つていないし，水泳指導に特に熱心な先生というのは非常に少なかつた。そういう点で，戦前から伝統を持つ地域や私立校は恵まれており，新学制になつてからも，いち早く，今日の躍進の魁となつた。更に敗戦により，渾沌とした社会様相の中にあつて，日本水泳界が次々と世界新記録を樹立し，われわれ国民に大きな確信と明るい気持を与えたが，これによつて，全国の中学生の水泳競技に対する関心は一段と高まつた。又機関誌「水泳」に発表される年度の20傑や各地の大会の記録の記事は，全国の中学生やその関係者の大きなより所となり，刺激を与え，逐年，中学の水泳競技をすばらしい勢で上昇させる因となつた。かくする内に，漸次安定して社会状態の故もあつて，ヘルシンキ以後，特に，若い競技者層へも大きな関心が寄せられてきた。昭和28年より全国中学校水泳教室が開設され，全国中学校関係者に，好反響と好成績をもたらした。それは私自身第1，2回と参加し，今日，その成果が漸次あらわれつつあることを確認し得る。即ち，泳ぎそのものが，年1年向上し，伸びのあるスケールの大きな中学生の泳ぎを，各地で目のあたり見て，6,7年前よりその進歩の大きいのをつくづく感じた次第である。更に本年より開催された通信競技大会の今後の成果を総合すれば，その前途は益々明るいものがある。

ところで，新学制により，新制の中学と高校に分割された今日では，旧制の中学の様に最も大切な時機を一貫した指導が出来ず，ために，高校も中学も悩みがあるが，現在の学制が変らない限り，嘆いても致し方なく，問題はむしろ新制の中学と高校を如何にして強くし，連繫せしめるかにある。幸い，新制の中学は義務教育であり，日本人の誰もが同等の資格で受けねばならぬ過程にあつて，選抜された旧制の場合より，はるかに多数の生徒が在学している。それは水連の標示する国民皆泳を小学校のみな

らず、中学まで、組織を通じ、水害から身をまもる技としても必要な水泳を徹底せしめ得る状態にある。されば、その徹底度の多少により、従来より更に厚い層を形成し得る訳である。しかし、そのためには、現在ですら非常に少いプールや指導者の問題を解決する必要がある。厚い水泳者層からは必ずや、よい泳者があらわれるであろう。

又、中学生の対外試合についても、色々問題がある様であるが、これも教育的見地に立つての指導が徹底すれば、左程のことはない様に思う。ただ、同一会場による、中学校の全国大会の場合、特に義務教育であるため、交通費、宿泊費等の捻出に対する学校予算、個人負担等の問題打開が鍵となるだろう。又、体育以外の教科については、既に全国大会が開催されている様であるが、これが許されるならば、体育も重要な一教科であり、身体的発達及び社会的性格育成のよい機会として、中学生の全国大会をもつことが誤りであろうか。しかし、これはさておき、私個人としては、インター・ハイのブロック大会のような中学校の大会が、開催される事を望んで止まない。これは費用もずつと少くて済むし、運行も速やかにいくと思う。又、全国大会にしても、

ブロック大会を経て、極力参加者数を減少すれば、大会日程も縮まり、経費が軽減し、1校当りの費用はずつと少なくなつて、必ずしも、学校や個人ばかりの負担でなくて、よい方法が生れ得るのではないだろうか。スポーツは最良の親善となるという事を耳にするが、日本選手が外国選手と交歓競技をしても、ただ単に、勝敗だけではない筈で、必ずや親交がなされて、そこに又、大きな価値があるのだと思う。況して中学生は、その大会がどの様な大会にしる、勝敗にのみこだわつたらいけない。そこに体育としての教育的見地の重要さが含まれ、又、道もひらけることだろう。

いささか、本題から途中逸脱した憾があるが、これも戦後新しく出来た中学校のもつ問題点であり、その経緯や当面の諸問題は本年実施した通信競技につながる根本問題と思ひ、所信の一端を述べた次第である。終りに、第1回全日本中学校水泳通信競技大会の成功に対し、中学関係の一員として衷心より深謝いたすと共に、今後共、中学生諸君の真にためになる御指導と良き機会をお与え下さる様、関係各位にお願い致す次第であります。

(小金井第一中学校教官 東京都水協理事)

## 万国青年祭

30.8.1~8.14 於 ワルソー 50米水路

### 男子

#### 100 自由形

	決勝	予選
1. バランディン (ソ連)	57.7	58.7
2. エミナン (仏)	57.9	58.6
3. ニエキ (洪)	59.4	57.8
4. カダス (洪)	59.2	59.1
5. モロツコウスキー (波)	59.2	59.1
6. ソローキン (ソ連)	59.4	59.8
7. スコモロウスキー (ソ連)	59.4	59.7
8. ベツク (羅)	59.4	59.3
トルカチエウスキー (波)		59.8
イパツクス (洪)		60.0

#### 400 自由形

1. グレムロウスキー (波)	4:39.8	4:44.4
2. ソルダス (洪)	4:42.8	4:45.9
3. ザボルスキー (洪)	4:47.5	4:48.2
4. アボヴィアン (ソ連)	4:49.4	4:46.2
5. リーチ (東独)	4:49.9	4:46.9
6. バツラ (チェツコ)	4:54.7	4:54.0
7. ヴインク (中共)	4:55.0	4:54.2
8. スメルダ (チェツコ)	4:55.8	4:53.1

#### 1500 自由形

1. グレムロウスキー (波)	18:51.7	20:17.5
-----------------	---------	---------

2. ソルダス (洪)	18.56.0	19:28.7
3. ラブリネンコ (ソ連)	19:11.8	19:38.5
4. ザボルスキー (洪)	19:24.7	19:38.7
5. リーチ (東独)	19:25.9	20:02.7
6. セヴェラ (チェツコ)	20:03.4	20:28.2
7. メデル (羅)	20:20.6	20:24.4
8. ハツサン (埃)	20:23.9	20:13.1

#### 100 平 泳

1. フリツチェ (東独)	1:12.6	1:13.4
2. サンスン (中共)	1:13.4	1:13.9
3. ウタシ (洪)	1:13.6	1:14.7
4. クアンピン (中共)	1:14.6	1:16.5
5. ファビアン (洪)	1:15.8	1:16.1
6. クロボトウスキー (波)	1:15.9	1:17.0
7. ククロツク (波)	1:16.5	1:16.6
8. デレントウイツツ (波)	1:16.5	1:16.5
ヘイツ (羅)		1:16.9
シーサン (中共)		1:16.8
ドブロスケ (東独)		1:17.0

#### 200 平 泳

1. ウタシ (洪)	2:39.4	2:42.4
2. フリツチェ (東独)	2:42.4	2:45.2
3. サンスン (中共)	2:43.1	2:44.8

4.	ブロフセンコ (ソ連)	2:44.2	2:46.0
5.	ヘイツ (羅)	2:44.6	2:47.2
6.	エンケ (東独)	2:46.7	2:47.1
7.	ニユデムスキー (波)	2:48.0	2:46.0
8.	フアビアン (洪)	2:48.2	2:46.9
	オアント (羅)		2:48.6
	ボセカヤ (波)		2:48.1
	ドプロチエツク (東独)		2:48.1

### 200 バタフライ

1.	ボベスコ (羅)	2:36.1	2:39.4
2.	ストルザーノフ (ソ連)	2:36.2	2:37.2
3.	フェイエール (洪)	2:36.5	2:41.3
4.	ラシンスキー (波)	2:38.2	2:39.4
5.	スペングラー (東独)	2:38.4	2:38.0
6.	サムエル (チェツコ)	2:38.5	2:41.8
7.	ビユーラー (東独)	2:41.2	2:39.2
8.	クラスカ (波)	2:45.4	2:44.6
9.	オカンボ (墨)		2:45.9

### 100 背泳

1.	マジヤール (洪)	1:05.6	1:08.7
2.	バシク (チェツコ)	1:06.7	1:08.0
3.	クヴァルデイン (ソ連)	1:08.1	1:09.8
4.	クリメント (洪)	1:08.0	1:09.8
5.	サンバラ (波)	1:09.0	1:09.0
6.	ジヤスキウイツツ (波)	1:09.4	1:09.4
7.	ドレスラー (東独)	10.9.7	1:09.7

### 400 メドレーリレー

1.	洪 (マジヤール, ウタシ, タンペク, ニエキ)		4:20.2
2.	東独 (ドレスラー, フリツチエ, スペングラー, ジーロルド)		4:29.0
3.	ソ連 (クヴァルデイン, ゴロフセンコ, ストルザノフ, バランデイン)		4:29.3
4.	チェツコ (バンク, ブルバ, サムエル, テアク)		4:31.4
5.	波 (サンバラ, クロボトウスキー, ラシン, スキー, モロツコウスキー)		4:33.4
6.	羅 (モンデュー, ヘイツ, ボベスコ, ベツク)		4:36.1
7.	中共 (クジンク, サンスン, テイエンハス, リー)		4:37.9

### 400 リレー

1.	洪 (カルパテイ, ドモトール, ザボルスキー, ニエキ)		8:48.6
2.	ソ連 (スコモロフスキー, ソローキン, アボヴィアン, ベロデイエド)		8:45.0
3.	東独 (リーチ, スペングラー, ジーヴオラ, ゴットフリード)		8:55.0
4.	波 (プチャラ, モロツコウスキー, レウイツキー, トルカクゼウスキー)		9:03.8
5.	チェツコ (バツラ, デアク, ヘイル, スメルダ)		9:09.8
6.	中共 (リー, ヴァゼン, シシン, ヴインク)		9:15.0

### 女子

#### 100 自由形

1.	ギエンゲ (洪)	1:06.0	1:06.7
2.	ソーケ (洪)	1:06.9	1:07.3
3.	ギエルギヤク (洪)	1:08.3	1:08.8
4.	ウーゴヴァ (ソ連)	1:08.7	1:08.8
5.	スコピロヴァ (チェツコ)	1:09.3	1:10.1
6.	マルコヴァ (チェツコ)	1:10.0	1:10.6

7.	リゾヴオヴァ (ソ連)	1:10.0	1:10.6
8.	ブコヴスカヤ (ソ連)	1:10.0	1:10.7
	ジェルコヴァ (波)		1:10.8

### 400 自由形

1.	ギエンゲ (洪)	5:12.0	5:27.8
2.	セツケリー (洪)	5:14.0	5:47.3
3.	セボー (洪)	5:18.5	5:28.3
4.	マルコ (チェツコ)	5:19.0	5:32.8
5.	プラトノヴァ (羅)	5:45.2	5:48.0
6.	タエゲオヴァ (東独)	5:45.6	5:46.3
7.	クレテコヴァ (波)	5:57.4	5:50.3
8.	パヴロヴオヴァ (ソ連)		5:48.5

### 200 平泳

1.	セツケリー (洪)	2:55.1	2:57.2
2.	ヘレシコ (チェツコ)	3:00.1	3:03.6
3.	ゴルドン (英)	3:00.4	3:02.9
4.	バルト (東独)	3:00.7	3:02.6
5.	ギーセル (東独)	3:01.1	3:00.3
6.	ゼラグリコ (波)	3:01.9	3:00.5
7.	エルセン (東独)	3:02.0	3:03.5
8.	カルパテイ (洪)	3:04.3	3:02.8
	プロチョーニコ (波)		3:04.4

### 100 バタフライ

1.	セツケリー (洪)	1:15.6	1:19.4
2.	ランゲオウ (東独)	1:16.6	1:21.0
3.	リトメリツク (洪)	1:18.8	1:19.3
4.	スコピロ (チェツコ)	1:18.8	1:19.3
5.	クレミンスカ (波)	1:20.9	1:19.5
6.	スプロ (チェツコ)	1:20.9	1:21.0
7.	グリツチイ (波)	1:23.2	1:23.0
8.	ガリアイ (洪)	1:23.2	1:23.0
	ラデマツヘル (東独)		1:23.6

### 100 背泳

1.	パヨロ (洪)	1:15.9	1:16.6
2.	シュナイダー (東独)	1:16.7	1:17.9
3.	ツオツオ (洪)	1:17.7	1:19.0
4.	モスイビノヴァ (ソ連)	1:18.1	1:19.6
5.	オレニク (波)	1:19.0	1:18.9
6.	ミルニキール (波)	1:20.3	1:20.4
7.	フィルダー (東独)	1:20.3	1:20.4
8.	スパール (チェツコ)	1:23.4	1:22.4
	ウイスニオウスカ (波)		1:23.7
	ボス (羅)		1:22.5

### 400 リレー

1.	洪 (セツケリー, ギエルギヤク, ソーケ, ギエンゲ)		4:33.4
2.	ソ連 (パヴロヴオヴァ, ニーリドヴオヴァ, リゾヴオヴァ, アルウイオヴァ)		4:39.4
3.	東独 (ステフィン, クナスト, ロス, ムツセル)		4:48.1
4.	波 (ミルニキール, セドル, クレミンスカ, スルコヴァ)		4:49.9

### 400 メドレーリレー

1.	洪 (パヨロ, セツケリー, リトメリツク, ソーケ)		5:06.6
2.	東独 (シュナイダー, ギーセル, ランゲナウ, ステフィン)		5:08.5
3.	チェツ (スパール, ヘレシコ, コ, スコピロ, マルコ)		5:14.8
4.	波 (オレニク, グリコ, クレミンスカ, ミルニキール)		5:16.2

# スモル氏の

# 水○○○球○○○解○○○説

和田 幸一、金子 魏 共 編  
鵜田 武、安藤 実

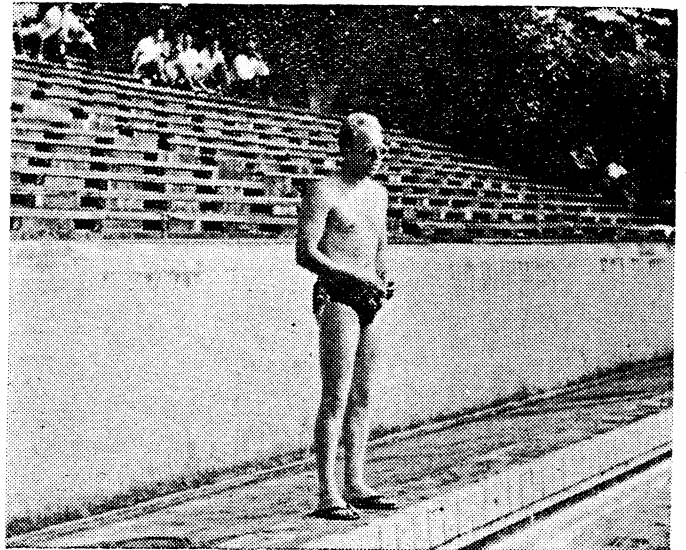
今夏八月下旬オランダ KLM の Smol 氏のコーチを受けた。彼はヨーロッパに於てはAクラスのオランダ、ナショナル、チームに選出され、戦後二度のオリンピックに FW として出場している優秀なるプレーヤーであり、幸に身体が5尺7寸、17貫で日本人の体格と等々均しい Smol 氏がオランダチームのゴール、ゲッターであるということは我々に大きな力を与えてくれた。そこでその域に達する為には我々は数多い合同練習の機会を作る事が望まれるのである。併しそこ迄進めるには水球関係者が如何にこの練習に依る成果を有効に伸して行くか今後の宿題であると共に、日本の現状として高校、大学チームの監督、コーチがこの練習方法をうまく採用実施して貰い度次第である。

練習に参加せる選手は菅原、田久保、高木、水垣、大島、小野、沢村、安達、宮部(日大)、笹島、田口、松永、浅沼、武内(中大)、佐藤、荒川、山本、広瀬(慶大)、井原、平井(立大)、田中、加藤、田代(早大)、高橋(学習院)、阿部(成城)の25名、Smol 氏のアツシスタントとして和田、鵜田、金子、安藤の水球委員が担当した。練習期間は8月25日より8月末日迄一週間、毎日2時より6時迄4時間、神宮、日大プールにて実施した。

さて、コーチして貰った結果、次の通りの事が判明した。即ち、今後の練習の仕方について充分学ぶ事が出来たし、又その反面戦後の選手層が基本練習に重点をおくべきであると同時にチームの基本が疎かになり、いたづらに既成の方向をたどつていた事を胆に銘じて頂きたい。

オランダに於ては各クラブチームが年間50~100試合しているのに、日本のAクラスチームで約20試合しか行つてない状況をもつと選手並に関係者の力に依つて試合数を増す事を努力せねばならない。

又ヨーロッパの戦術を聞き得た事に依り(大体我々の考へ、方向と差もなく)ここにはつきりと練習の目標も定まり、次のアジア大会、世界学生大会、ローマオリンピックを目指し再出発の意を固めた次第である。



## 現在のヨーロッパ各国の水球戦術

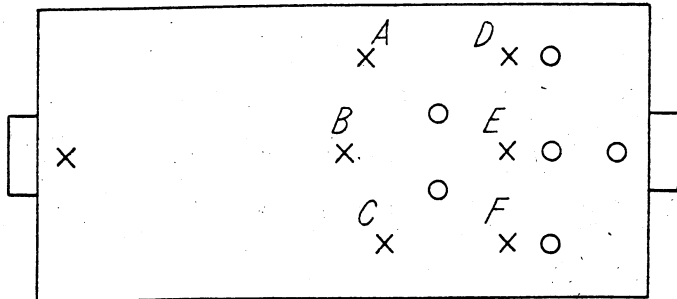
Smol 氏は簡単乍ら次の如く云つております。

- (1) FWは相手(特にCB)をFWのシュート圏外に引出し、その空いた場所に他のFW、HBが突込み得点を狙う(CBはどのチームに於ても一番泳ぎがあり、身体も大きく、そのCBがいる時は得点のチャンスがないとみななければならない)
- (2) FBは相手FWをシュート圏外に引出し、敵FWにシュートのチャンスを与えないとともに、特に敵ボールでも引出されて、ゴール前に戻つてくる迄には他のウイングFW丈で防禦側からみれば危険率も少く、又その間、時間をかせぐ事になる。
- (3) 以上は原則ではあるが、その裏をかいて、ゴール、ゲッターのFWが最初FBに位置し、相手FWを引出して、その儘にすわる事もある。
- (4) 以上からして、選手はどこかのポジションを充分にこなせる、オール、ラウンダーでなければならない。
- (5) 防禦は原則としてマン、ツー、マンである。その要素は攻撃の時は相手方より離れ、防禦の時はペツタリと付く事。



(6) 一名退水の場合の防禦

- a. 原則としてマン、ツー、マン。
- b. ゾーンをする場合  
ゴール前のFWに対してはマン、ツー、マン。  
あとの中盤3人に対しては2人でゾーンで防禦する。



(7) 上記(6)b項の場合で防禦側がインターセプト等で球を得た時の攻撃方法は、

一度GKに返球、GKは左、右どちらかのサイドに泳いで行く、すると敵の一人がGKの処にアタックに来る。するとその1人の為他は5人対5人の対となりその時を利用して直ちに攻撃を始める。

(8) 上記(6)b項の場合で得点の方法は

A, C間でパスをくりかえし、チャンスを見てBにパス、Bがシュートする。(D, E, FのFWはFBにべつたりマークされている為、余程のチャンスのない限り得点し得ず)

Smol氏がコーチした基礎練習の細目

(1) 柔軟体操

日本選手が従来行っている体操で差支えない。

(2) ウォームアップ、アツプ

約5分

(3) ラウンド、パス (4名一組)以下全部ハンド、ツー、ハンドの事

- a. 右廻り 高いパス、体を高く出す事。
- d. 前項aの反対、左廻り。
- c. 左手でパスを受け、右手に渡し、右手で次の者にパス。
- b. 左手でパスを受け、左手で次の者にパス。
- c. 右手でパスを受け、パスを受けたまま(身体を出したままで)で一廻転して次の者にパス。
- f. 右手でパスを受け、左右両手で球を数回パスして、次の者にパス(左右両手で交互にパスする時は、両手をひろげてする事、又身体が沈まない様努力する事)

ない様努力する事)

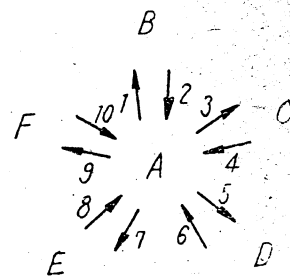
g. 対面の動きを入れたパス

- A 球はA-B-C-Dと廻し、B又はDが球を受けた時A, Cがクロスし
- D ↑ ↓ B パスを受ける。クロスしている間はB-Dでパスを反復する。次はB-C
- C ↓ ↑ Dがクロスし、これを反復続ける。



(4) 身体の廻転と対面パス (6名一組)

ハンド、ツー、ハンドの事

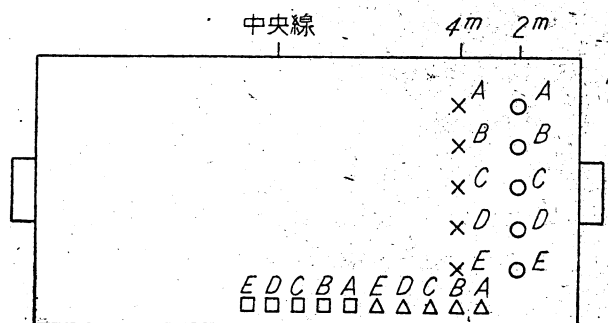


左図の如く1名中に入り、A-B-A-C-A-D-A-E-A-F-Aとパスを約4,5回くりかえし、次にBが中に入り順

次Fまで行う。

次にA-B間に対面パスを3,4回くりかえし、次にA-Cと……A-Fまで行い、順次前と同様Fまで中に入つて行う。

(5) 5名一組の対面パス



- a. 一組Oは2米線上に他の一組Xは4米線上に並び向い合つたO<sup>A</sup>-X<sup>A</sup>~O<sup>B</sup>-X<sup>B</sup>がハンド、ツー、ハンドの対面パス。
- b. 次にX<sup>A</sup>~X<sup>B</sup>は後退しながら(背泳のバタ足だけで後退)対面パス、中央線迄後退したら、次は又前に進み乍らパスの練習。
- c. 次に又もとの4米線上にもどり、左右両手交互のパス。
- d. 次にX<sup>A</sup>-X<sup>B</sup>はダツシュして前進O<sup>A</sup>-O<sup>B</sup>は泳いで行くX<sup>A</sup>-X<sup>B</sup>の前にパス、X<sup>A</sup>-X<sup>B</sup>は球は取り、ヒツクリ返りでパスを戻す。
- e. 以上でX<sup>A</sup>-X<sup>B</sup>は□<sup>A</sup>-□<sup>B</sup>の位置に行き△<sup>A</sup>-△<sup>B</sup>はO<sup>A</sup>-O<sup>B</sup>の位置に行き、前項a-bの練習をくりかえす。

(6) ドリブル、パス (5名一組)

5名が並んでドリブル、パスを行う、但し左側の者にパスをする時は左手を使う事。

(7) a. 全員のラウンド、パス

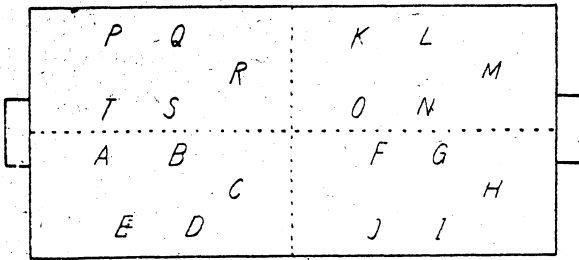
プール一杯に並び、5,6球を使用、特に球が次から次へとくるから注意力をつける。

b. 泳ぎ乍ら前の者の前にパス。

c. a, b項の逆廻り。

d. 前項 a. b. c. は非常に心身疲れる為、そのあとに、スタンディング、ラウンド、パスを行う。

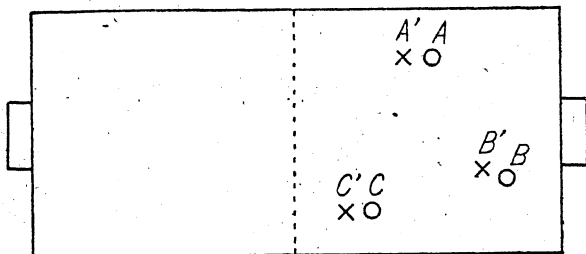
(8) a. 変型ラウンド、パス (5名一組)



プールを四分し、一組とA B C D E ラウンド、パスを行う。

b. 次に A. B. C. D. E はいりみだれて自由に泳ぎ廻る、但しパスはa項の通り、必ずA. B. C. D. Eの順にパスを行う。時に依つては人数を加える。

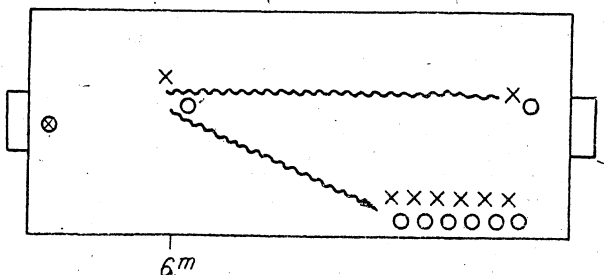
(9) マーク付のパス (6名一組)



図の通り×A. B. C.のFW一組と○A', B', C'のFB一組よりなる最初FWの×が自由に泳ぎ乍らパスをくりかえす。パスはFW同志の動きを見て何処へでも差支えない。

○は夫々×をマークする。○が球をうばつたら○同志でパスを行う、その時は×がマークする。

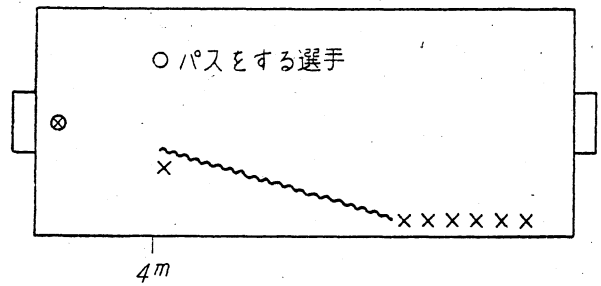
(10) a. ドリブル、シュート



×がドリブルし、6米線上でシュート。シュート後は直ちに矢印の方向に同じダツシュして帰る。○は×の脇について行くがアタックはしない。一通り終れば次は○がシュートの側にまわる。

b. 前項と同じ方法で4米線上でバツシュ、シュート。

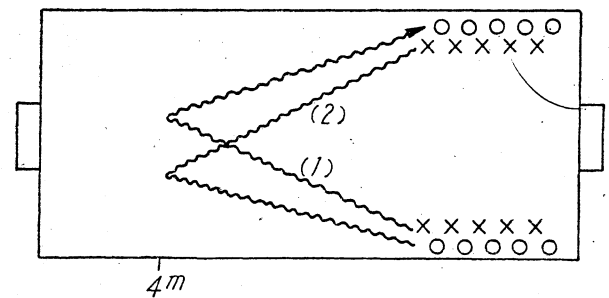
c. ドリブルでパスを受けてのシュート



1名ずつゴールの左ポストを目標にダツシュし、4米線上で○よりパスを受けてシュート。

○は×が4米線上にきた時、右手を水より抜き空中にあげた時パスする事。(タイミングに注意する事) ×はパスを受ける時は止らずダツシュのままでシュート、シュート後は前項と同様ダツシュして元の位置に戻る。

d. ×がドリブル、○がマークに付く、最初は(1)

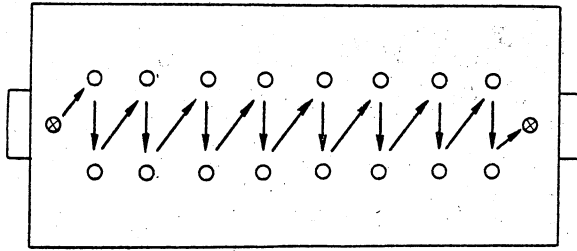


の〜線の様にゴールの右ポストに向いドリブルし、4米線上でシュート、シュート後は反対サイドに向いダツシュして帰る。一通り終ると反対側より左ポストに向い4米線で1回転してシュート、シュート後は旧の位置にダツシュして帰る、次に○がシュートする様にする。

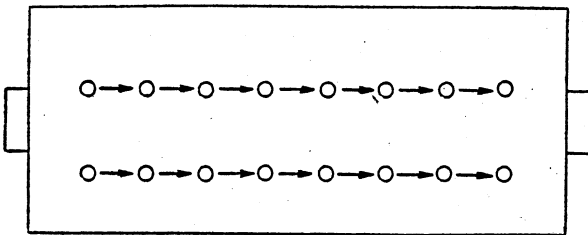
e. 前項と同方法で4線上でバツク、シュートする。

特にドリブル、シュート後は直に身体を返し、ダツシュする事は、シュートして得点になるか、或はに止められて、敵ボールになるかで、その場合はすぐ敵の攻撃が始まるので、身体の返し、ダツシュは習慣となる様注意する事。

(11)

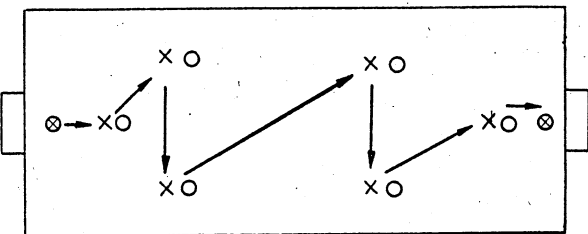


a. 全員がゴール、ポストの線上に二列に並びG.Kより矢印の様にハンド、ツー、ハンドでパスを行い最後の者がシュート。球は5.6個使い次から次へと行う事。球が全部相手方ゴールに渡つたら逆に行う。

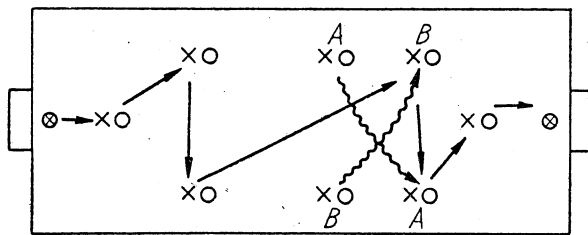


b. 図の様に二列に並び矢印の様にパスをする。之は練習とともに二列の競争にもなり、興味がある。

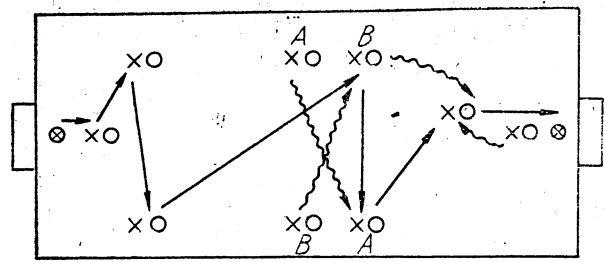
(12) 試合前、又は他処のプールで試合のある時にプールの大きさやパスの練習になる方法。



a. 2組のチームを作り図の様に位置し、矢印の様にG.Kからパスし最後の者がシュートする。球は沢山使用して行く。特にパスはハンド、ツー、ハンドで落したらやり直しさせる。球が全部相手方G.Kに渡つたら逆に行う。



b. 前項と同じであるがFWのA、Bがクロスし、パスは前と同様に行う。  
(特にクロスする時期とパスをするタイミングに注意する事)

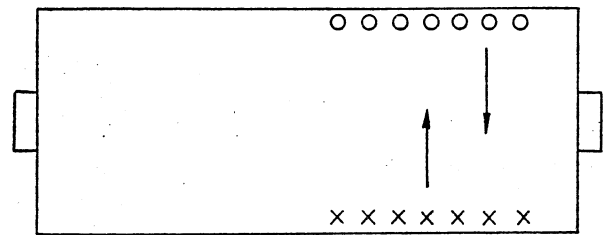


c. 前項と同様クロスし、CFが少し戻つてパスを受けシュート、その場合FW、BはCFの位置が空いたのでそこへ突込む事。

(13) ヒツクリ返り

従来日本でも行っている笛の合図にて身体をヒツクリ返るもの、但しとなり同志の間隔をせよめ、狭い場所で短時間にターンする事。

(14) a. ダツシュ



プールの両サイドに向き合つて位置し、ダツシュする、途中向い側の者にぶつかるから顔をあげてよく見て泳ぐ事。となり同志の間隔は狭くする事。

b. 往はゆつくり、帰りはダツシュを数回くりかへす。

(15) 泳ぎ約5分

以上が Smol 氏の練習方法をそのままそつくり記したのである。此々で吾々はこの練習方法を再度研究し、この貴重な機会をはつきりと体の中にもものしかなければならない、そして次にのべる事は前々から機会あるごとにのべてはいるが、一日も早く実行せねばならぬ事をはつきり確認したのである。

1. 試合中のボールワークは動いてパスを受け、動きながら投げ、投げた後も必ず動く即スタートは動いている所から始まる、停止していてスタートするのでない、という事である。

2. 全てのプレーヤーはオールラウンダーになる事、ここ一年頃からこの傾向は幾分行われ始めてはいるが、もつとはつきりしたものが試合に出てこなければならぬ。

以上の2項は不可分のものでこれが今後のチームとして基本になると云う事である。そしてここから色々の高等戦術が生れ、国際チームとして又国際チームに飛躍する唯一の道である。

最後に熱意あふれるコーチして頂いた Smol 氏と同社東京支社の今井氏が連日吾々の為に尽して頂いた事に厚く御礼を申上げて報告を終わります。

# シンクロへの歩み

濱寺水練学校

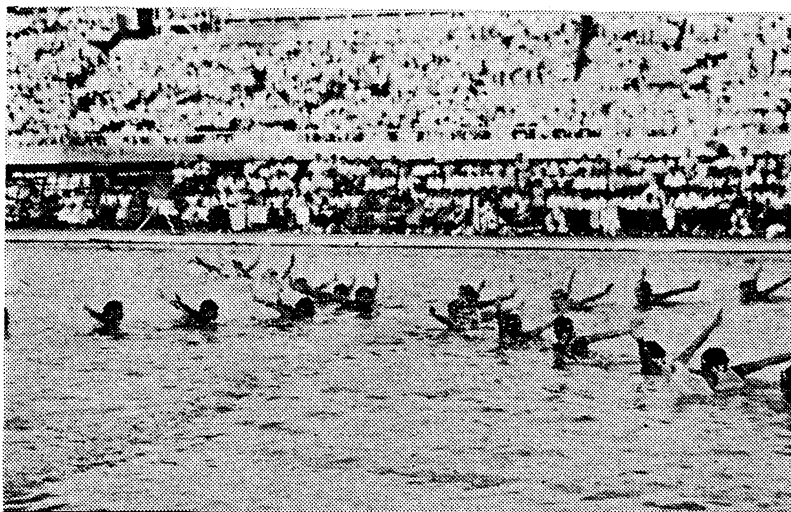
高橋清彦

昭和25年の第三回日米対抗水上大阪大会に従来の浜寺水練学校の楽水群像を完全に音楽に合つたものとして出す案が出た。高石さんの意見では、外国では競技の間にこの種のもが行われているから日本として恥かしくない立派なものを作りあげてほしいとの事であり、当時大阪プールが建築中で高石プールと言われた程高石さんの熱の入れ方は一通りでなく、森さんも張り切つておられたし、すべてがプール完成と日米大会えとのあの緊張した雰囲気の中で5月から猛練習を初めた。練習を初める前に外国で、どの様に行われているか知りたいのだが関西支部の方々も実際にそこまで知らないし、出入りの洋書屋で文献をあさる一方注文をして見たが、結局外国の真似をした所で僅か数ヶ月で立派なもの出来る筈がないと、浜寺水練学校は幸なことに明治の創立以来から一流一派に拘泥せず広く比較研究をして来たので教課目にもあり日本泳法としての種類には事欠かないからそれ等を組合せて構成を決定してから新しくそれに対して作曲をして当日は音楽団の演奏によつて演技を行うという大きな計画を立てたわけである。幸い前述の様な雰囲気毎日30余名が練

習に出てくれ皆の技術の向上と共に構成上も新しいアイデアが生れ種々の障碍はあつたが、初の国際大会でもあるので各方面の援助も得られ、作曲も終り当日は大阪市音楽団の演奏で無事演技を行う事が出来たのであるが、その大会一週間前に注文した洋書の内シンクロが競技として記載されているのを見た時には全く驚いてしまつた。大急ぎで現役学生連中と翻訳を終え大会終了直後から練習に入つたが、あのルールブックの図だけでは到底こなせるわけはなく、実の所案外つまらないものだとして失望せざるを得なかつた。

そこで翌年からは寧ろ日本泳法をシンクロの中に取り入れるべく練習を初めたが、本当の意味のシンクロには日本泳法は中々応用出来なくて、シンクロがウオーターバレーといわれた様に音楽と共に発達して来たバレーの型が入つていたのであるから、あの殆んど水中ばかりの動作も当然の結果だと人にも話す様になつた、所が28年頃になると実際に練習している連中が音楽に対する勘がよくなつたのか、音楽で日本泳法をこなす様になつてきたので、これはアメリカのルールブックに多くのスタッツを加える

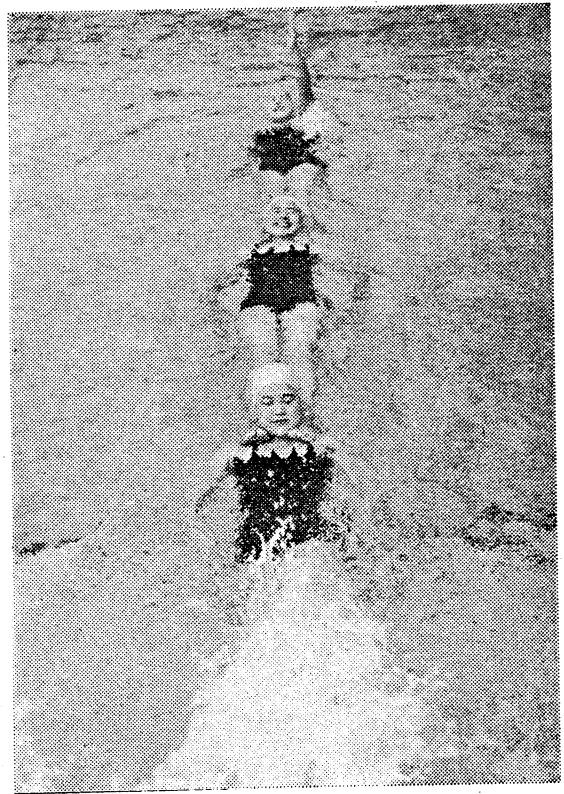
事が出来るとうぬぼれてしまつたのである。翌29年の7月に大阪に来られた藤田理事長さんから突然電話があり、シンクロが東京で公開されるので楽水のメンバーが上京出来ないだろうかと急なお話で費用の点もあり、とに角5名をつれて上京する事にしたがアメリカのシンクロの協会長のノーマ・オルセン女史が来られたので、これはメツセージを持参せねばと思ひ前述の様な心境にあつた関係でシンクロの中に日本泳法から判定上も好都合な水面の動作である数多くのスタッツを導入出来ること、次いで審判上の種々の疑点及び昨年度とのルール



楽水群像

の比較等を書いた。このメッセージは協会長のオルセン女史に関西で大いに練習しているかの如く思わせ、大いに驚かす結果となつてしまつた。逆に泳ぎを見た我々はシンクロを成る程と感心して帰つたわけである。実際に泳ぎ方を知ると今までルールブックで苦心していたので8月からの練習でこの年の天理の国体にAAUの規定に合つたものを初めて出せたわけである。以上が今までの経過であるが、私が敢て原稿をお引き受けしたのは日本のシンクロが今大切な分岐点に立っていると考えるからである。

それはアメリカのあの立派な演技を初めて見てその美しさからシンクロに入られる方が多いと思われる。勿論それも当然の経過であろうが現状は国際競技としてオリンピックにも取り入れられる趨勢にあるのだから単にショーとして考えて進まれる方が多ければ日本のシンクロもそのまま終つてしまうであろう。現にその危険がもう走つていると感ぜられるのである。その点串田さんが昨年以來FINAのルールその他を広く比較研究され、競技として正しく発展する為苦心されていられる様に日本の規則としては初めは規定種目を矢張り設ける事を提案したい。これは初の競技として当然起るであろう審判員のトラブルを少なくするし目標が出来るので練習し易いから現状として大切である。普及の点でも有利であり、それ等をこなす事によつて日本のレベルが上つてから次の段階に進むべきであの完成されたともいえる美しいアメリカの演技をぼんと思せられ世界



の現状が Aquatic Art の方向だからといつて、今の日本の現状から一足飛びに理想を追えば必ず混乱が来ると思われる。終りにシンクロの練習に際し、25年当時に示された高石さんの卓見と関西支部の方々御援助、特に絶えず新しい文献を紹介して下さる木村象雷さんに、又内輪ながら浜寺の中尾師範仁田理事その他の方々御理解に対して厚く感謝致します。(元日本医大平泳、大阪水泳協会理事)

## スポーツ競技としての

## シンクロについて

串 田 正 夫

本年の日米対抗水上競技大会における米国シンクロナイズド・スウイミング・チームのエキジビションを通して、その全容が全国的に紹介され、あまねくその関心を高めたことは誠に喜ばしい限りである。また、国民体育大会において、東京女子クラブ及び水泳研修会の人達によつて、一応のシンクロナイズド・スウイミングの形式を踏んで演技が行われ、

吾々に明るい見通しと将来への自信を持ち得るまでの出来栄を見せたことは大きな収穫であつた。大阪の浜寺水練学校では既に数年前から手掛け、本年になつて一段の進境を見せているし、その他二、三の県でも始めたと聞いている。この機運を逃さず軌道に乗せる組織的振興方策が講じられてよいのではなからうか、シンクロナイズド・スウイミングの研

究、指導、普及体制の確立が是非必要である、その上でルール制定し、ハンドブックの作成配付、これによる講習会の開催、出来れば競技会を開くまでもつて行きたいものである。

何も功を急ぐ意味でなく、私の懸念するのは、まとまつた動きの中に普及を図るようにしないと、指導方針に齟齬を来す恐れがないといえないからである。スポーツとしてのシンクロナイズド・スウイミングを普及させるには、その立場をしつかり堅持して当らなければならない、勿論国際的な動きに歩調を合せることはいうまでもないことであるが、国際的に最も影響力を持つアメリカにおいて、スポーツとしてシンクロナイズド・スウイミングのルールをめぐる数年来論議されていることである、その論争の焦点は、スポーツとしての必要条件即ち出来るだけ公平な条件下に競技を行うことにウエイトを置くか、芸術的要件即ち表現の自由にウエイトを置くかによつて必然的にルールの規定内容も変つて来る訳で、その本質的な考え方の相違に基因するものである。この競技がショーとしてデビューした水中バレーから発展したものだけに、この論争は宿命的なものといえよう。米国において最近はずきりした二つの方向が示されたことを紹介し参考に供したいと思う。

それは、スポーツであるからには、当然の結果として、出来るだけ公平な条件下に競技が行われることが先決問題で、その為には演技構成にあつて5種目程度の難易率を定めた規定種目を入れることは止むを得ないという立場、現在AAUのルールを制定した人達の動きであり、他は、5種目の規定種目を入れることは、この競技に必要な創造性といつた芸術的要素を非常に制限を加えることになり、音楽、衣裳、テーマこそ違え、水中における演技構成にあつて、得点を有利にするために自然に難易率の高い規定種目を選択し組み入れることになり、その結果として形式化、格一化は免れない、これはけつしてシンクロナイズド・スウイミングを発達させるものではなく、ルールによつて表現の自由を拘束すべきではないというのがその反対の立場をとる人達の意見である。

前者を支持する人達は現在のアメリカのルールをそのまま国際ルールにもつて行こうとしているし、又事実FINAのルールもその方向に改正される模様である。後者の立場をとる人達は現在のFINA

のルールを支持している。

こういつた事情を反映してか本年8月にI.A.A.A. (The International Academy of Aquatic Art) という芸術的育成を目的とする組織が誕生している。この組織の綱領は①芸術としての可能性の探究②芸術としてのシンクロナイズド・スウイミングの研究指導協力体制の確立③芸術としてのシンクロナイズド・スウイミングの振興普及以上3つをあげ、芸術への挑戦を標榜している。

はずきりと芸術を追究する組織が出来ることによつて返つてスポーツとしての行き方が確立されることにでもなれば幸いである。とに角、われわれとして例えば、体操競技において自由徒手とモダンバレーとを一緒にして競技を行うとするような愚かさは避けねばならない。したがつて競技する場合に審判方針と演技者の考え方が一致していなければ競技は成り立たない、このことがこの競技においては最も肝心な点である。ルールの規定のし方如何によつて自然指導方針も決定される訳であるが、スポーツ競技としての立場をとる限りにおいて、審判に客観性をもたせるよう工夫されるのは当然で、規定種目を設ける等内容の規格化は止むを得ない。まだ基本技の習得も充分でない現在においては、見た目の面白さは多少犠牲にしても、技術の豊かさ、正確さ等に重点を置き競技を進めるようにしたい。

しかし、やつと芽ばえを見せたばかりの現段階において、シンクロ競技の規程を制定するとか、競技会を開くとかいうことは、時期尚早の感が無いでもないが、既に相当の域に達している人達に練習の目標と、お互に比較研究する機会とを与えることは技術的進歩のために是非必要であり、また、競技会を通じてでなければスポーツとしての性格を明確にすることが出来ないし、後進のためにも今のうちにその進路をはつきりさせて置く意味においては、決して早くはないと思う。

色々議論はあるが、スポーツとして、特に、好適な女子競技種目の一つとして充分国際的発展性をもっている。国際水準に達するためには相当の努力と期間を用するであろうが、頭初考えた程至難な業ではない、予期以上の速さで追付けるのではないかと思つている、それには生長しやすい環境を整えてやる思いやりが欲しい。傍観的でなく一日も早く本格的な普及方策が講じられることを切望するとともに大方の賛意を得たい。

# 指導者講習会と検定試験に就いて

多 治 見 祐 孝

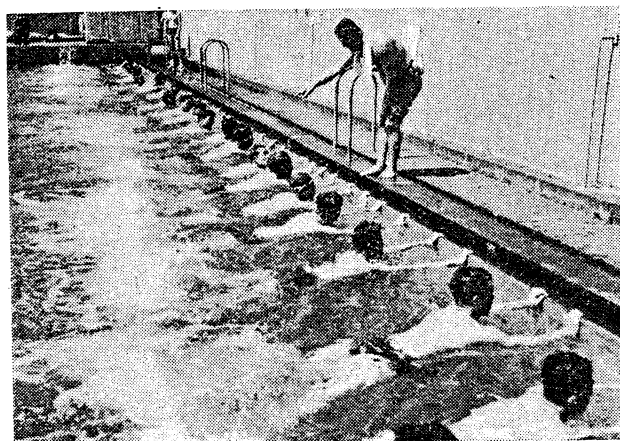
日本水泳連盟に於てはまだまだ多くの事件を耳にしておりますが、普及部に於ては毎年水泳指導者の養成を目的として指導者講習会を実施していますが、昨年度よりこれと平行して文部省に於ては水泳の指導者を養成することに力を入れ、今後毎年これを行い、この講習会の課程を終了した教職員に対して学校体育の実技一単位を与えることとなり講習会参加者は大いなる特典をもつことになりました。

日本水泳連盟はこの文部省の方針に対し全面的に賛成すると同時にこの講習会日程の終りに検定試験を行い合格した者に対しては同時に水泳指導者資格証を附与するので指導者としては非常に有利な立場となります。小中高等学校の先生方を対象として行われますがシーズンの初めに水に対する多くの知識と経験を豊富にし、これが実務に直接関係を持つこととなりますので講習会への参加は最も必要なことであると考えます。今年も去る6月20日より一週間に亘り昨年同様講習会を下記要項により実施致しました。

## 要 項

1. 主 催 文部省, 日本水泳連盟, 東京教育大学
2. 期 日 昭和30年6月20日(月)~26日(日)
3. 会 場 東京都神田一ツ橋 国民体育館プール
4. 参加資格 教育委員会(県)の推薦による者3名以内(男女を問わない)
5. 申込方法 都道府県教育委員会ごとに参加者をまとめ6月18日までに文部省社会教育課宛申込むこと。
6. 参加上の注意 参加者は6月20日(月)午前9時国民体育館に集合すること。  
尚 宿舎斡旋希望者は申込の際 有無を通知すること。
7. 学校体育についての単位を修得しようとする者は必ず審査試験を受けなければならない。  
本年は第2回目であると共に本講習会に参加する

ことによつて体育の単位を得られることが原因であるためか参加者一同は実に真面目に然かも熱心に講習会を受けたため、終始誠に充実した立派な会を事故なく過し得たことは喜びにたえないものである。



“ひざを曲げないで、松沢講師の指導も中々厳しい”

上記の指導者講習会に引続き 昭和30年度水泳指導者検定試験委員協議会を神田国民体育館で6月25、26日実施したが、本年は参加者45名の多数に上り盛大なものであつた。

本協議会は全国参加加盟団体より推薦された水泳指導者に対し、特に中央に於て行なう検定試験の実状を見学すると共に新しい知識の指導を行い、地方に於て講習会を実施する時の自信と実力を養成するものである。

本年度参加の各地方試験委員各位はさすがに各地方より推薦された人々で、広く従来より水泳の指導にあたつている立派な実力を有している方々であつた。

毎年我国に於ては水による犠牲者が非常に多く、これがため全国に泣いている視、兄弟はどのくらいあるだろうか、吾々はこれ等の事故を出来る限り最少限に食止めたいことを念するのであるが、これのためには全国に立派な指導者を作り上げることが先決問題であるので、これからは毎年本協議会を実施し試験委員の実力をつけると共に地方にあつて指導者の養成を計り、事故を最少限にする様、特に希望するものである。

# 定例代議員会議事録

期 日 昭和30年7月23日 午前10時

場 所 東京 明治記念館

## 出席者

北海道水泳連盟	根上 博	
青森県水泳連盟	吉田正四郎	
岩手水泳協会	瀬川 政雄	木村 憲
宮城県水泳連盟	保谷 俊平	針生 三郎
山形県水泳連盟	新穂 八郎	
福島県水泳連盟	橋 登	斉藤重千代
茨城県水泳連盟	中山 利生	多治見祐孝
群馬県水泳連盟	池谷 君夫	小野 幸重
	島本 長一	
栃木県水泳協会	田中 武男	
千葉県水泳連盟	石井辰五郎	広崎格五郎
	松井 正一	
神奈川県水泳連盟	藤平 雅保	鈴木 悟郎
	増島栄治郎	石井 正雄
	服部 甚蔵	牧之島忠三
東京都水泳協会	勝村 肇	菊池 章
新潟県水泳協会	中田 猛	
野尻湖游泳協会	北村博三郎	西沢 達雄
	高橋庄之助	
松本水泳協会	小林 高志	
山梨水泳連盟	石沢 半一	寺田 忠雄
	小倉 一浩	
伊豆駿河湾游泳協会	太田 光雄	井原 一夫
	鈴木 勲	
浜名湾游泳協会	宮本 秀夫	鈴木 清蔵
	寛 精一郎	
豊橋水泳協会	白井 四良	清川 孝雄
愛知水泳連盟	社本 義信	志村 義久
石川県水泳協会	中田 周三	
三重水泳連盟	田村 正衛	小出 清彦
京都水泳協会	松本 治平	
大阪水泳協会	仁田順三郎	森 好雄
奈良県水泳連盟	重松 利生	神崎 保雄

	大奥 兵一	辻 豊彦
和歌山県水泳連盟	池田 岩夫	村山 修一
兵庫県水泳連盟	原 剛中	
琵琶湖水泳協会	広岡徳次郎	中野 太郎
	辻 花子	
広島県水泳連盟	木村 豊唯	遠藤伝右衛門
島根県水泳連盟	竹下 昭尚	
山口県水泳連盟	兼重 英作	
高知県水泳連盟	藤尾恒九郎	
福岡県水泳連盟	高木 恒夫	黒佐 年明
大分県水泳連盟	伊東喜久雄	
熊本県水泳協会	古閑 久子	田上 昌子

## 水連本部

田畑政治	藤田 明	小池礼三	伊藤謹平
後藤敬三	沢田武治	足立祐次	渡辺寛二郎
外山高一	山崎辰雄	宮畑虎彦	菊田保孝
斉藤武五郎	星 一雄	竹村地文雄	川田友之
小山賢之助	勝村幾之介	古橋広之進	
小川道郎	串田正夫	左近允正矩	小泉正延
岩佐道雄	西沢礼子	山賀みや子	山東初子
時任 巖	川島正之		

## 学生部会

小椋晃吉	川口友平	宇野恒孝	荻野 浩
岩井孝之	魚住英光	馬場 豊	斉藤利一

## 委任状提出団体

岡山県水泳連盟 沖縄水泳連盟

## 欠席団体

秋田県水泳連盟	埼玉県水泳連盟
静岡水泳協会	岐阜県水泳連盟
富山県水泳協会	福井県水泳協会
鳥取県水泳連盟	香川県水泳協会
愛媛県水泳連盟	徳島県水泳連盟
長崎県水泳連盟	佐賀県水泳協会
鹿児島県水泳協会	宮崎県水泳連盟



藤田理事長挨拶

## 報 告 事 項

1. 日米対抗及び地方大会準備状況 小池専務理事  
○日米対抗の準備はすでに賛助会員券の売上げ360万円及びNHK後援金500万円をもつて之に当てるので心配はない。  
○地方大会及び、大阪大会はNHKとの打合せもすでに完了して準備完了。  
○アメリカチームは7月28日来朝帝国ホテルに宿泊の予定。監督はキツパス氏、日本チームは神田山ノ上ホテルに合宿の予定、督監小池礼三、コーチ太田光雄、マネージャー古橋広之進、高知大会以後根上博が督監。
2. 外国関係 川田常務理事  
○イ、万国青年祭（ワルソー）の招待があつたがスケジュールの上から無理なので辞退  
ロ、ハワイのケオ仲間記念大会への招待も辞退  
ハ、ブラジルよりの招待辞退  
○FINA理事会が9月3日パリで開かれる予定。日本の主張する「バタフライ3名出場」が時期尚早と思われるので本年は不参加の予定。  
○メルボルン大会への水球出場の有無は来年5月迄に返事。  
○水球ルールの変更（105号「水泳」誌参照）  
藤田、小池氏より次のような補足説明があつた。  
○藤田氏バタフライ、プレストの各3名の参加は日本水連の念願であり先般来朝のブランデー氏に了解を求めが得られず来年の次回オリンピックはバタフライ、プレストを含めて3名のエントリーとなる。  
○小池氏一月代議員会で決定した本年度競技会要項では日米対抗大阪大会は東京大会に準じた競技規則をもつて行うとの事であつたが関西支部と打合せの結果  
イ 大阪大会は二日間とする。  
ロ 得点については5,3,2,1と決定。これはまだアメリカ側とは打合せがしてないがキツパス氏来朝しだい決定の筈。
3. 第23回日本高校大会 勝村常務理事（東京都案）  
○昨年と同じ要領で行う事を報告
4. 第6回勤労者大会の件 浜名湾游泳協会

準備状況についての報告あり

5. 第10回国体水泳大会 神奈川県水泳連盟  
鎌倉プールで開催される第10回国体水上についての報告あり
6. 春季合宿練習会 根上常務理事  
○大要は「水泳」誌106号に記載、  
○練習方針としては冬季合宿の小池コーチの方針を継承。その結果次の所感を報告。  
イ クイックターンの習得に努めたがレースとなると従来のターンをする者が多い。日常コーチする方々にこれを各選手に徹底させる様要望したい。  
ロ 且つての選手にくらべて体が小さくなつていられる様に思われる。中学生の層の強化を指導者に要望。  
ハ シーズンオフのトレーニングの励行を要望。
7. 地方強化講習会 小池専務理事  
関西地方は高石強化委員長に一任、巡回指導をした。本部からは小池、太田両氏をそれぞれ伊豆駿河湾、福島に指導派遣。
8. 水泳教室準備状況 小池専務理事  
7月21日～26日女子 26日～31日男子（於天理プール）男子には大学選手を助手として派遣。体操コーチとして吉田勝平氏
9. 全日本中学校水泳通信競技  
本年度より開催の通信競技についての報告あり。尙速報については朝日新聞社内に事務所を設け逐次各地よりの報告を集計する。参加県は43県、沖縄を含む。
10. 普及部関係 多治見理事  
指導者講習会6月20日～6日26日於国民体育館プール25、26日に指導者検定試験を実施、受験者70数名の内合格者42名、  
国民皆泳大会準備状況について報告。
11. スタート方法変更の件 小池専務理事  
本年度より行つている新スタート方法についての説明報告あり。  
福岡県水連高校よりスタートの際動作をの緩慢に行う者が他の者より有利になる場合があるから時間的制限をできないかとの質問あり。これに対し小池専務理事よりかかる場合は審判長が適当な注意をする事が望ましい。更に技術的に問題があれば競泳委員会で協議したい。尙この際注意されてもその者のファウルとはならないとの返答があ

つた。

### 12. 水球委員会 小川理事

イ FINAルールを日本でも採用する事を報告。

ロ 水連監修、時任氏著の水球指導書の刊行を報告。

### 13. 体協関係 藤田理事長

役員改選、会長東竜太郎氏、専務理事、田畑政治、東俊郎両氏、理事に水連より藤田氏が推選せられたが転任のため後任に根上氏が就任。

オリンピック派遣選手団委員会、ブランデー氏の来朝、オリンピック東京招待、国体等についての報告あり。

### 14. 「水泳」誌 川田編集委員長

○現在の発行状態についての報告あり更に一層の読者拡張を各団体に要望。

## 協 議 事 項

イ 中京商業に本年度二年に編入した沖縄の留学生を全国高校水上 出場を認められたいとの要望が愛知水連より出され、これに対し協議の結果沖縄は水連への加盟団体であり本来ならば 競技要項に準すべきものであるが特殊事情を考慮し前例にならぬようにし参加を認める事に賛成多数で可決。

ロ 第22回国体水上に関し鎌倉市当局より細部の補足説明あり。

ハ 事故防止のためプール設計の規準を定める要望が、瀬川岩手県水協理事よりあり。これに対し小

池専務理事は、普及部会施設委員会で協議し追って連絡する。

ニ 和歌山水連より中学校通信競技の試合種目、並びに出場制限が中体連のと違うから統一したいとの要望あり、田畑会長、小池専務理事より水連の基準によつてやつていただきたい。又中学校通信競技は本年度最初のものであり、今年是要項通りに行い支障ある場合は来年一月の代議員会で協議する。尚中学校間の連絡が不十分であるから連絡に留意されたいとの返答ありこれを諒承した。

ホ スタートの新しい方法について各競技者が予令で並ぶ位置がまちまちである。これによつて記録にも影響する場合があるので一米位前にラインを引き並ぶ位置を統一したら如何との質問あり。宮畑評議員、小池理事よりスタート台にいくつかの種類があるので一律にする事はできぬが今後の研究課題としたいとの返答があつた。

ヘ 通信競技大会各県優勝旗の帰属についての質問あり、田畑氏より返答あり、これを諒承。

ト 神奈川水連より次回勤労者水上開催の希望があつたが県民生部と連絡の上10月末日までに書面で提出されたしとの小池専務理事の返答あり。

チ 勤労者水上について二、三の質問があつたが了承。

リ 小池理事より役員異動並びに消息の報告あり。

ヌ 小池専務理事より日米対抗入場券について説明あり。

田畑会長閉会の辞。

(記録担当 川口 友平 荻野 浩)

## 編 輯 委 員

(イロハ順)

(◎印委員長)

伊藤 謹平	岩井 孝之	小川 道郎	◎川 田 友之
金田 平八郎	多治見 祐孝	高橋 静子	中 村 雅 明
上野 徳太郎	宇野 恒孝	串田 正夫	山 崎 末 義
藤田 明章	小池 礼三	小山 賢之助	三 枝 美 貴 子
菊池 章	島田 桃一郎	東山 充	鈴 木 祐 一

日本水泳連盟誌

水 泳

第 1 0 7 号

昭和30年11月25日 印刷  
昭和30年11月30日 発行

日本水泳連盟  
編集兼 藤 田 明  
発行人  
印刷所 株式会社 成島印刷所  
東京都中央区日本橋本石町3の4  
電話日本橋(24) 1701・6509・7082

頒布価格 1年分(年4回発行)  
郵送料共 300.00

東京都千代田区丸の内2-2  
丸ビル 722 区

発行並 日本水泳連盟  
申込所  
電話和田倉(20) 3090・4885番  
振替口座 東京 5178番

馬場の石の  
 石川啄木の宿  
 かにとらるるも

石川啄木由縁の宿

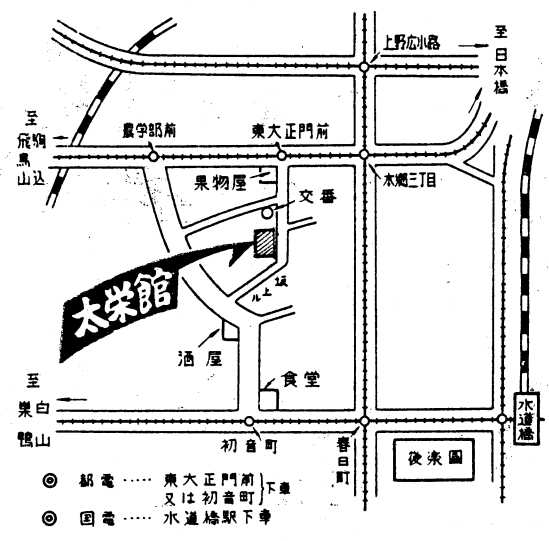


日本国有鉄道推薦旅館  
 東京都学生観光指定旅館  
 日本交通公社協定旅館

# 太栄館

東京都文京区森川町一一七  
 (東大正門前)  
 電話東京九三局一六八九・六二二六〇八

当館は東大正門前の高台に在り、文教の地としての伝統と、永い歴史は戦後もゆるぎなく、その名に、ふさわしい都内随一の環境に恵れております。収容力を誇る明るい衛生的施設と、家族的雰囲気は一度御試泊下されば充分御理解戴けるものと確信し御待ち申上げております。また当館は歌人石川啄木の若かりし頃止宿したゆかりの宿で有名でございます。



当館は水泳のオリンピック強化合宿等再三に亘つて御用命をいたしております。学生方の修学旅行、各競技の合宿等には特に勉強致して居ります。